



- 有恒会 (商・経・法・文・創 同窓会)
- 理学部同窓会
- 工学部同窓会
- 医学部同窓会
- 生活科学部同窓会
- よつば会 (看護系同窓会)

大阪市立大学 同窓会報

有恒

yuko

2021 July vol.22



初代同窓会長・伊庭貞剛翁 晩年の別荘「住友活機園」(住友林業株式会社 提供)

「大阪公立大学」開学特集第二弾

市大・府大同窓会長対談

大阪市立大学同窓会会長 岡本直之氏

大阪府立大学校友会会長 津戸正広氏

体育会系クラブOB会連合座談会



Run up to HANWA 2030
～いまを超える未知への挑戦～

 **HANWA**
阪和興業株式会社

目 次

巻頭グラビア	2
大阪公立大学 開学特集 第二弾	4
新大学にかける思い～同窓会の役割と使命～	
大阪市立大学同窓会会長 岡本直之	
大阪府立大学校友会会長 津戸正広	
市大注目教授 天尾 豊(人工光合成)、菅原真弓(浮世絵研究)	8
府大注目教授 林 晃敏(全固体電池)、大塚耕司(海洋環境学)	10
新大学開学に準備着々 ログ決定、感染症研究も	12
大阪・関西万博に出展目指す学生団体「Honaikude」	13
体育会系クラブOB会連合座談会(新大学対応)	14
特別インタビュー「ざっくばらん」 藤原書店社主 藤原良雄	18
市大偉人列伝 伊庭貞剛	20
市大出身の社長さん紹介 宇部三菱セメント 井本充彦	21
大阪医史蹟巡り ⑥ウイルスと戦った人たちⅡ 田中祐尾	22
ビジネスの最前線で活躍する先輩から後輩へ OBと学生の交流会	24
市大OB・OG紹介 ケイン樹里安が語る『ふれる社会学』	26
商学部の歴史(上) 経営学研究科・商学部教授 中瀬哲史	27
学園だより	28
大学ニュース	
新副学長・学科長の紹介/「創立140周年記念事業」は「ラストイチダイ事業」へ/140周年記念講堂竣工セレモニーと卒業式/令和3年度入学式/戦没学友の碑 献花の集い/大槌町への震災援助 市大病院に感謝状/全天候型グラウンドオープニング/カール・マルクス『資本論』Das Kapital 初版本/就職活動状況について/優勝!三大学留学生日本語スピーチコンテスト/公式キャラクター「杉本カメイチ」がメロンパンに/第8回地域連携発表会を開催/第6回日中大学学生文化交流展開催	
大阪市大病院における新型コロナウイルス対応について 柴田利彦(副院長)	
人の心を豊かにする表現者に ミスユニバーシティ日本大会に出場 平谷珠季(理4)	
市大の思い出	
廣山紗千(商)/安藤寛修(経)/西首龍真(法)/小林由紀彦(文)/小谷悠人(理)/岩崎 暖(工)/小無田友里(生)/古和田翔子(看)外谷有紗(看)藤田未来(看)	
クラブ紹介 国際交流団体OGM	
同窓会ニュース	38
有恒会定期総会と130周年記念式典開催/工学部同窓会第32回評議員会/理学部同窓会総会の開催/生活科学部創立70周年記念事業の開催/森井良雄氏、旭日単光章を受章/リモートで全国支部代表者会議を開催/ダイジェスト版「開学の祖 五代友厚小伝」の刊行/「有恒」のルーツ 有恒倶楽部のあゆみ/女性部会(WPC)ニュース/田中記念館に大阪市長賞作品を寄贈/大阪市立大学附属植物園に改名 植物相の過去と現在を体験	
論壇・随想	43
同期とのメール討論会/あおによし「なら旅」/環境・マルクス・私/創造都市研究科と空堀「にぎわい堂」、そして2つの“女子”同窓会	
同窓短信	46
鳥居貞義(商昭34卒)/鳥津泰治(商昭37卒)/山中恵子(生昭47卒)/桑名雄大(商平29卒)/木下千紗都(看平22卒)/大北日吉(医昭49卒)	
支部だより	48
リモートによる初の支部ブロック会議開催/奈良支部秋の見学会/支部一覧表	
会員のひろば	51
杉本クラブ/法友40会/ミニ語交会/落楽会/つらら会/みおぎ会/杉蹄会	
読者の声	54
甘田外成(経昭40卒)/北野博也(法昭43卒)	
読者の作品	55
頓花修二(商昭54卒)/矢橋潤一郎(経平6卒)	
同窓生の図書紹介	56
追悼のことば	60
事務局のお知らせ	62



新講堂竣工(学園だより:29ページ)



大阪市立大学 創立140周年 記念事業



記念展示室(学園だより:29ページ)



マルクス資本論の原本(学園だより:31ページ)



時計台1号館と全天候型グラウンド



キックオフセレモニー



吉田祐一氏



全天候型グラウンドの整備(学園だより:29ページ)



完成記念式典

有恒Vol.22 Topics



晴天に恵まれ久しぶりに華やかな雰囲気にもまれた卒業式
(学園だより:29ページ)



ミスユニバーシティ2020日本大会に出場し、笑顔を見せる平谷珠季さん(学園だより:34ページ)



「大阪から学生の本気、見せたるで!」。大阪・関西万博出展を目指す学生団体「Honaikude」(開学特集:13ページ)



コロナ禍の中、大阪市立大学最後の入学式(学園だより:30ページ)



日中大学学生文化交流展で展示された上海大学学生の力作「風月同天」(学園だより:32ページ)



阪神淡路大震災では避難所の臨時電話に、知人に安否を知らせるため多くの人が並んだ
(図書紹介:56ページ)



改修工事を終えた馬場で乗馬する馬術部員
(会員ひろば:53ページ)

大阪公立大学 開学特集

いよいよ来春開学、共に支える同窓会

大阪市立大学と大阪府立大学の統合新大学「大阪公立大学」の開学がいよいよ来年春に迫りました。我が国最大規模の公立大学として、世界大学ランキング200位を目指す大阪公立大学ですが、歴史と伝統ある両大学を支えてきた同窓会の役割も大きいと言わざるを得ません。そこで「開学特集第二弾」として大阪市立大学同窓会の岡本直之会長と大阪府立大学校友会の津戸正広会長に「新大学にかける思い～同窓会の役割と使命～」をテーマに語っていただくほか、両大学の世界に通じるプロフェッサーの紹介や新大学関連の情報を掲載します。

新大学にかける思い～同窓会の役割と使命～

大阪市立大学同窓会会長 岡本直之氏

大阪府立大学校友会会長 津戸正広氏

世界的に評価される大学に 高度なスーパー総合大学に

— まずは来春開学します新大学「大阪公立大学」に対する思い、期待をお聞かせください。

岡本 新大学では大阪に根ざした、大阪らしい魅力ある大学づくりに期待したい。今、少子化の時代に対応するため統合する大学が増えていますが、統合のお手本になってほしい。1プラス1が2ではなく3にも4にもなるような相乗効果、シナジー効果が発揮できれば、自然に優秀な研究者、学生が集まり、大阪の発展に貢献できます。

産官学の共同作業で我が国だけでなく世界的に評価され、貢献できる大学になってほしい。市大も実学、大阪の商業に役立つ大学としてスタートした。府大と相通じるものがあり両大学のいいところがぶつかり合い、いい意味で競争、競合し協調、発展していけると思っています。

津戸 もともと大きな総合大学である両大学が統合するという点で、量的にも質的にも高度なスーパー総合大学となると大きな期待を寄せたい。大学の関係者のみならず大阪府民も市民も関心が高く、期待感にあふれているといっても過言ではありません。

統合の方向性が明らかになった当初は、大学関係者の中では唐突感があり戸惑う気持ちがありましたが、道筋がはっきりしてくるにつれて、いい大学をつくろうという雰囲気になりました。特に森之宮に都心キャンパスが置かれることや両大学の得意分野が違うことで研究の幅が広がり、研究の質も深まることに対する期待感が高まっています。

— それではそれぞれが会長を務められている同窓会の歴史とご自身とのかかわりについてお聞かせください。

津戸 府大の同窓会にも市大と同様、長い歴史があります。当初は同じ教室で学んだ親しい仲間が集まる各学部、



「同窓会も統合しバージョンアップを図りたい」と語る岡本氏

各学科の単位同窓会で盛り上がっていましたが、その後、他の学部同窓会との協力、連携が必要となり自然発生的に単位同窓会の連絡会ができ、それが1998年に(旧)全学同窓会となり2009年には大学側の協力も得て(新)全学同窓会として校友会が誕生し、単位同窓会と全学同窓会が車の両輪となり順調に発展してきました。

私自身は市大経済学部卒業で府大大学院に入学してからずっと同窓会活動をしており、大学の35周年事業では同窓会も寄付活動に協力し学術交流会館の建設に貢献でき

地域に根ざし人知を結集、世界へ飛翔

ました。(旧)全学同窓会設立時から理事を務め、2011年から経済学部(当時)等の同窓会である陵友会の会長も務めさせていただいています。

岡本 私が全学同窓会とともに会長を兼務しています有恒会の歴史は古く、昨年創立130周年を迎えました。全国、海外の支部も50近くに及び同窓のメンバーがそれぞれ地域で大学支援と同窓同士の交流を深めています。

私が初めて同窓会活動に入れていただいたのは近鉄の役員の時、当時の近鉄百貨店の副社長をされていたゼミナールの先輩でもある江並一嘉さんから商学部の同窓会「商友会」にお誘いいただいたことがきっかけでした。尊敬する大先輩でしたので喜んでお引き受けしました。商友会で思い出深いことは、商学部、経済学部と一緒に主催し



「同窓会は応援団として大学のブランド力を高めていきたい」と語る津戸氏

ています実学を学ぶ商経講座です。市大OBの社会人で海外駐在の経験者や金融関係で活躍している人などを講師に招いて開催しており、現在も継続しています。

また、あまり知られていませんが大学創立者の五代友厚像の発案も商友会です。最初は学内にフオトスポットをと軽い気持ちでしたが、多くの皆様にご賛同いただき、大学と全学同窓会が協力して素晴らしい像を建立することができました。

同窓会もバージョンアップ 一体となって新大学を支援

一いよいよ来春、統合新大学「大阪公立大学」が開学します。同窓会としてどのような支援、貢献を果たしていくべきか、いかがでしょうか。

岡本 同窓会はあくまでも大学の応援団。応援団としての確かなアドバイスを大学、学生に送りたい。「象牙の塔」と実社会とのパイプラインのような役割を同窓会として担いたい。例えば今回のコロナ禍でその対処方法、過去の疫病対策の研究を大学が行い、それを社会に発信するのを応援することができればと思っています。

学生に対しては就職相談や経済的支援も一層強化したい。コロナ禍のピンチをチャンスと捉え、このような時こそ前向きに自主的に学生生活ができるようにアドバイスやサポートをすることが大事です。今回は全学同窓会などで総額約5000万円を学生に支援し、厳しい現状の中でも学べる環境づくりを手助けしました。

津戸 私も同窓会は強力な応援団になることが重要だと思います。大学そのものが活動したり業績を上げたりするのは教職員や学生の役割ですが、同窓会は応援団としてその大学の功績などを広め、ブランド力を高めることに貢献していくべきだと思います。

今の時代は大学とはいえ、勝ち残るためにはPRを強化していかなければなりません。それを応援するのが同窓会の大きな役割ではないでしょうか。大学と社会を繋ぐことがますます重要になってきています。両大学が統合することにより、他の強力な大学に負けない発信力とブランド力を培っていけることは間違いありません。それをぜひ同窓会として大いに支援していきたいと思っています。

—そのためには同窓会同士まとまり力合わせて新大学を支援し、同窓生同士の交流も図っていかなければならないと思いますが、いかがでしょうか。

津戸 新大学が発足するということは、これまでの同窓会も新大学に対応してより発展していかなければならないと思います。ただ、同窓会では一緒に勉強してきた仲間つながりが強いので統合となればどうしても見えない壁があるように思いますが、それを乗り越えるためにまず両大学の全学同窓会が統合に向けて努力しており、今、大きな山



を越えたという感じです。

そして単位同窓会同士の交流も深め協力関係を築いていくことが大事です。特に地域同窓会、支部においては両大学の同窓生が交流しやすく、活動を深めていけば大きな流れになるのではないかと思います。じっくりと時間をかけて実現していきたい。来春の新大学開学まであと1年。最後の1年、やるべきことはたくさんあります。私たち同窓会も両大学の皆さんもしっかりと取り組んでいけば素晴らしい大学になることは明らかです。

岡本 市大は1880年にできた大阪商業講習所、府大は1883年の獣医学講習所が源流でその差はわずか3年。その後幾多の歴史があり大阪商大から大阪市大になったのが1949年、浪速大学が府立大学になったのが1955年。この間、同窓会是有恒会の歴史は古いのですが、その名称になったのは1953年、府大の陵友会は1960年、全学同窓会の校友会ができたのは2009年、市大の全学同窓会ができたのが2012年です。

両大学は大学も同窓会も同じ時期にでき、同じような道を歩んできました。そして、百数十年の歴史を経て今日一緒になろうとしています。そう思えば感慨深く、できれば大学の統合に負けないように同窓会も統合しバージョンアップを図りたい。私の会社でも市大の卒業生は反抗心が強く自由闊達といわれるのに比べ、府大卒業生は非常に協調

性が高い人が多いといわれています。今回の統合ではぜひ府大卒業生の協力、協調する姿勢、気持ちといったことを学びたいと思います。

スケールメリットで200位実現 教育の質高め、有能な人材輩出

—新大学は世界大学ランキング200位を目指すとしています。ぜひ実現してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

岡本 学生数や学域、学部、研究科の数にしてもこの新大学のスケールメリットをきちんと活かしていけば十二分に達成可能と思っています。そして何より大阪の歴史を刻む上町台地の森之宮メインキャンパスに加え、杉本町、中百舌鳥、阿倍野などのキャンパスと条件がそろっています。達成できないわけがないと大いに期待しています。

津戸 私もスケールメリットをうまく活用すれば実現の可能性が高い目標だと思います。特に教育の質を高め、有能な人材を効率的に配置できれば、国際化の時代に先生方は海外で研究ができ、学生たちも留学できる。統合することに悪い材料が全くない。まさに大きなチャンスです。研究ランキングも高まるものと思っています。



新大学への思いや期待を語り合う岡本氏(左)と津戸氏

いよいよ来春開学、共に支える同窓会 地域に根ざし人知を結集、世界へ飛翔

開学特集 第二弾

— 新型コロナウイルスの感染拡大は予断を許しません。このような状況の中で勉学に励む学生のみなさんにメッセージをお願いします。

津戸 今は大学を退職しましたが非常勤講師として学生と接触しています。この1年オンライン授業ですが、学生は自分で目標を設定し、より積極的に授業に取り組んでいます。実習面ができないのがつらいところですが、新大学では医学、獣医学、看護学などの連携が高まるので健康福祉関連の社会的役割も大いに果たせます。一刻も早くいい環境で勉強できることを期待したい。

岡本 やはりコロナ禍をネガティブにではなく、前向きに捉え、こういう時こそいろんなことを学ぶチャンスだと学生の皆さんには考えてほしい。今まではじっと耐えてきましたが、これからは自ら学びたいと思う授業をオンラインで受けたり、いろんな人と積極的にコミュニケーションを図り自主性を高めていただきたい。難局に直面している時こそ、ぜひ自身の成長に生かしてほしいと思います。「勁草(けいそう)」になってほしいと祈念しています。

— ありがとうございます。

司会・文責 藤山純一(法昭51卒)



新大学支援を誓い握手する岡本氏(左)と津戸氏(いずれも大阪市立大学で)

【略歴】

岡本直之(おかもと・なおゆき)：1946年12月29日生まれ。70年大阪市立大学商学部卒業、近畿日本鉄道入社。2003年取締役秘書広報部など担当、07年取締役副社長、10年三重交通グループホールディングス取締役社長、16年から同取締役会長。18年大阪市立大学有恒会会長、20年同大学全学同窓会会長。19年まで津商工会議所会頭、三重県商工会議所連合会会長など歴任。

津戸正広(つと・まさひろ)：1948年5月22日生まれ。71年大阪市立大学経済学部卒業、73年大阪府立大学経済学研究科博士前期課程修了、76年同後期課程中退、大阪府立大学講師。93年同大学経済学部教授、98年同大学全学同窓会(校友会の前身)設立、理事に就任。2008年同大学経済学部長、11年同大学(経済学部)校友会会長、13年同大学退職、18年同大学校友会会長。



世界に通じるプロフェッサー

世界大学ランキング200位を目指す統合新大学「大阪公立大学」。日本からは現在200位以内に入っているのは東京大学と京都大学の2校のみ。教育や研究、論文被引用度、国際性などがランキングアップのカギとみられる中、大阪市立大学、大阪府立大学ではともに世界に通じるプロフェッサーが続々と誕生している。その第一弾をお届けしたい。

持続可能社会の実現に向けて 注目される人工光合成技術



大阪市立大学人工光合成センター所長
天尾 豊教授

その一人が植物の光合成の仕組みを人工的に再現し、実用化する研究に取り組んでいる大阪市立大学人工光合成センター所長の天尾豊教授(52)だ。光合成研究の第一人者で初代同センター所長の神谷信夫特別教授(68)はノーベル賞候補と見られているほか、天尾氏自身も2018年、化学研究の発展に顕著な貢献をしたとして歴史あるイギリス王立化学会フェローに選出された。25年の大阪・関西万博では研究成果を披露し、世界に発信する意向だ。

同センターは2013年に開所以来、光合成の仕組みを人工的に再現し、環境にやさしい新エネルギーの創出と実用化を目指して基礎研究、応用研究に取り組んでいる世界トップレベルの研究機関。16年には文部科学省から共同利用・共同研究拠点「人工光合成研究拠点」として認定され、大学や公的研究機関、産業界などにその研究成果を提供し共同利用、共同研究を促進している。

天尾氏が人工光合成研究に興味を持ったのは小学校の理科の授業の時だったという。植物は大気中の二酸化炭素と水、太陽などの光エネルギーを使って、酸素とブドウ糖を合成している。「私たちの身の回りには植物はこの光合成を繰り返して生命を維持しているわけで、水と光と二酸化炭素から有機物など別の物質が生まれるこの不思議な現象への驚きが研究者の道を拓いてくれた」と振り返る。

中・高校生の時には教科書に光合成が載っていて、水は水素が燃えたあと、二酸化炭素は炭水化物が燃えたあと、「燃えかすと燃えかずに光が当たるとブドウ糖と酸素ができることに感動した」ことが光合成研究への決め手となった。

人工光合成の考え方は二つあり、一つは天然の光合成の仕組みを学術的に解明して人工的に再現すること。もう一つは、水と二酸化炭素に光を当てることで別の物質が生まれる反応に着目して、水を分解して水素を獲得したり、二酸化炭素をメタノールやメタンなどの燃料に変え、産業

に結びつくような技術にしていこうというもので、これが同センター設立時の趣旨だったという。

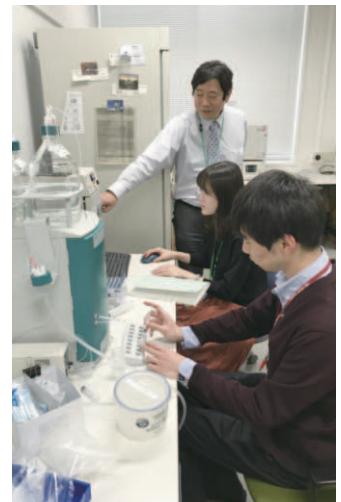
原料が二酸化炭素で、そこに光を当てているような仕組みを使い有用なものに変えていこうというのが人工光合成の原点。自身は20年前の大分大学時代から二酸化炭素からメタノールを作る研究を継続しており、今になってその論文が注目されるようになってきた。

関西万博では「人工光合成から取り出した電力を体感できるような、夢の技術ではなく実感してもらえるようなものを披露したい」と意気込む。昨年2月に住宅メーカーとの共同研究で取り組んでいる沖縄・宮古島に人工光合成技術を搭載した住宅実験棟が完成した。

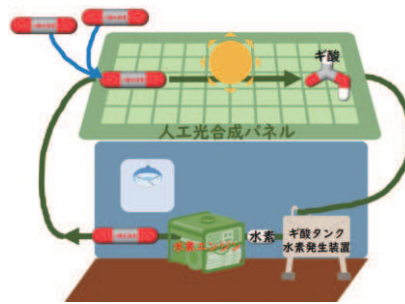
理想は二酸化炭素を家の中で循環させるシステムで人工光合成という装置で家1軒が動くこと。来春開学する大阪公立大学の研究者として大阪府立大学の先生方とも英知を結集して取り組むことができればと期待している。

また、大阪公立大学の開学で企業からのニーズに今以上に応えられる環境が整うという。「人工光合成技術の実用化はそう簡単ではないが、大阪公立大学の開学は炭素循環型社会の実現につながる」と目を輝かせる。

一方、住宅などでの実用化以外に学生たちと試みているのは、天然の光合成に近い形で人工光合成ができないかとの思いで、二酸化炭素を光で有機物にくっつけて新しい素材を作ること。「光合成では光を当てて二酸化炭素からでんぷんという高分子ができるが、それと同じように二酸化炭素から例えば生分解性プラスチックとか、そういう素材を作り、新しい高分子を光合成の仕組みを真似た形で作り上げてみたい」と夢を語る。これはどこの研究機関、企業も行っておらず10年後に成果の出る研究として若い学生たちと取り組んでいる。



学生たちと新たな可能性を求めて研究を続ける天尾所長



人工光合成住宅イメージ

あまお・ゆたか：神奈川県出身。茨城大学理学部化学科卒、東京工業大学大学院生命理工学研究科バイオテクノロジー専攻、博士課程修了。科学技術庁航空宇宙技術研究所研究員、大分大学工学部応用化学科准教授などを経て大阪市立大学人工光合成研究センター副所長。2015年4月から現職。

最後の浮世絵師、月岡芳年に魅せられ 浮世絵は現代の刺激的なメディア



大阪市立大学大学院文学研究科
菅原真弓教授

浮世絵版画との出会いは学習院大学2年の時。この年受講した「美術史講義」のテーマが「風俗画」(浮世絵を含む)であったからだ。浮世絵版画と恩師、小林忠先生(学習院大学名誉教授、岡田美術館館長)との出会いが人生を大きく変えた。授業の課題で浮世絵師・歌川国芳に出会って卒業論文に。大学院進学後の修士論文はその弟子である月岡芳年をテーマにした。「人の一生を左右する出会いとは本当にあるものだ」としみじみと語る。

最後の浮世絵師、といわれる月岡芳年。幕末に描いた一連の血みどろ絵(無残絵)ばかりが注目され、エキセントリックな存在とされてしまう芳年が切なかったという。勉強するうちに、だんだんと「親戚のおっちゃん」のように親しく思えてきた。

「私が誤解を解いてあげたい。真実の芳年の姿を伝えたい」と思ってまとめた芳年研究の「現時点での」集大成が、2018年9月に発表した『月岡芳年伝 幕末明治のはざまに』だ。

本来「お堅い」はずの研究書なのに「攻めた」デザインを施した珍しいこの書籍は、これも珍しいことに刊行後、直ちに重版となった。内容的にも高く評価され、その年度の芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。「(芳年は)喜んでくれるかな」と笑う。



芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した『月岡芳年伝 幕末明治のはざまに』

現代では「芸術」のイメージが強い浮世絵版画だが、実は常に情報を伝えるメディアであり、人々が知りたいもの、興味をもつもの、流行っているものが描かれたという。たとえば人気のある役者や美女たちなど。一方、メディアが本来持っている「毒」もたつぷりと含んでいて、巧妙な幕政批判が隠された作品も見出せる。現代の日刊新聞に掲載される風刺漫画にも通じるものだ。そしてメディアであると同時に、そば1杯くらいの値段(現在の700円くらい)で誰でも買える安価なビジュアルアートでもあった。

しかし幕末以降に勃発する事件の数々は、ますます浮世絵版画を「メディア化」させていく。尊王攘夷の世相、明治維新と戊辰戦争、西南戦争から日清、日露戦役へ。現況をわかりやすく伝えるビジュアル(今で言うならば新聞に掲

載された写真)として機能した。浮世絵版画は大量複製、大量頒布が可能な媒体だからだ。だがその機能により長けた媒体、たとえば「写真」の印刷が可能になった時、浮世絵版画は報道媒体としての役割を失うことになる。そしてそれが浮世絵版画の終わりだったという。

今は、月岡芳年の研究と共に進めてきた同時代の浮世絵師たちに関する研究を『近代浮世絵師列伝』(仮称)としてまとめているところだ。「来年度中には本になるかなあ」とのこと。

もう一つ関心を持っているのが、浮世絵の評価に関する国内外の齟齬(そご)だ。「浮世絵の研究が本国で始まったきっかけは、ジャポニズムによって日本の浮世絵が高く評価されたことに刺激を受けたことだった。実のところ日本で研究が始まった明治の末年から大正初期という時代における浮世絵版画は、既に終わってしまったコンテンツ、現代の言葉で言うならオワコンだった。ヨーロッパでの評価が“輸入”され、国内での浮世絵研究に強い影響を与えるのがとても興味深い」と熱く語る。



「視覚文化資源実習」の授業風景(2021年1月)

最後に教育者としての「これから」を聞いてみた。所属する文化構想学科文化資源コース(大学院文化構想学専攻文化資源学専修)は、文学部の大規模改組で2019年にスタートしたばかり。ちなみに文学部の学科コース編成は、大学統合後も変わらない。

「学生には、何でもいいので一所懸命に調べた、勉強したというコトを持って卒業してほしい。それから、今は3回生までしかいない文化資源コースだけど、卒業生が大学院へ進んで研究者になって、いつか教員として大学の教室へ戻ってくることを期待している」と目を輝かせた。

すがわら・まゆみ：東京都出身。1999年、学習院大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士後期課程単位修得退学。2008年、博士(哲学・学習院大学)を取得。中山道広重美術館(岐阜県恵那市)学芸員、京都造形芸術大学(現京都芸術大学)、和歌山大学勤務を経て2017年4月から現職。18年9月に発表した『月岡芳年伝 幕末明治のはざまに』(中央公論美術出版)が優れた業績として認められ第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞(評論等部門)を受賞

世界トップレベルの研究 未来を変える全固体電池



大阪府立大学大学院工学研究科
林 晃敏教授

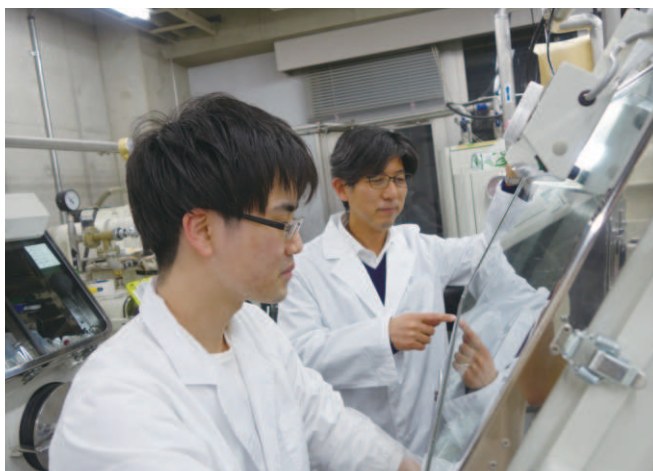
大阪府立大学で注目されている研究者の一人が「リチウムイオン電池を超える」といわれる全固体電池の開発に取り組んでいる林晃敏教授(48)だ。全固体電池が実用化されれば「電池革命」といわれるほど世界は変わると期待され、「日本から実用化し、世界に発信していきたい」と意気込みを語る。

今では生活に欠かせないリチウムイオン電池だが、2019年、吉野彰氏がこの開発でノーベル化学賞を受賞したことで一躍、脚光を浴び、それが大きな契機となり、次の世代の全固体電池が注目されるようになったという。

日本の技術で世界の流れを変えた日本発の研究分野で、脱炭素社会を目指す上で充電して繰り返し使える蓄電池(二次電池)の開発は最重要課題。この付加価値の高い電池を作っていく中で最も注目されているのが全固体電池だ。

蓄電池では、正極と負極の間でイオンを行き来させるための電解質には通常、液体が使われるが、それを固体に置き換えたものが全固体電池。そうすることにより安全性が格段に上がるほか、長寿命で大容量の蓄電池ができる。次世代電気自動車(EV)の心臓部としての応用も期待されている。

ただこれを実現するのは、イオンが動きやすい固体の電解質材料を開発しなければならないほか、電極材料との固体界面接触をいかにつくるかが大きな課題。固体電解質については2000年以降、イオンが流れやすいトンネルのような経路をもつ構造にすることによって、液体の電気伝導度と同等かそれを超える固体の材料が見つかってきており、固体界面の研究も精力的に進めているという。



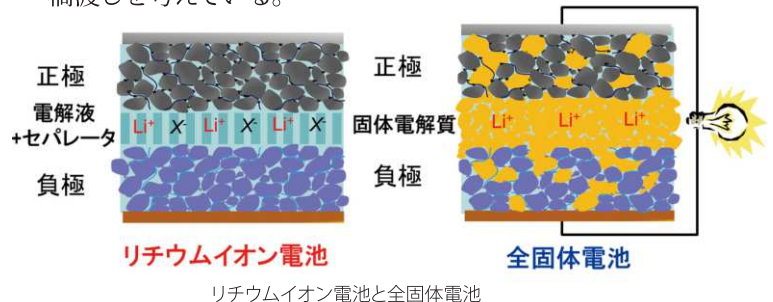
全固体電池の研究に取り組む林教授と学生

全固体電池の開発は産業界とともに取り組んでいる。研究室の卒業生も関わっているトヨタ自動車では2020年代前半を目途に実用化を進めており、東京オリンピック・パラリンピックでは全固体電池を搭載したスマートモビリティをお披露目する計画だ。

経済産業省の新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が主導している蓄電池のプロジェクトでは大手自動車メーカーなどが参画し、産官学で連携を図りながら、実用化を目指した全固体電池の研究開発に取り組んでいる。

小さい頃からものづくりが好きで、ガンダムなどのプラモデルに熱中していたという。大学ではロボット工学に進もうと思っていたが、縁あってものをつくる材料の研究も面白いのではと応用化学の道に入った。元学長の南努名誉教授や辰巳砂昌弘学長に師事し、「ここでは楽しくものづくりができ、何か新しいことが生み出せそうだ」との思いで無機化学に取り組み27年。

今年3月には全固体電池に関する研究で日本化学会の学術賞を受賞した。バーチャルながら大学に全固体電池研究所を設立し自ら所長となり今年度から活動を開始した。企業も巻き込み全固体電池研究の裾野を広げた上で、全固体電池の実用化と普及を支援しながら学生と企業の橋渡しを考えている。



来春開学する大阪公立大学においても研究の大きな柱の一つとして全固体電池の開発を掲げ、広く社会に貢献していきたい思いだ。

「全固体電池は究極の蓄電池。イオン伝導する材料の開発がライフワーク。ぜひ新物質を見つけ、新しい固体電解質の開発につなげていきたい。学生もこの材料を発見したら世界の潮流が変えられる成果になるかもしれないという、ワクワク感を持って積極的に研究に取り組んでいる」と目を輝かせる。

はやし・あきとし：藤井寺市出身。大阪府立大学工学部応用化学科卒業、同大学院工学研究科博士前期・後期課程物質系専攻修了。同大学院工学研究科助手、同助教、同准教授、2017年から現職。科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞、米国セラミックス協会フルラス賞、日本セラミックス協会学術賞、日本化学会学術賞などを受賞。

新大学開学に準備着々 ロゴ決定、感染症研究も

来春の開学まで8カ月に迫った大阪公立大学。ビジュアル・アイデンティティというべきロゴマークが「伝統と飛翔」をテーマに金、銀色に輝くイチョウと桜をデザインしたものに決まったほか、英語表記についても大阪大学との話し合いで「Osaka Metropolitan University」に変更。また、コロナ禍を踏まえ感染症対策を支える拠点となる「大阪国際感染症研究センター」を同大学に設立することになり、今年度から公立大学法人大阪にバーチャル体制でスタートした。

市大のシンボル、ヤシのイメージ

ロゴマークは今年1月、公立大学法人大阪(西澤良記理事長)が発表、業務委託した企画制作会社から提案された6案について昨年10月から11月、大阪市立大学と大阪府立大学の在学学生、卒業生、教職員がオンラインで投票、その結果を踏まえて西澤理事長ら9人で構成する委員会が最終決定した。

コンセプトは「伝統と飛翔」。中心から伸びやかに花開く形状は、「知の拠点」となる大阪公立大学に人や知が結集し、世界へ飛翔していく姿を表わす。拠点を示す銀色の軸の上に、大阪府の木・イチョウをイメージした黄金の5枚の葉を、大阪市の花・サクラのように開いた形にし、大阪市立大学のシンボル、ヤシのイメージも。グローバルに発展する高度研究型大学としての風格を示すゴールドとシルバーをシンボルカラーに用いた。



英語表記は「Osaka Metropolitan University」

英語表記については今年3月、西澤理事長と大阪公立大学学長予定者の辰巳砂昌弘・大阪府立大学学長、そして西尾章治郎・大阪大学総長が記者会見して、当初、「University of Osaka」としていた英語表記を「Osaka Metropolitan University」に変更すると発表、両大学は今後も持続的で良好なパートナーシップを築いていくため包括連携協定を締結する方向で協議していくことになった。

大阪公立大学の英語名称について大阪大学から「正式な英語名称はOsaka Universityだが、University of Osakaについても海外では大阪大学を表すものとして認識されており、留学生や海外の研究者にとって混乱を招く」として再検討の申し入れがあり、同法人と大阪大学が協議を重ねた結果、今後大阪大学との良好な関係を見据え、今回の変更に至った。



英語表記を発表する左から辰巳砂学長予定者、西澤理事長、西尾総長
＝写真などはいずれも公立大学法人大阪提供

記者会見で西澤理事長は「大阪大学との連携をより強化し、大阪発世界レベルの大学を目指したい」、辰巳砂学長予定者は「世界に冠たる高度研究型大学にふさわしい名称。大阪大学とは様々な分野で協力関係を深めていきたい」と強調。西尾総長は「大阪という大都会をベースにした高度な研究型大学にふさわしい名称。2025年大阪・関西万博の成功に寄与するため、お互いに得意分野を持ち寄り、緊密な連携をしていきたい」とエールを送った。

新大学に大阪国際感染症研究センター

「大阪国際感染症研究センター」構想は、世界中で新型コロナウイルス感染症が拡大する中、2025年には大阪・関西万博が控えていることから、世界的な拠点都市を目指す大阪として感染拡大対策はもとより都市として感染症への対応力を高めようと大阪府と大阪市が計画、その研究を大阪公立大学が担うことになったもの。

今年4月に公立大学法人大阪にバーチャルで同センターを設立、両大学の研究者と府市の研究施設「大阪健康安全基盤研究所」で構成する運営委員会で体制や研究内容について協議を続けており、来年開学の大阪公立大学で本格的な研究を開始し、大阪の感染症対策を支える拠点にしたい意向だ。

同センターでは平時には感染症に関する人材の育成をはじめ、感染防止策による経済的影響の評価手法などを研究、有事には医療機関や施設でのクラスター(感染者集団)対策の研究や府民の行動に関する助言や顕在的な影響評価などを行い、医学や経済の専門の垣根を越えて府市に助言、提言していく。



『大阪から学生の本気、見せたるで』 大阪・関西万博に出展目指す 学生団体「Honaikude」

大阪市立大学と大阪府立大学を中心とした学生40人ほどが、2025年の大阪・関西万博にパビリオンの出展を目指して活動をしているのが学生団体「Honaikude」(坂本翼代表)です。両大学の統合に先駆け、2019年1月に発足、『大阪から学生の本気、見せたるで』をスローガンに、理学、工学から経済学や芸術系に至るまで、所属学部も様々な学生たちが在籍しています。

EXPO2025のテーマは『いのち輝く未来社会のデザイン』です。多様な専門性を持つ、未来社会の中心人物である私たち学生が、企業にはなかなか提案しにくいアンタタッチャブルな社会問題について考え、それを万博という世界中の人が集まる場で発表することは、非常に意味があると考えています。

現在、考えているテーマは、死、自然、趣味、意識の4つです。活動メンバーはそれぞれテーマ班に分かれ、週に1度の会議で、内容を深めたり、展示方法を考えたりしてテーマの研究を行い、月に一度の全体会議では、他の班からアイデアを募集するなど、対面では会えなくても団体の士気を落とさないための工夫をしています。年度末には展示会を行い、外部からフィードバックをいただき、よりわかりやすい展示品作りに努めています。

死のテーマ班では、人生のエンディングである死について考える機会を増やすことによって、より人生を輝かせるため、現在はゲームの開発を。自然班では、我慢をすることなく環境を良くする仕組みとして、アクアポニックスの活用について研究を。趣味班では、普段の生活の中で些細な幸せを逃さないためのデバイス作りを行っています。

また、意識班は、未来社会では人の意識は肉体に留まらないのではないかと考え、人の意識がモノに宿ると、どのようなことが起こるのかを考えています。

このようなテーマは今後大きな社会問題になりそうですが、利益が出そうになかったり世間からの風当たりが強そうだったりして、なかなか企業には提案しづらいものだと思います。だからこそ、ある意味自由な学生である私たちが提案すべきテーマであると考えています。



学生団体「Honaikude」のメンバー

今後の活動では、テーマの研究を深め、具体的な展示案についても考えていく予定です。また、ホームページ(<https://honaikude.net>)やInstagram(@honaikude2025)やTwitter(@honaikude2025)などのSNSを用いて、広報活動にも力を入れていこうと考えています。

大阪・関西にはこんなことを考えている学生がいるのか!と社会を驚かせることができるよう、今後も精進して参ります。応援のほど、よろしくお願ひいたします!

Honaikude前年度代表 村上由三(理院1)

進取と共創。ガスで未来を拓く。

The Gas Professionals



太陽日酸

日本酸素ホールディングスグループ

太陽日酸株式会社

東京都品川区小山 1-3-26 www.tn-sanso.co.jp

書店・Amazonで販売中
土佐～京都
55日間の
船旅物語!

日本文学の原典『土佐日記』を物語化。貫之の人物像や風景が鮮明に浮かび上がり、土佐日記がもっと面白くなる。

著者 西野 恕
(高学部昭和34年卒)

『紀貫之の土佐日記は航海記』

A5判190頁 定価2,200円(税込) 発行:リーブル出版



古典『土佐日記』を物語化!

共に力合わせ新大学のレベル向上を!

体育会系クラブOB会連合座談会 「体育会系リーダーが語る新大学への期待」

来春、府大との統合新大学、大阪公立大学開学を控え、今後は市大、府大の両大学の体育会系クラブは一体となって活動し、新大学の存在感を示していかなければなりません。そこで体育会系クラブを支援するOB会連合「大阪市立大学スポーツアソシエーション」(OCUSA)のメンバーに参加していただき、2021年2月23日、「体育会系リーダーが語る新大学への期待」をテーマにZoomによるリモート座談会を開催しました。

【出席者】(敬称略、順不同)

ラグビー部	司会・OCUSA副会長	吉田祐一(商昭62卒)
		山田光昭(工昭60卒)
剣道部		松島 清(工昭50卒)
水泳部		山口宗司(経昭50卒)
		藤本 知(工昭50卒)
		土井 明(文昭51卒)
漕艇部		嶋井敬司(経昭53卒)
ヨット部		山岡祥記(商昭55卒)
準硬式野球部		畑田佳則(工昭58卒)
ソフトボール部		柴田 洋(商昭57卒)
		犬賀雄志(経平23卒)
OCUSA副会長		山本 孝(工昭45卒)
OCUSA事務局長		徳尾野 徹(工昭61卒)
同窓会広報委員長		小林俊介(法昭44卒)
オブザーバー		高須賀真有(学生課係長)
学生		平井 僚、高橋一誠

吉田 「体育会系リーダーが語る新大学への期待」を大きなテーマとして、各クラブの統合に向けての座談会を開催します。ラグビー部OB会所属、OCUSAの副会長もしています。よろしくお願いします。



小林 同窓会広報委員長、有恒会副会長で全学同窓会の会報誌の編集責任者もしています。今回集まっていたのは、体育会系のリーダーの方々から新大学にかける思い



や意気込みをぜひお聞きしたいと思っています。また、統合に向けて順調に進んでいる例があれば参考になると思いますので、OB会全体として積極的に取り組んでいこうと思っています。

吉田 それでは各クラブの対応状況と、課題と対策についてお聞かせください。

松島 剣道部のOB会ではこれまで3回ほど打ち合わせを行い、学生ファーストで取り組むこと、さらに両OB会の歴史や文化が異なりいきなり一つにするのは難しいので、2022年4月から当面は、ホールディングス組織を作り、両OB会をその下に位置付ける形を前提にして話を進めています。金銭的、人的支援の仕方も違うので、お互いの良いところを活かしながら結論に至れたらと考えている段階です。

統合後のクラブの体制は、一本化が必要なことから、両大学の剣道部長にも参加頂き、打合せを行った結果、統合後の部長や監督についてもほぼ方針は整理できつつあり、稽古場所と回数は調整出来ました。課題としては、統合時の幹部人選や合宿場所をどうするか、また、お互いの交流戦など試合の日程についても全部詰め込むと過密になるので、体育会や大学の動きを踏まえて考えていきたいと思っています。



山口 水泳部OB会では昨年8月以降、市大OB会役員、及び府大OB会役員とのミーティングを数回ずつリモートで実施してきました。概ね役員間での合意はでき、現在は各OBの意見を集約しているところです。統合案の内容ですが、2022年4月に新OB会を発足、ただし、即統合ではなく現在のOB会を支部組織として残し、2026年の3月までに完全統合するというものです。統合の基本合意については、2021年度の両OB会総会で決定する予定です。



やはり両校の年会費と納入額が違うこと、また市大は2023年に創部100年、府大は2025年に創部70年という歴史がある中で先輩OBの愛着があり、このため一度枠を作り、その後統合するという結論に至りました。今後は会費の

金額や集金と管理方法の統一、現役支援金の使途の確定等が一番大きな課題で、支部組織が残る中での諸行事や名簿の統合についても検討していきたいと考えています。対抗戦についても、市大の一昨年100回大会を迎えた神戸大戦、府大の都立大戦等は今後も続けていきたいと思っています。

嶋井 漕艇部では府大との交流がなかったため、2年前の9月交流会として顔合わせを行い、昨年2月頃から情報交換会として4回協議を行っています。現状、お互いの財政や活動状況を理解・共有している状況です。



現役や府大のOB会である飛翔会との間で確認しているのは、22年の開学以降も杉本、中百舌鳥の両キャンパスがそのまま維持されることから、今の府大の学生と新生は今まで通り浜寺の府立漕艇センターを使って練習を行い、杉本キャンパスの新生と学生は桜ノ宮で練習するというように、今までの形態を維持するという事です。

予定では、25年の4月に森之宮キャンパスが整備され新生が来るとなったときに部活もOB会も一つにしていきたい。上部団体にも1大学2団体での出場が認められているため、その形式で進めていこうと考えています。

山岡 ヨット部ですが、市大は部員数が減少傾向で成績はそれに比例して、近年は振るわず、府大は部員数が多く近年勢いがありますが、直近は部員数が減少傾向にあります。他部と異なるのは、合宿や練習場が両大学共通しているところです。同じヨットハーバーで合宿場も練習場も隣同士です。

歴史は市大が80年、府大が60年で、組織として市大はOB会の歴史も長く、OB会への思い入れも強い方が多い。府大は近年組織強化に動いており、若いOBを中心として活動しています。一番異なるのが集金方法で、市大は現役によるOB回りなどにより会費を集めていますが、府大はつばさ基金を使った寄付が中心です。



新大学となる22年4月には学連規定で1大学としてのレース参加が必要で、この点については両大学の交流がずっとあったため、現役の統合障壁は比較的安く、むしろ統合によって部員数増が期待できます。市大の組織としての強さと府大のインカレ経験のある若手メンバーによる指導力というお互いの良い部分を生かし、両大学一体となった指導体制を早期に作るとともに、統合した新OB会を22年4月に立ち上げることを目指して協議を続けています。

吉田 ラグビー部については、現在府大のOB会とはなかなか接触がとれていない状況です。市大は昨年100周年を迎え、府大は70年くらいですが、歴史よりも文化の違いの方が大きく、府大のOB会は現役と距離を置いてあまりサポートし

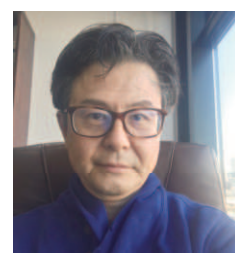


ていないのではと思われます。府大では院生が「試合には出ないが指導はする」学生コーチとして関わり、学生主体の運営がされていますが、市大では、OB会が交通費等を支援し6人のコーチを派遣、現役生のサポートもOB会主体で行っています。

昨年、現役生同士で話し合いをした際は、府大の学生も「人工芝が完成したら新しいグラウンドで練習したい」という思いはあるようです。大学統合後も「大阪公立大学ラグビー部」としてワンチームで活動できるようにOB会・現役学生が一体となって、2021年度一年かけて議論を重ねていきたいと思っています。

柴田 現在ソフトボール部では大きく3つの課題を抱えています。一つ目は統合後のユニフォームについてです。大阪公立大学のロゴマークを肩に付けたいし、体育会全体のロゴやイメージカラーがあれば活用したい。強い大学は早稲田大学の「W」のようにありますから、市大でも検討すべきだと思います。あとはユニフォームに記載する大学名を漢字にするか英語にするかも決めていきたい。

二つ目は練習場所の確保です。軟式グラウンドでは、ソフトボール部、軟式野球部など5クラブが入り乱れています。外野の守備練習が週に一度しかできず、シートバッティングも難しい状況です。府大と統合することで過密状態を解決したいと思いますが、練習場所を市大にするか府大にするかによってキャンパス間を移動する必要が出てくるので、シャトルバスの運行を希望します。



三つ目は部室の振り分けです。教養キャンパスの2階建ての部室を取り壊した影響もあるので、大学側がすでに部室の割り当てプランを考えているなら早めに情報共有したい。資金面については、市大のOB会は年会費を徴収しているほか、2017年から夢基金によってピンポイントでクラブに寄付できるようになり、2019年にピッチングマシンを寄贈しました。今後も夢基金を通じてクラブを支援していきたいと考えています。

畑田 準硬式野球部では、今まで3回ほど府大のOB会長と話し合いをしました。総論賛成の中でまだ各論までは進ん



でない状況です。OB会は両校とも歴史、会費徴収、参加人数は均衡しています。4年ほど前から府大主催のゴルフコンペに市大も参加し年配者の方と交流をしています。雰囲気も良くOB会は合併ありきで、森之宮キャンパスが完成したときに本格的に合併になると考えています。

また、市大と府大は同じ連盟に所属しています。リーグ戦の面から考えても早く合併を進めたいと思っています。杉本キャンパスと中百舌鳥キャンパスの2箇所で開催する「1大学2キャンパス」体制は連盟に確認してあります。

ユニフォームについては、まだデザインは決まっていないのですが、統合までは両キャンパスでベースは同じにして、キャンパスのイニシャルをつけたり、アンダーシャツを変えたりして違いをつけます。そして一つのチームになったとき、目印を外して同じユニフォームになるようにしたいと両校の監督で話し合っています。しばらくは2つのチーム、2つのキャンパスで活動し、本格的な統合は25年からということで認識は一致しています。

吉田 それでは皆さんからお聞きした統合についての要望、期待についてももう少し詳しく掘り下げたいと思います。剣道部においても両校で指導体制が異なっているとお聞きしましたがいかがでしょうか。



松島 市大の剣道部は今年で116周年になる歴史(OB会には戦前卒の方々はまだご存命です)があるのですが、府大の剣道部は戦後に設立されたということで65周年になります。そのような歴史から両校にはいろいろな違いがあることが分かってきました。

市大では大阪府警から師範として指導者(範士八段)をお迎えして、謝礼をお支払いして指導していただくことを戦前から制度として続けてきました。府大も昔は師範がおられましたが、30数年前から2年前までは府大の先生(教士八段)に教わる形で活動を続けてきていました。統合後も市大としては剣道部の象徴である師範制度を是非とも継続したいと考えており、そうなるに師範制度がなかった府大OB会にも謝礼の文化を担ってもらわなければならないと必要であり、現在は師範制度の継続合意に至るよう全力を挙げているところです。

また、府大OB会幹部の方々是比较的若い方が中心になっておられ、会長は平成5年卒の方です。私は昭和50年卒であり、やや世代間ギャップ(笑)はありますが、両OB会発展と学生支援のため、良好なコミュニケーションを図っていきたいと考えています。

吉田 続きまして準硬式野球部の統合の26年までの交流予定について詳しくお聞きしたいです。

畑田 そうですね。これまでの両校の協議では総論賛成のところはあるので、26年までの時間は、まだ意見の差異がある細かい各論を詰めていく猶予期間としたいところです。また、2つのキャンパス間の交流もまだ手探り状態のところが多く、練習場所のグラウンドも、統合後は中百舌鳥の方へ行かざるを得ないかなと思っており、26年までは慣らし期間となるでしょうね。準硬式野球連盟の会長が府大のOB、理事長が市大のOBで、連盟のナンバー1、2の体制がとられていることもあって、交流が進んでいる状態です。

吉田 市大漕艇部は、かなりOB会がテコ入れして組織化を図ったり、予算委員会やコーチ委員会を設けたりと、ある意味会社のマネジメントのような仕組みで体制を強化したそうですが、府大のボート部はそこまでしっかりした体制は取られていないと思うんです。そのあたりの統合後の整合性はどうかお考えですか。

嶋井 そうですね、確かに、現役部員へのサポート面ではコーチが毎週やってきて練習を見るなど市大OB会の方がサポート体制は手厚いです。府大のコーチは遠方におられることもあって、現役の自主性を重視する体制が取られています。この現役部員の活動への支援の違いが市大と府大の違いですね。

練習場の確保も大きな課題です。市大漕艇部が練習に使っている桜ノ宮の艇庫は、建設当初と違って女子部員も増え、更衣室やトイレ、シャワー室など男女別々で用意する必要がありスペースが足りない状態です。

市大ボート部の部員数は現在約80人で、ここに府大ボート部の60人から70人の部員が統合後に森之宮キャンパス整備で加わると約150人となり、今以上に艇庫のスペースが足らなくなります。このため桜ノ宮の艇庫を増築するか、別の場所に必要な設備を確保してほしい。

また、府大ボート部が練習に使う浜寺の府立漕艇センターは、直線状の2000mのコースで、ここは他の船もほとんどなく、安全面で桜ノ宮よりもはるかに優れています。統合後も現在の2つの練習場所を確保したいと思っています。

ボートを購入したりする資金についてですが、現在ほとんどがOB会のメンバーによる出資です。ただ、負担をしている会員の高齢化で将来的に資金難に陥ることも予想され、市大の使いにくい夢基金ではなく、府大のつばさ基金を22年の新大学開学後には利用できるようにしてほしいと思っています。

市大漕艇部はここ5年ぐらいの間に、インカレや関西選手権で表彰台に登るくらい成績が上がりました。統合によって1+1が2に近づけるパワーアップができるよう、なんとか大学にも力をお借りしたいと思っています。

柴田 ソフト部では、他の皆さんと共通した問題としてグラウンドと部室の割り振りがどうなるのか、今後の課題です。現時点で決まりそうなことがあれば、教えていただきたい。学生課の方では府大との統合後のグラウンドの割り振りなどで方針などは立てられているのでしょうか。



高須賀 そうですね。実際のグラウンドの割り振りについては、3月から両大学の学生を優先度に応じて説明会を行っています。大学側からいくつかのモデルケース、AパターンやBパターンなどを提示し、実際どうしていくかといった話をしています。

学生としてどうしたら最も活動しやすいかを話してもらい、学生の意見を最大限聞いたうえで決定します。

吉田 一つの大学に2チームが併存する事態も考えられる中、学生課としての対応はいかがでしょうか。

高須賀 理想としては1大学1チームの形が望ましいですが、それも25年が目途になるように思います。その年までは暫定期間だと思っています。当然まだ市大、府大の学生さんがそれぞれ残っています。新大学体制になってから入学した学生さんの割合が増えてからは、チームの統一が加速すると思っています。

あとは各スポーツの連盟の判断ですね。連盟が認めるのであれば、活動場所が両校で離れてしまうので、2チームとして活動することを学生課側は拒否しない、というスタンスです。それぞれ各団体で事情が違いますから、ある程度の体制分離は認めます。現時点では、統合までの期間に大学側としては5パターンぐらいの練習場所のモデルケースを提示して、学生側に選んでもらって統合の準備を進めていく予定です。

吉田 これは剣道部の松島さんからの要望でしたが、阪大の吹田キャンパスと豊中キャンパス間のシャトルバスのように、杉本町と中百舌鳥キャンパスの間でシャトルバスを運行する計画があると聞いているのですが、課外活動に限らず22年以降は大学でシャトルバスを運行する計画はいかがですか。

高須賀 そうですね、その話は出ています。課外活動を統合後どのようにするかなどが完全に決まっていない現状ですが、暫定期間を置いて予算要求をしたいと考えています。森之宮と他のキャンパスの授業の兼ね合いで移動が必要になるケースは考えられます。学生がキャンパス間の移動で起こる事故などが懸念される以上、学生専用のバスなどが必要だと思しますので、学生課からもその必要性につい

体育会系クラブOB会連合座談会



て議題に挙げるつもりです。

松島 剣道部の場合、普段は中百舌鳥と杉本キャンパスそれぞれの道場で稽古することになりますが、部員の交流(合同稽古等)のためには両キャンパス間のスムーズな移動が必須となります。そのためには何らかの移動手段(ex. シャトルバス)の確保が必要です。森之宮キャンパスができれば、なおさらです。剣道部としてはシャトルバスの運行計画についてはできる限り速やかに決定していただきたいと思います。よろしくお願いします。

山口 水泳部としても今は杉本町と中百舌鳥にプールがあるのですが、ぜひとも両方のプールを残していただきたいと思っています。

高須賀 プールにつきましては、おそらく維持費が相当にかかっていると思います。体育の授業などでも、現在市大のプールは使用されていないのですが、壊れるまでは処分されることはなく残ります。ただプールが使われなくなった際は未定です。

山口 分かりました。状況を見ながら要望を出していこうと思っています。また森之宮周辺のプールを練習に使用する際、利用券などの補助を大学からいただけたらありがたいと考えています。

高須賀 これもまだ完全には決まっていない案の段階なのですが、それぞれの団体の課外活動への支援、外部施設の利用補助などを、統合後は各団体へ集中して行いたいと思っています。

柴田 シャトルバスの件ですが、授業や課外活動の時間に合わせて、1日に何本往復できるか等の運行計画をできるだけ早い段階でOCUSAとして積極的に会合を開いて要望を提出したいと思います。

吉田 新大学に向けてのご意見、ご要望などありがとうございました。OCUSAの今後については、府大にはこのような支援団体がないようなので、統合後もこの形で存続させていこうと考えています。名称は新大学の名前によって変更されるのかどうか未定ですが、府大のOB会の皆様にもOCUSAへの加盟を呼びかけていこうと考えていますが、いかがでしょうか。

徳尾野 そうですね。団体名が変わるのか、団体そのものも変わっていくのかはまだ分かりませんが、会則なども含め時代にそぐわない部分を改善するなど今後協議していきたいと思っています。



吉田 本日は座談会に参加いただき、ありがとうございました。ご協力に感謝いたします。お疲れ様でした。



出版とは時空を超えた言論の場 “歴史を問い直す”をテーマに48年

— 学生時代からのひたすら読書がその端 —

(株)藤原書店社主 藤原良雄さん(経昭48卒)



今回は、気骨の出版人のご登場です。16年間の出版社在籍、その後独立して32年。「すべての常識を疑い、社会や歴史の見方を根底から問い直す」をモットーに、今年で出版事業49年目。藤原書店は「少部数、高価格」を戦略として、これまでに約2000点(新評論で500点、藤原書店で1500点)を企画出版。「イデオロギーに囚われない生き方をしたい」と話す藤原書店社主、藤原良雄さんの大学時代の思い出から出版業界への思いまで、ざっくばらんにお話を伺うことができました。

1973年、市大卒業、新評論に入社。編集長を経て、90年独立して(株)藤原書店を創業。92年、20世紀最高の歴史書であるブローデル『地中海』(全5巻)の邦訳出版で第1回「青い麦編集者賞」受賞。97年、フランス政府から芸術文化勲章(シュバリエ)受章。2005年、後藤新平の遺産の次世代への継承を目的に「後藤新平の会」を創設。

18年、フランス文学の普及に特別な貢献をしたとして、同国で最も権威のある学術団体アカデミー・フランセーズからフランス語フランス文学顕揚賞受賞(日本人で3人目、出版人としては初の快挙)。戦前を代表する経済学者、河上肇の「東京河上会」や戦後文学の旗手である「野間宏の会」の事務局長も務めておられます。

■大学時代の思い出について

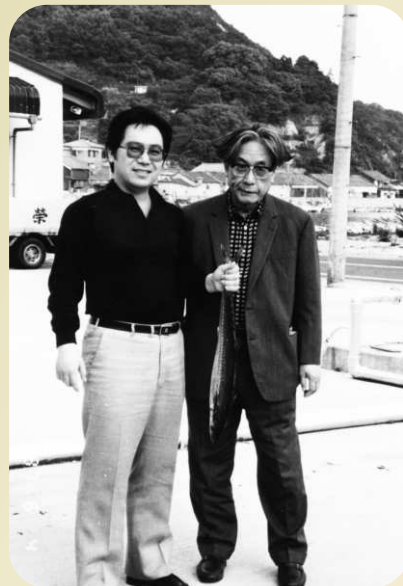
2回生のとき、欧州留学から帰ってきた佐藤金三郎先生が、経済原論の講義で「大発見をした。雑誌『思想』で発表する」と興奮して話されたのを今も鮮明に覚えています。先生がアムステルダム国際社会史研究所で大型のルーペを使ってマルクスの原稿を読んできたとき、この人はただ者ではないと驚いた。エンゲルス編集の現行版『資本論』第2巻、第3巻とその「未定稿」の異同を『思想』誌に発表されました。

それは、日本はおろか、世界の研究者の誰にも劣らない仕事をされたのです。それが今、学界でどうなっているかはわかりませんが、当時としては、研究者にとって大きな問題になりました。佐藤金三郎ゼミを選びました。

■ひたすら本を読まれたとか

大学は自分で学ぶ場と考えて、講義にほとんど出席せずもっぱら本を読みあさりました。幅広いジャンルを読みましたが、その中で最も衝撃を受けたのが、府立北野高校の先輩でもある野間宏の『青年の環』でした。社会、政治、経済、戦争、恋愛、心理等々、すべてを包含し凝縮された全体小説に、驚きと感動でした。それまでに読んだドストエフスキーやトルストイらの外国小説が吹っ飛びました。8000枚を超える全5巻の長編ですが、毎日朝から晩まで集中し、1カ月で読破しました。その出版記念講演会

が中之島の中央公会堂で行われ、文豪野間宏の姿一堂々たる体躯であり謙虚さをその時はじめて拝見しました。



1986年、播磨灘にて野間宏氏(右)と

■なぜ出版界に

大手民間企業に就職が内定していましたが、大学生活で学んだ学問がまだ途上にあるとの強い意識から、気持ちの整理がつかず入社を断念。佐藤金三郎先生の強い勧めもあって、学術出版の新評論に入社しました。勉強できるかなどのささやかな気持ちもありましたが、入るとんでもないことの連続。当り前のことだが稼がなければならない。稼ぐ本作りに必死に励むことに。まさか

出版業界に飛び込むことになるとは思ってもみませんでした。人生何が起こるか分からないですね(笑)。

■新評論では

入社当初の新評論は、大学の研究者の学術研究書を

作るのが主な仕事でした。自分が出したいと思う本を出すのは、著者との関係がないと簡単でない。大手や老舗の出版社が抱えている著者を切り崩して出版することは至難の業でした。また、入社2~3年は、学生時代に学んだ理論と実社会の乖離を目の当たりにして、マルクス主義の限界も感じていました。

1979年、H・カレル・ダンコースの『崩壊した帝国』を見つけ、81年2月に出版しました。ソ連崩壊の十年前。話題になりましたね。さらに、その頃マルクスの唯物史観に代わる新しい方法論を探していました。出会ったのがフランスのアナル学派でした。マルクスの思想を超えるものだと直感しました。



アカデミー・フランセーズにて受賞時、フランスの歴史学者カレル・ダンコース女史と

■アナル学派とは

人間を取り巻くすべての自然を視野に入れて歴史や社会の全体像を捉える方法論です。1929年にリュシアン・フェーブルやマルク・ブロックらが、マルクス主義との格闘の中で誕生させたものです。19世紀フランスの歴史家ミシュレの強い影響にあることは言うまでもありません。

ミシュレは人間の社会はもちろん、動物も植物もほとんど全てを対象にしています。マルクスにはこういう全体を捉える眼はありませんでした。マルクスはミシュレと同時代を生きただけですが、ミシュレの見方が、現代にも通じる有効な方法論ですね。

このアナル学派を代表するF.ブローデルの名著『地中海』の出版は、日本の硬派の出版物の中で大きな反響を呼びました。第1巻(1991刊行)は定価8800円



『地中海』初版、全5巻

の高価格にもかかわらず、1年で1万5000部を販売しました。「いい本は、必ず売れる」をモットーに、今もその信念に変わりはありません。

■後藤新平について

私が、今最も注力しているのが、後藤新平(1857-1929)です。後藤新平の会を創って16年になります。なぜ後藤新平なのか。幕末・明治から大正・昭和に至る激動期に、経済・社会の近代化に向け、インフラ整備に辣腕をふるい、近代日本の礎を築きました。医学、衛生学を学んだ後藤は、台湾統治時代にインフラ整備や衛生環境の改善等の大規模な取り組みで、疫病と阿片の駆逐を成功させます。

コロナ禍を経験したいま、改めてそのスケールの大きな「仕事」の現代的意味を知ることには大きな意義があると思います。後藤新平の本を読めば、なぜ藤原書店が出版しているかがわかるでしょう。後藤新平とミシュレも、そして内田義彦も、私の中ではこれらがすべて繋がっており、アナル学派の全体を見る眼に通ずるものがあります。

■出版界、藤原書店の今後について

若い編集者が育っていないのではなく、育つ場がないというのが現実です。売上、利益を追求するあまり、自由な発想が妨げられているのではないのでしょうか。若い人がもっと自由な発想をできる場を作るのが、出版界に課せられた責務でしょう。

私自身は出版の自由、真実の究明を目指し、何が正しいのかの目を養える作品を出版するのが藤原書店の使命と考えています。「お前、何を考えてるねん」との問いには、「藤原書店の本を読んでくれ」が返事となります。そこで、一冊でも二冊でも読んで感じてもらえる、共感してもらえるものがあれば、それが私、藤原良雄の思いでもあります。

<インタビューを終えて>

話の内容が正に時空を超えてますます広範に、より深く、より熱を帯びて伝わり、聞き手がそれに引き込まれる。予定のインタビュー時間をオーバーしているのを忘れさせられるほど。藤原社主の世界観、出版への思いを到底書き尽くせなかったのが心残りだが、その熱気は今も余韻が残る。

インタビュー：奥山正昭(経昭44卒)

文責：加藤菜々子(経令2卒)

市大偉人列伝

伊庭貞剛 同窓会初代会長

伊庭貞剛は、住友総理事を務めると共に、本学の前身である大阪商業講習所の設立にも参加し、市立大阪商業学校の同窓会初代会長を務めた人物である。

1847年、滋賀県に生まれる。幼少の頃は剣道を学んだという。1868年には司法官として函館裁判所副所長、大阪上等裁判所判事を歴任。1879年に叔父の広瀬幸平の勧めで住友に入社した。

1880年、大阪商業講習所の創立時に住友家代表の一人として創立員として参加、1882年には府立大阪商業講習所の初期に所長として校則改正に当たる。1890年に府立大阪商業学校から改称した市立大阪商業学校の校長兼初代同窓会長となった。

同年、衆議院議員となる。重役会議を設置して合議制を行うなど、住友の経営近代化を推進し、住友銀行を始め、現在の住友各社の母体となる企業を設立した。

1900年、住友総理事に就任。しかし、1904年には「事業の進歩発展に最も害をするものは、青年の過失

ではなくて、老人の跋扈(ばっこ)である」との信念から58歳の若さで引退。隠棲後は悠々自適の生活を送り、1926年、大津石山に建てた別荘「活機園」にて逝去した。

活機とは禅宗の思想で「俗世を離れながらも人情の機微に通じる」という意味である。「活機園」は2002年、文化庁から重要文化財として指定された。

心友である川上謹一に、「春風のごとき感じ」の温かい人柄と例えられるほど人望にあふれた人物であった。

文責 福田夏実(文4)



参考資料: 100周年記念誌

近代日本人の肖像

(<https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/544.html>)

晩年の別荘「住友活機園」(住友林業株式会社 提供)

遺言・相続 借家・ガレージ賃料回収・立退

大小路法律事務所

大阪弁護士会所属

弁護士 保田 友久 (法平 20 卒)

弁護士 保田 友大 (法平 21 卒)

事務所 〒590-0075
堺市堺区南花田口町 2 丁 3 番 20 号
三共堺東ビル 9 階
TEL 072-275-8777 FAX 072-275-8780
URL : <http://oshoji-law.main.jp/>

夢を架け 空間を創る



株式会社 駒井ハルテック

〒550-0012 大阪市西区立売堀四丁目2番21号
TEL 06(4391)0811 FAX 06(4391)0822

市大出身の社長さんご紹介

建設産業を支えるセメント業界で、さらなる事業基盤の強化 ～社会の動・静脈の両面で貢献～

宇部三菱セメント(株) 取締役社長 井本充彦(商昭55卒)

今回は、大手総合化学メーカー宇部興産に入社され、その基幹事業のセメントで三菱マテリアルとの合弁事業会社、宇部三菱セメント社長の井本充彦さんの登場です。業界の現状、会社勤務の思い出から趣味まで、多彩な活躍ぶりを伺うことができました。ご自身も自認されている生来の明るい性格が、人と関わる仕事、そして会社経営にまで活かされているようです。

井本さんは、奈良県桜井市出身、県立畝傍高校から市大商学部、そして中西市郎ゼミ。モノづくりに興味を持って宇部興産入社。2013年執行役員、15年宇部三菱セメント常務、18年副社長と歴任し、20年4月に社長に就任。宇部三菱セメントは、宇部興産と三菱マテリアル折半出資で、セメントの販売・物流機能を担う会社として1998年に設立され、2022年4月には両社のセメント事業を完全統合した新会社が設立予定で、新生・宇部三菱セメントとして事業基盤の強化を目指されています。

■セメント業界の現状

日本のセメント産業は、長い歴史の積み重ねのなかで、ビル、ダム、トンネル、橋、高速道路、新幹線など、さまざまな社会基盤を整備するための基礎素材提供産業として、日本の繁栄に大きな役割を果たしてきました。

また、セメントは素材産業としては特殊といえます。石灰石、粘土、ケイ石、酸化鉄原料等の原料がほとんど国内で調達でき、加えて輸出比率が低いため、需要面でも海外の影響を受けにくくなっています。一方、国内需要は1990年のピーク時から大きく落ち込んでいるものの、インフラを含む建設関係の資材需要が堅調と見込んでいます。

同時に、当社としては、環境型社会への貢献のため、廃棄物の再資源化を進めています。全ての工場ですべて都市ゴミ焼却灰の受入体制を整えるとともに、新たに廃プラスチックを熱エネルギー代替に改質するシステムを稼働させるなど、廃棄物への取り組みを強化しています。これらの動・静脈の両面で貢献する企業を目指しています。

■仕事での思い出

私が就職活動した1980年はオイルショック後でもあり、石炭も扱っている宇部興産に魅力を感じ入社しました。千葉と東京ではプラスチック製品、大阪と神戸ではセメントの販売営業の仕事に携わりました。製造業ですが

工場勤務経験はなく、営業畑一筋でした。

仕事をするなかで学んだことは「何事も早めに経験しておくべき」ということです。どの会社のセメントも、品質や価格に大きな違いがないため、お客様が製品を選ぶ基準は「人」になると思います。自分の会社や人となりアピール

するのはお客様と話をすることでのみできることであり、そのスキルは経験を重ねることのみみることができません。早く経験しておけば、もし失敗しても軌道修正でき、その後の成長の糧となります。また、その失敗経験から学んだことは、人のため会社のためにもなります。



「何事も早めに経験しておくべき」と語る井本さん



フル、ハーフマラソン大会に79回出場
＝岡山マラソンで

■趣味について

運動不足をきっかけに、約11年前からマラソンを始めました。これまでにフルマラソン大会に28回、ハーフマラソン大会に51回出場しています。普段は1か月に100^{キロ}を走って鍛え、フルマラソンで4時間を切ることを目標にしています。タイムを縮めるごとに、自分にもまだ伸び代があることを実感できるのがマラソンの魅力です。新型コロナウイルスが収まれば、47都道府県のマラソン大会を制覇したいと思っています。

■大阪、大阪市立大学について

2025年には大阪・関西万博の開催が予定され、IR誘致の動きもあり、首都圏に比べ沈滞気味であった関西に活気が戻りつつあります。関西出身として、関西が地元の市大の卒業生として、そしてセメント業界としても関西経済の復活を大いに期待しています。

大阪市立大学が統合され母校の名前が変わるのは寂しいですが、新大学としてのいっそう躍進してほしいと思います。

インタビュー：奥山正昭(経昭44卒)

文責：加藤菜々子(経令2卒)

大阪医史蹟巡り

⑥ ウイルスと戦った人たちⅡ

史上最悪 スペイン風邪の襲来

歴史上、光学顕微鏡によって細菌感染が立証されたのが19世紀の末。そして電子顕微鏡の発明(1930年)によってウイルスが確認され、その後「コロナウイルス」などその類型や病態が鮮明になったのが1970年代であった。「スペイン風邪」と呼ばれ1918年3月に米国で発症したインフルエンザは僅か4カ月でオーストラリア・インド・南米といった世界全域に蔓延、丁度起こった第一次世界大戦の戦死者と重なって全世界数千万人という史上最悪の死亡者が出た。

なぜそれほど早く感染が広がったのか、戦争による人の集団移動と、渡り鳥という宿主(寄生先)がたどり着いた先で急死して体外にウイルスがばらまかれたとする説が有力である(図①)。今も戦中戦後のお互いの意図的隠蔽と事実の抹殺で正確な統計が得られていない。

ヨーロッパでの戦死者の多くは塹壕戦でのスペイン風邪罹患による病死だった。疫病死の経過や埋葬の記録などは、前号で記載した前世紀の天然痘患者の方がむしろ丁寧であった。

1919年11月ドイツ帝国の降伏によって大戦は終結したが、早くも推定同年5月には日本にも上陸して同年だけで50万人の死者を出した。当時の日本の人口が5500万人の時代である。病原菌も治療法も解らず、ただ従来のインフルエンザ様の症状とは違うかなり強い症状から、翌年1月5日内務省は48万枚のポスターを(写真①)全国に配布して注意を呼び掛けた。

「一、近寄るな」は咳する人からというだけで現在の「三密禁止」とはほど遠い。「二、鼻口を覆へ」はマスクの奨励。「三、予防注射を」は流行終息まで未完成だった。「四、含嗽(うがい)せよ」の四か条だが、その後のインフルエンザの反復襲来に日本人の定番、とくにほぼ全員が抵抗なくマスクをするきっかけとなった(写真②③)。スペイン国は北歐三国・スイス・オランダ・アイルランドと共に第一次大戦の中立国だったため自国で僅か2カ月に800万人が罹患した数字をそのまま公表し世界を驚かせた。以後のマスクはスペイン本国が発症の地と勘違いして、何時しか「スペイン風邪」の名が定着してしまった。

スペイン風邪ウイルスの正体

スペイン風邪の流行時期(1914~18年)にはもちろんウイルスという言葉も概念すらもなく、当時世界的な細菌学者北里柴三郎や東大細菌学研究所の人々は必死にこ

のインフルエンザ患者の喀痰や血液から病原菌を探し続け、北里は免疫学の立場から罹患者の気管支粘膜細胞を集めて希釈し、これを予防的に健康者に気管吸入を試みたりしたが何れも徒労だった。20世紀の末、コロナウイルスなどその類型と電子顕微鏡下での鮮明な実像がようやく明らかとなり、各々のウイルスが変異を遂げて人を含めた宿主の細胞に寄生し、しかも一定期間に反復宿替えをすることが判ってきた(写真④)。

生物学的分類はさておき最近マスクを賑わすウイルスには記号化された名称がつけられている。スペイン風邪ウイルスはH1N1、香港風邪がH3N2、COVID-19がH5N8などとなっていて変異種が確定次第数字も変わる。H1N1と設定されたウイルスは中心がRNAタイプで直径が100ナノメートル(1mmの一万分の一)の球形。突起が二型ありHはHA(赤血球凝集素)の略で16種、Nは突起の尖端の蛋白酵素の略で9種あり合計144種の突起を持つコロナウイルスである。極めて感染力が高く罹患後の死亡率は2%とコレラやペストといった細菌感染症の致死率と比べて圧倒的に低い、感染者の総数が桁違いに多いので死者も多かった。

スペイン風邪ウイルスの存在は第一次大戦の風邪症状で死亡した数万体の肺臓標本を米国陸軍病理研究所が保管していたものを追跡、1995年同定に成功した。電子顕微鏡でスペイン風邪ウイルスを撮影できたわけだけでなく、一世紀半固定されたままだった臓器からウイルスのカケラを抽出して(これだけで数十年)そのゲノムの配列が多分スペイン風邪ウイルスであろうと推定したに過ぎない。

大正七(1918年)~九年の我が国の病状

この時の専門家研究者たちにとってスペイン風邪ウイルスの病原体は想定外のもので、民衆にとっては「天災」でしかなかった。発熱・咳・肺炎・低酸素症・昏睡そして死亡といった数日間の推移はほぼ同一だった。感染の全貌が不明だったのは既に述べたが、発端は1918年8月下旬で神奈川県・静岡・福井・富山・茨城・福島等の諸県に発症報告が相次いだ記録がある。僅かに残るこの感染症による全国の死者統計(%)を追うと、初波のピークが1918年の11月で5%、翌年の5月までギクシャク昇降があつて6月から1919年12月まで一旦鎮静して1920年1月に9.5%と再度上昇のピークがあり、以後減衰し5月にほぼ消滅と、明らかに反復襲来の波があつてCOVID-19とよく似ている(図②)。

当時の衛生状態は貯留式トイレや井戸式上水道など、住民意識も今とは比較にならずあつという間に感染が広まり、郡部では一村数百人のうち生存者が数名といった過酷な例が増えた(写真⑤)。国全体が戦争を経験し、軍隊を始め学校や職場まで集団の規律が強要され益々「三密」が進む結果となった。朝鮮・樺太・台湾といった植民地の衛生も後手に回って死亡率が高かった。

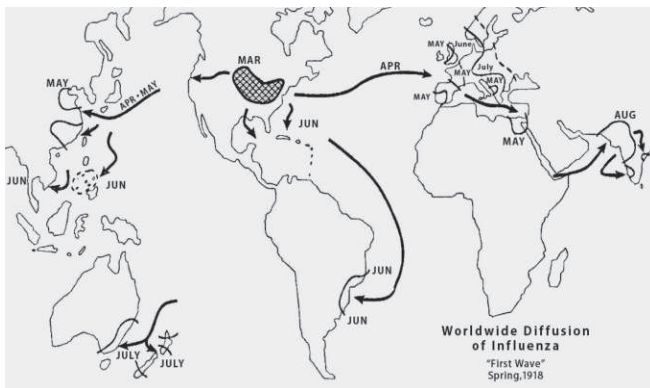
歴史の教訓

2021年の今、我々はCOVID-19に対してのワクチンを得た。このウイルスに打ち勝ったような錯覚を抱くがそうではない。ウイルスの多くは人を始め快適な寄生先にまるで知能がある如く世代を繋いできており、ワクチンに対してもすぐに次世代の抵抗力を持った変異株が生まれる。3月15日の報道では今、日本の数か所で英国型(N501Y型)・南アフリカ・ブラジル型・E484K型といった変異株ウイルスが感染を広げつつあり、その感染率は従来のウイルスの70%から数倍も強いという。

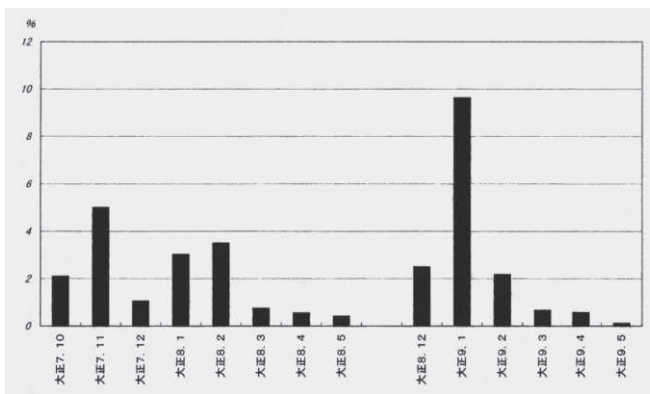
3月10日ブラジルでは新たな変移型によると思われる感染者が一日7万人を超えて、入院待ちの人々がばたばたと死亡しているといったニュースが入ってきている。ヒトという宿主の免疫力がその都度未完成であることを意味し、ウイルス感染の長い歴史の繰り返しに過ぎない現象なのである。人類はウイルスという存在を確かめてからでも一世紀とちょっと、ほぼ奴らのなされるが儘に近い経過を経てきた。少なくとも約一世紀前のスペイン風邪ウイルスなどの苦い経験を経て、対決ではなく共生(余りしたくないが)の道を模索する方がベターであることに気付くべきだ。パンデミックという嵐には短期撲滅を図る以前に、三密回避という「隔離」と消毒やマスク・うがいといった「防御」によって、気を抜かずに、じっと去るのを待つ姿勢が求められる。

田中祐尾(医昭44卒)

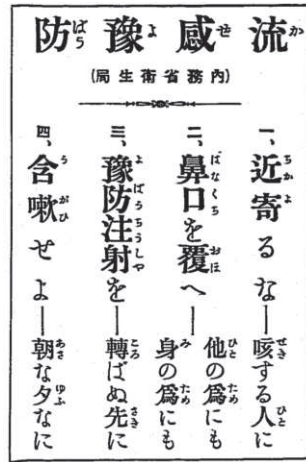
参考文献 『電子顕微鏡 ウイルス学』2003 畑中正一
『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ』2006 速水 融



図①1918年3月(MAR)にアメリカで発症したウイルスが同年7月(JULY)にオーストラリア、8月(AUG)にはインドに達したその速さが問題だった



図②1918~20年の全国のインフルエンザ(スペイン風邪)による死亡者数を全死亡者数で割った%数で明かに波が二回ある。ピークは三つあったという説もある。



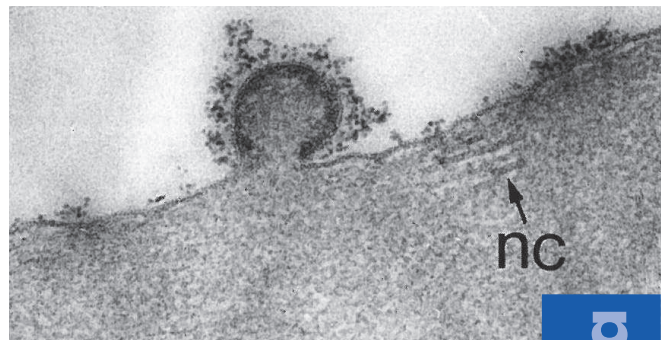
写真①内務省衛生局の全国配布「流感予防標語ポスター」
大正九(1920)年1月



写真②内務省衛生局作成のカラー刷りポスター 大正九年



写真③東京第一高等女学校生徒の登校風景 若い女性の全員マスク姿が珍しかった(東京朝日新聞1920年1月11日)



写真④コロナウイルスが赤血球(宿主細胞)の細胞膜を溶解して侵入する電子顕微鏡写真。ncはヌクレオカプシドといって核酸と結合、この外皮膜で覆われたRNAが新しいウイルス産生の芯となる



写真⑤福島県耶麻郡吾妻村でのスペイン風邪が死者多数で生存6名という記事(北海タイムス1919年1月30日)

heritage in Osaka

around the medical

ビジネスの最前線で活躍する先輩から後輩へ!

民間企業に勤める卒業生と現役学生との交流会

2020年11月28日(土)リモート開催

この交流会は、ビジネスの最前線で活躍する卒業生から現役学生に生の声を届け、就職活動や卒業後の生活に役立ててもらおうというもの。同窓会が現役学生向けに力を入れている企画の一つです。

リモートで初の開催

コロナ禍により開催が危ぶまれましたが、リモートに変更し、卒業生19人、学生58人、運営関係者を含め約90人をZoomで繋ぐ大きなイベントになりました。

岡本直之全学同窓会長の挨拶に続き、荒川哲男学長から「世界に羽ばたく社会人を目指せ!」との熱いビデオメッセージが届き、次いで池山尚高就職支援室長から変化する就職環境の現況報告と心構えについてアドバイスがあって交流会がスタート。



岡本直之全学同窓会長



学長 荒川 哲男

卒業生2人と学生5、6人の小グループに分かれ、社会人としての基本的な姿勢はもとより、進路の決定、企業訪問、面接時の心構え、失敗やハプニング、職場環境やコロナ禍での変化等々、先輩後輩の関係ならではのざっくばらんな本音の話で盛り上がり、予定していた1セッション45分があっという間に過ぎたようです。卒業生の顔ぶれを変えて3セッションを行い、少しでも多くの企業の話が聞けるようにしました。これをきっかけにビジネス業界への関心を深め積極的な活動に繋げてもらえればうれしい限りです。

19社の卒業生が参加

参加してくれた卒業生の勤務先は、IHI、JR西日本、NTT東日本、NTT西日本、イトーキ、トヨタ自動車、パナソニック、竹中工務店、NTTデータ、農林中央金庫、住友倉庫、東洋紡、産経新聞、近鉄グループHD、南海電鉄、東京海上日動火災保険、日本生命、富国生命、京セラ(順不同)の19社。

スムーズなコミュニケーションができるか一抹の不安がありました。卒業生、現役ともリモートでのミーティングは経験豊富、事務局の心配だけに終わったようです。むし

ろ、時間と距離の制約がないため遠方からの参加が可能になり、卒業生の半数が、山形、東京、名古屋、岡山、福岡、そしてシンガポールからの参加になりました。コロナ禍の影響で窮屈な生活が強いられますが、その一方で新しい発見があり、新しい行動パターンが普通になりつつあることを実感させられた次第です。

参加学生から継続開催要望

参加学生からは「企業訪問では聞けない話が聞けた」「開催回数を多くしてほしい」「いろいろな会社の話が聞けて良かった」「これからも続けてほしい」「話を聞きたい企業について事前アンケートをとりグループ編成してほしい」「リモートだと質問のタイミングが難しい」「女性の卒業生の話が聞きたかった」等々、多くの声をもらいました。

半数以上の学生から、これからもリモートで良い、と回答があったのは意外でした。この交流会は面談が基本と考えていますが、リモートのメリットも活かしつつ、工夫を重ねたいと思います。

また、現役学生が社会に出てからこのイベントに「先輩」として戻ってくる、卒業生同士がこれを機会に交流を続けてくれるなど、同窓会活動自体がさらに活発になることも同窓会の願いです。

卒業生の感想

滝田和典さん

(竹中工務店/商学部/平成19卒)

この度は、大学OBとして学生とお話する機会を与えて下さりありがとうございました。学生から様々な質問を受けるなかで、自分の将来や進路に対して真摯に向き合う学生の姿に一卒業生として非常に頼もしく感じました。また、私が学生だった頃を思い返しながら、「今の自分はどうかろう」と見つめ直す良い機会となりました。

コロナ禍のなか、例年とは異なる状況に戸惑いを感じている学生も少なくないと思いますが、今回の交流会が進路決定の一助となるのであれば大変うれしく思います。

原田正喜さん

(トヨタ自動車/工学部機械工学科/平成28卒)

学生の皆さんから、積極的に質問してくださり、非常に話しやすかったです。社会人が全て先輩であるということから、

気軽な質問も多々していただき、学生の皆さんにとっては、「ぶっちゃけ気になっているけど、企業の人事の方には聞けない」と言う質問もできたのではないかと感じています。

直球の質問に私自身も自分のキャリアを見直す機会をいただきました。次回も機会があれば、ぜひ参加させていただきます。



谷口直子さん

(近鉄グループホールディングス／経済学部／平成28卒)

非常に楽しく参加させていただきました。学生の皆様も、積極的に質問をしてくださるなど協力的で、また同席させていただいた諸先輩方のお話も魅力的で、私自身にとっても実りのある時間となりました。

企業にとっても先の見えない状況が続く中、学生の皆様も不安を感じながら就職活動をされている様子を感じられました。今後も、なにか学生の皆様のお力になればと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

甲村真太郎さん

(東洋紡／法学部／平成27卒)

初めて参加させていただきましたが、まず学生の意識の高さに感心しました。積極的に質問してくれる学生も多く、また1,2回生で参加している学生が多かったことに驚きました。

学生からの質問に答える中で会社のこと、仕事のことを見つめ直すことができましたし、同年代の卒業生の話を聞くことで新たな発見もあり、自分にとっても有意義な機会となりました。またお力になれることがありましたら、お声かけいただければと思います。

大石勇哉さん

(農林中央金庫／経済学部／平成31卒)

世界的な新型コロナウイルスの流行によって、以前にもまして将来の見通しを立てることが難しくなるなか、自身の人生を左右する就職活動に手探りながらも真剣に向き合う学

生の姿を間近で見ることができ、よい刺激を受けました。

また、普段の業務内容などについて、改めて自分の言葉で説明することで、自分自身の働き方を見つめ直す貴重な機会となりました。学生時代には、多くの先輩方に変なお世話になりましたが、今後は私も卒業生の一人として、微力ながら現役学生のチカラになれば幸いです。

上枝めぐみさん

(NTT西日本／法学部／平成29卒)

現役生の皆さんからたくさん質問をしていただき、熱心さに大変感心致しました。1,2回生の方の参加も多く、早いうちから卒業後のキャリアを考える良いきっかけになったのではないかと思います。

また、私自身が就職活動をしていた頃のことを思い出し、初心に帰って日々の仕事に取り組む上でも、大変励みになりました。現役生・卒業生が、お互いにとって有意義な場にする事ができたと思

います。この大変な状況の中、少しでも皆さんのお力になれば幸いです。

二反田陽介さん

(JR西日本／法学部／平成30卒)

今回の交流会を通じて、「コロナ禍」という未曾有の出来事に直面しつつも、悲嘆することなく多角的な発想でもってこの難局を乗り切ろうとする後輩の皆さまに、私自身がエネルギーをいただきましたし、前向きなコミュニケーションができたのではと感じています。

今後もこのような交流の場が、後輩の皆さまが将来に向かって前向きに進む一助となればと思いますし、微力ながらご協力させていただければと思います。ありがとうございました。

(文責 同窓会・運営委員 北村吉文)



山口法律会計事務所

所長 弁護士 山口 健一
(法学部 昭和49年卒)

事務所 〒530-0047

大阪市北区西天満1丁目7番20号
JIN・ORIXビル6階

TEL. 06-6361-3234 FAX.06-6361-0096

E-mail office@yamaguchi-law.jp

URL : <https://yamaguchi-law.jp/>

市大
OB・OG
紹介

話題の『ふれる社会学』著者
ミレニアル世代の社会学者

ケイン 樹里安さん(大阪市立大学都市文化研究センター研究員・文博平27修)



— 著書『ふれる社会学』が売れています。今この本が注目されているのはなぜだと思われますか。
大学生や社会学者だけでなく、工場労働者、弁護士、哲学者、ライター、書店員など社会学に必ずしも親しんできたわけではない方々を含めて、大勢の方々が感想をSNSに書いてくださったり知人におススメして下さっていることが非常に大きいように思います。

ポップな表紙にもかかわらず「ハーフ」と人種差別、外国につながる子どもと不平等、差別感情、災害、セクシュアル・マイノリティとダイバーシティ・マネジメントなど、ある意味で「ハード」な、それでいて現代的なテーマが散りばめられている「ギャップ」がよいなどと読者の方々からうれしいコメントをいただきました。

しかし、それだけ社会の仕組みに人々が翻弄される状況が深刻なのかも知れません。だとすれば、本書が果たす役割はまだまだあると考えています。

— ケイン先生は本の中で“マジョリティ”について、新しい解釈をされているように思いますが。

私たちは社会で生きていく上で、自分が直面しない不平等・不公正を知らないままにしていたり、気づいているのに気づかないふりをしたりあるいは、面倒な問題だとスルーして生きているのではないのでしょうか。そうしたことを私は“マジョリティの持つ特権”の問題として捉えています。わたしたちは、意図しなくとも不平等・不公正・差別に加担してしまう可能性の中で生活しているのです。

一例ですが、私の授業である映画を題材にした時のことです。受講生にはAmazon PrimeかHulu等を利用して視聴するように指示を出しました。ところが後でわかったことなのですが、Huluでは邦画に字幕が付くのですが、Amazon Primeの場合は字幕が見つからないのです。その時受講生の中に聴覚障害をもっていたり、日本語学習者の学生がいたのです。

したがって、その学生はAmazon Primeという選択肢を選ぶことから、はじめから排除されていたといえます。そしてそのことに気づきもしなかった自分は「気にせずにする特権」をもつマジョリティだったわけです。

社会のしくみは不平等、不公平なことではいっぱいです。それは特定の社会的属性をもつ人々の前に、突如として出現する落とし穴や透明な壁のようなものです。落とし穴にはまらず、透明な壁に当たりもしない人々こそ“マジョリティ”と呼べるでしょう。性差別や人種差別、階級差別についても同じことが言えます。被害者にもなれば意図せずとも加害者にもなりうる。そんな社会の仕組みと向き合い、しっかりと変えていくことが必要なのです。

— 研究テーマでもある「ハーフ」について、研究のきっかけとなったのはご自身の体験からでしょうか。

もともとは、メディアと社会の関係に興味があり大学院進学を決意しました。就職活動を終えてから卒論が楽しくなってしまう「もう少し勉強したい」となったのです。2011年4月に大阪市立大学の大学院に入学しました。東日本大震災が起り、SNSがこの社会に深く埋め込まれ始めたタイミングでもあります。そうこうするうちに「ハーフ」と呼ばれる人々が集うSNSコミュニティと出会い、調査を始めました。

2つ驚くことがありました。1つ目は、ルーツが全然異なる「ハーフ」たちには差異ばかりでなく「共通性をもったしんどい経験」があり、それと直面しながらなんとか対処し続ける日々を送っているということです。2つ目は、そうしたしんどい経験についての先行研究がほとんど蓄積されてこなかったことです。

たとえば、共編者を務めた『ふれる社会学』は、社会学の教科書・入門書として日本初・世界初の「ハーフ」をテーマにした章があります。つまり「ハーフ」はそれだけ、学術的にも「しんどさ」が無視されてきたマイノリティだといえます。自分がやらねば一体誰がやるのか、という気持ちで研究を続けてきたといえるかもしれません。

— コロナ禍で学ぶ学生に向けてぜひメッセージをお願いします。

キャンパスライフの大部分が奪われるなか、遠隔授業・ハイブリッド授業・少人数の対面講義、課題ばかりの日々のなかで、大いに疲れているのではないのでしょうか。学生の皆さんからのコメントを読んでいると、本当に大変な状況だと痛感する日々です。

大学関連の報道では「大学と学生の対立」という単純な構図で捉えられることもありますが、典型的な「わかりやすい」だけの枠組みにとらわれることなく、じっくりと腰を据えて「自分の頭で考える」前段階の作業としての「調べること・整理すること・新しい知見にあえて振り回されて自分の足元を省みること」に思いっきり浸ることのできる時間・空間こそが大学の醍醐味です。大変な中でも、少しでも有意義な時間のなかにいることを願うばかりです。

自分もやっていることでおススメできることが2つあります。この状況を日記として残しておくことです。数百年後の貴重な資料になるかもしれません。あとは学術書を読むことです。知識は誰からも奪われません。閉じこもらざるをえない時こそ学術書を。共に生き延びましょう。

インタビュー 中村祐子(文平27卒)



商学部の歴史(上)

中瀬哲史(経営学研究科・商学部教授・営博平7修)

今回から2回に分けて商学部の歴史について論じる。今回は、大阪市立大学が開校した1949年から大阪商業講習所開設から数えて百年となる1980年あたりまでを対象とする。



商学部創設の事情と「筆頭学部」との評価

大阪市立大学創設当初から商学部は「独立」していた。この独立化にはドラマがある。まずは大阪大学からの大阪商科大学に対する「合体」の申し入れを公立大学としての伝統と風格の堅持を理由として断り、大阪市の意向のもと総合大学化を目指すなかで、大阪商科大学の教員、学生の強い意思によって商学部独立案が採用されたからだった。

以上の流れが関係してか、杉本町学舎全面返還による新学期開始の際、その管理責任に商学部事務長があたると発令され、1960年代に改めて旧制大阪商科大学の事務引き継ぎについて関係学部間での協議により、従来通り商学部が取り扱い保管をするとされた。この場合の引き継ぎは、旧制の学籍簿・成績台帳等の書類保管及びこれに関する諸証明の発行者に関するもの(商学部長名の使用)であった。

また、大阪市会からの要請で、勤労青年に対して高等教育の機会を開放するという理念のもと(第1部、第2部の教育は同一原則のもとに実施することとし、各学部とも教科は第1部と同一教員が兼担し、卒業時には同一の資格で認定するとして)、夜間開講の第2部を経済学部、法文学部とともに商学部でも設けた。

商学部における教養課程から専門課程への進級条件は当初からかなり厳しいもので、大学紛争後には、一般教育科目で外国語(16単位)、経済学、経営学、数学、専門科目で商業簿記、プロゼミナール(1回生)、外書ゼミナール(2回生)の履修が求められた。

商学部教員組織の伝統の学風と学部運営方法

市立大阪高商、旧制大阪商科大学の頃から、「市民の大学」、つまり近代市民社会の生活原理となった庶民的性格の自由・平等の原則に立脚し、そこから独自の創造力を発揮しようと考えてきた。

その自由・平等の原則は商学部教員組織にも反映し、平等原則のもとに商学部教授会の構成は当初から、教授層だけではなく教授から助手までをも含む教員全体として発足し、執行にあたる学部長選出を教授会全員の投票で行い、

再選は妨げないものの任期1年として長期特権化を回避した。昇任人事については昇任すべき層以上の教員によるいわゆる「限定教授会」で審議決定するものとして人事評価における節度を正してきた。

商学部の研究方法と学科体系、大学院の整備

商学部の教員構成としては、旧制商科大学のうち商学系統の専攻に属する教授層に、中堅の助教授層として旧制商大高等商業部の専任教員が、若手の助手層として経済研究所ないし学外の調査機関、旧制商大の新卒者が加わった。

当時の経済学部が基礎理論を重視して、教授から助手にいたるまで旧制商大の経済学系統の人々を主力として発足したのに対し、商学部は個別企業とその存立の基礎をなすところの経済全体の法則性とを統一的に理論化しようとした。いわば応用理論としての実学と理論との統一に、個別と全体との統一に挑んだのである。現在の「考える実学」につながる。この点は一橋大学商学部、神戸大学経営学部とも異なるあり方である。



大阪商科大学記念室銅板

そのためか上述のあり方はすぐには構築しえず、1960年代に入ってから、商学部の学科体系を現在の経営学、商学、会計学の3部門(1960年代当時は経営学部門第1類一経営学プロパー領域一、経営学部門第2類一部門別領域一、会計学部門と称された)に整備し、大学院経営学研究科において、前期博士課程、後期博士課程ともに、旧制大阪商科大学学位とも接続された、経営学専攻、商学専攻という二種類の学位審査権を有する大学院体制を整備したときに実現された。

なお、現在の商学部棟東側に設けられた学部表示石「商学部」の文字は初代商学部長藤田敬三名誉教授、「大阪商科大学記念室」の銅板は森下二次也名誉教授の手によるものである。



新副学長・学科長の紹介



副学長(ダイバーシティ担当)
金澤真理

副学長(ダイバーシティ担当)に就任する法学研究科の金澤真理(刑事法専攻)と申します。従来からの課題である女性の活躍の場の整備はもとより、多様性を認め、相互尊重に基づいた研究・教育の環境づくりが大学には一層求められます。違いを理由に差別するのではなく、むしろ新たな見方を受け入れて協働の途を模索することは、知の創造のチャンスでもあります。微力ながら尽くしたいと存じますので、どうかよろしくお願いいたします。



経営学研究科長
小林 哲

このたび経営学研究科長に就任した小林哲と申します。大阪市立大学は、昨年140周年を迎えましたが、その始まりは1880年に設立された大阪商業講習所まで遡ります。経営学研究科は、この大阪商業講習所から、大阪高等商業学校、大阪商科大学を経て脈々と続く伝統を受け継いでおり、そのDNAを新たに誕生する大阪公立大学に橋渡しできればと思っています。今後とも支援のほどよろしくお願いいたします。



経済学研究科長
滋野由紀子

本学における経済学の教育・研究は140年を超える歴史を持ちますが、自由かつ協働を大切にする学風のもと、ひとつの視点だけに固執せず重層的・複合的なアプローチを重視し、通説に囚われることなく社会経済の諸問題に取り組む伝統が築かれてきました。その伝統を継承しながらも、日々、加速していく社会のグローバルな変化に十分応えうる教育・研究の実践に尽力して参ります。今後ともご支援を賜ります様、お願いいたします。



法学研究科長
鶴田 滋

法学研究科長に就任しました鶴田滋と申します。2022年4月の大阪公立大学開学へ向けて、現在、様々な準備を行っています。大阪公立大学大学院法学研究科・法学部は、大阪市立大学大学院法学研究科・法学部を母体に、大阪府立大学の法学・政治学の教員をお迎えして、さらに発展してまいります。新大学へのスムーズな移行には、大阪市立大学の同窓会の皆様のご協力が不可欠です。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



文学研究科長
添田晴雄

ワシントンヤシが約30歳ごろの1988年に後期博士課程に入学して以来、ずっとこのキャンパスにいます。ワシントンヤシが60歳の定年を迎え引退したときはショックでしたが、常に変化していくこそが持続可能な社会と納得しました。今の学生に20年後、30年後に大阪市立大学で学んでよかったと思っただけのよう、教育研究の環境づくりに励みます。卒業生の声が大学の価値を決めると確信しています。よろしくお願いいたします。



都市経営研究科長
遠藤尚秀

監査法人で各種民間企業・大学・自治体の外部監査や経営指導に従事して参りました。その後、海外や我が国自治体ガバナンス、公会計をベースとした公共経営について研究する傍ら、会計専門職大学院などでの勤務を経て、都市経営研究科で自治体会計、都市経営論の教育に携わってきました。4月から都市経営研究科長を拝命し、都市のイノベーションとサステナビリティをキーコンセプトに、教職員一同、最先端の社会人教育を提供して参ります。



看護学研究科長
河野あゆみ

このたび、看護学研究科長を拝命いたしました。医学部看護学科は開設18年目、看護学研究科は14年目を迎え、いよいよ来年には新大学看護学部としてスタートを切ることになります。看護分野はこの30年間に大きく進歩し、科学とケアを融合し、医療保健福祉に必要な技術革新と社会実装を推進することを求められています。変化を求められる時代、戦後から優秀な看護人材を送り出してきた本学の伝統をふまえ、人材育成と地域住民の健康維持増進、実践知の蓄積に尽力して参ります。ステークホルダーの皆様にはよろしくご支援のほどお願いいたします。

「創立140周年記念事業」は「ラストイチダイ事業」へ

2020年本学は創立140周年という大きな節目を迎えました。併せて新型コロナウイルス感染拡大の猛威と闘う1年ともなりました。

創立140周年記念事業では、20年11月に「1号館ミュージアム構想」の一環で「140周年記念展示室」を開設、12月には「140周年記念式典」を開催、21年3月には「1号館講堂の改修」と「全天候型グラウンドの整備」が完成するなど、これまでの本学の長い歴史と伝統を踏まえ、新たな歩みを展望する事業を展開してきました。

卒業生の皆様には、140周年記念事業の成功はもとより、新型コロナウイルス緊急学生支援事業や学生・教職員対象のPCR検査実施事業など、夢基金へのご寄附など多くのご支援、ご協力を賜りましたこと心よりお礼申し上げます。

22年4月の大阪公立大学(仮称)の設立を控え、本年度は大阪市立大学として、まさに「ラストイチダイ」の年度となります。ラスト(LAST)は文字どおり「最後の」という意味ですが、「続く」という意味もあります。

「140周年記念展示室」を「大学史資料博物館」として育てていく「1号館ミュージアム構想」の実現を「ラストイチダイ」事業の核として位置付け、「ラストイチダイ記念誌」、そして11月3日開催の「ラストホームカミングデー」で盛り上げていきます。詳細は引き続き広報してまいりますので、ぜひご注目ください。

卒業生の皆様には、今後とも母校へのご支援をお願いしますとともに、コロナ禍の中、益々ご自愛いただきますよう祈念いたします。

(大学サポーター交流室)



写真=創立140周年を祝い行われた ①記念式典 ②記念展示室の開設 ③全天候型グラウンドの整備 ④講堂改修竣工セレモニー

140周年記念講堂竣工セレモニーと卒業式

今年3月24日、大阪市立大学140周年記念講堂竣工セレモニーと卒業式が行われた。当日は晴天に恵まれ、春の風も心地良かった。140周年記念講堂は、歴史ある旧講堂を改築し、建設当初のモダニズム建築を復元している。

セレモニーで全学同窓会の岡本直之会長は「建設当時のデザインを尊重し、材料も石材などをあらいにかけて再利用している。140周年記念にふさわしいものになった。学生に親しみのある場所になってほしい」とお祝いの言葉を贈った。

卒業式はピカピカの140周年記念講堂で行われた。例年とは違い、総代式典として学部や研究科の代表者のみが出席する形となった=写真=。

式で荒川哲男学長は「大学生活最後の年にコロナ禍で過ごしたことは辛いと思うが、100年に1度あるかないかの未曾有の出来事を経験し、学んだことを社会に出た後も活かしてほしい」と卒業生にエールを贈った。

文責 片山翔太(法2)



令和3年度入学式

今年4月5日、大阪市中央体育館にて本学の令和3年度入学式が挙行された。今年度の入学者数は、学部では商学部238人、経済学部230人、法学部176人、文学部164人、理学部160人、工学部296人、医学部医学科94人、医学部看護学科56人、生活科学部127人の計1541人。感染症対策のため、式典には新入生のみが参加した。



式では、まず荒川哲男学長が新入生に歓迎の挨拶を述べた。荒川学長は挨拶の中で、「昨年度はコロナの流行により、対面での入学式が開催できなかった。2年越しに対面で開催できたことをうれしく思う。また、来年度から大阪府立大学と統合するため、皆さんは大阪市立大学の最後の入学生になる。新入生の皆さんには、2つのミッションがあると思っていただきたい。一つは、4年後に本学の最後の卒業生として有終の美を飾っていただくこと。もう一つは、大阪市立大学の伝統を守りつつ、新大学に繋いでいくこと。本学でも『ラストイチダイヤー』と名付けて、学生の皆さんと一緒に盛り上げていきたい」と呼びかけた。

さらに、大阪市立大学の歴史と卒業生の活躍にも触れて、「本学では、偉大なる先人たちが作りあげた自由と進取

の気風が受け継がれている。皆さんも自由に考え、自由に行動して様々なことに挑戦してほしい。さらにコロナ対策を万全にして、学業・課外活動に励むことができる環境を提供する」と語った＝写真＝。

続いて祝辞が披露され、松井一郎大阪市長は「140年続く大阪市立大学で、皆さんが新たな価値の創造にチャレンジされることを願う。そして令和7年度には大阪・関西万博が開催される。未来社会の主役である皆さんも、積極的に万博に参加していただきたい」と話した。

式はその後、大阪市立大学交響楽団による音楽演奏が行われ、滞りなく終了した。赤松みなみ(商2)

戦没学友の碑 献花の集い

今年4月8日、「戦没学友の碑 献花の集い」が開催された＝写真＝。式典は今回で13回目を迎え、戦後に有志の方の強い想いによって作られた碑の前で実施された。例年は遺族の方々や教職員も参加するが、今回は新型コロナウイルスの影響で規模を縮小し開催された。内容も、代表者の挨拶と献花のみとなった。荒川哲男学長は挨拶の中で、「戦争は繰り返してはならない。これからも歴史と伝統を伝えていきたい」と述べた。福田夏実(文4)



大槌町への震災援助 市大病院に感謝状

10年前の3月11日に起こった東日本大震災直後に、大阪市立大学医学部附属病院から日野雅之副院長らによる緊急医療隊が町民の1割が犠牲になった激甚災害地区の岩手県大槌町へ向かった。以後1カ月、必死で避難所での医療など続けたのち、自衛隊医療班に引き継がれた。

その後当時の荒川哲男第三内科教授兼医学部長の発案でボランティア団体「なにわすまいるず」が創設され、経済的困窮に陥った就学前の現地の中・高生への生活援助など、小児科の山口悦子医師らが現地で奮闘した。

現地の人たちや市大附属病院の食

堂での寄付、献金などで7～10万円／年×28人を捻出。10年を経た今、援助を受けた中・高生らは立派な社会人に育ち、本年を以て大槌町へ奨学金制度引き継ぎが行われた。

今年2月7日、平野公三大槌町長から平田一人市大附属病院長へ感謝状が贈られた＝写真＝。

援助の内容は大規模なものではな



かったが、初期医療の迅速性と庶民的熱意の継続性が大手新聞など数紙に評価され写真入りで掲載された。

田中祐尾(医昭44卒)

全天候型グラウンドオープニング

今年4月8日、人工芝グラウンドのキックオフイベントが行われた=写真=。このグラウンドは、同窓会や大学関係者などからの夢基金による寄付で実現したもの。これまでは土のグラウンドだったが、学生の安全面などを配慮し今回の完成に至った。OCUSAの吉田祐一副会長は「念願の新グラウンド完成となりうれしい。学生には、夢を持って頑張ってもらいたい。これから市大生のみならず統合後にも学生が使っていくことを願っています」と述べた。 福田夏実(文4)



就職活動状況について

キャリア支援室長
阿部剛史



今春卒業した学生の就職活動では、コロナ禍により一部の企業において採用活動停止や採用数の削減が見られましたが、本学においては概ね昨年並みの91%程度(令和3年2月末時点)の内定率となりました。

現4回生およびM2生については、大きく様変わりした就職環境も2年目となり、学生・企業・官公庁共に環境の変化に対応しつつあります。一方で本学の学生にも人気のある空輸・鉄道業界の一部では一層の採用活動の縮小が報道されるなど、今後の業界動向には注意を要する状況です。

就職活動の大きな変化としては、これまで理系院生が早期に内々定を得ていましたが、インターンシップからの選考で文系学生でも3回生の3月時点で早期内々定を得るようになってきました。採用面接においてもWEBを主体としつつ最終面接等では対面とするなど、学生・企業の両者が安全かつ活動しやすい環境が整ってきていますが、学生においては多様化する就活への対応力が求められる

状況となっています。こういった状況下、キャリア支援室では今後も学生の安全・安心を最優先課題とし、適切な支援を提供できるよう鋭意努力してまいります。

優勝! 三大学留学生日本語スピーチコンテスト

2020年11月29日(日)、関西大学梅田キャンパスにて本学、大阪府立大学、関西大学の三大学包括連携協議会主催による「第4回三大学留学生日本語スピーチコンテスト」を開催しました。テーマは「多文化との交流体験」。三大学で学ぶ留学生2人ずつ計6人が日本語によるスピーチを行い、内容や表現力を競いました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、観客はオンラインでの参加となりましたが、留学生たちは例年通りの熱いスピーチを繰り広げました。

本学からは理学研究科後期博士

カール・マルクス『資本論』 Das Kapital 初版本 大阪市立大学学術情報総合センター にあるのをご存知ですか?



齋藤幸平先生(本学経済研究科)の著作とおすすめの図書を集めた企画展示「経済学研究科 齋藤先生『100分de名著』出演記念展」が、本学学術情報総合センター2Fで開催されました(2021年1/5-31)。齋藤先生は『資本論』の研究で今注目の方です。同窓会報に掲載した齋藤先生のインタビュー記事に、同窓生のみなさんから大きな反響をいただいたのは記憶に新しいところです(「有恒」21号14-15頁参照)。

『資本論』初版本は100部が現存しているといわれていますが、その中の3冊を本学が所蔵しています。学情所蔵の『資本論』=写真=には残念ながらマルクスの署名はありませんが、非常に貴重なものが大阪市立大学にあることに違いはありません。

1996年に開設された学情は「学術・文化交流の拠点」として、本学学生をはじめ教職員や卒業生、大阪市民の方々に広く利用されています。また学情では、様々なテーマで企画展示が常時行われています。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

中村祐子(文平27卒)

※ご来館の前に、利用条件、必要書類をご確認ください。

学情HP https://libweb.media.osaka-cu.ac.jp/?page_id=290



課程2年のLuis Pedro Castellanos Moscosoさん、経済学部4年の譚佳さんが出場しました。Luisさんは「結局、みんな人間です」、譚佳さんは「すぐに謝る日本人vs謝らない外国人」というタイトルでスピーチし、見事譚佳さんは金賞、Luisさんも奨励賞という輝かしい成績を収めました。お二人の活躍で、今年度本学は団体の部でも優勝という素晴らしい結果を収めることができました。(国際センター)



第4回三大学留学生日本語スピーチコンテストで見事金賞を受賞した譚佳さん(中央)と奨励賞のLuisさん(右)。左は小栗章理学研究科教授。

公式キャラクター「杉本カメイチ」がメロンパンに

2020年、杉本キャンパス公式キャラクター「カメイチ」が誕生しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、在学生や卒業生へ周知する機会がほとんどありませんでした。

そこで、文学部生4人が「カメイチのメロンパンを通じて、多くの人に愛らしいキャラクターを知ってもらいたい。杉本キャンパスの愛着を深めてもらうきっかけになってほしい」との思いで、「カメイチメロンパン」＝写真＝を企画しました。

製作は生活科学部卒業生である Pain de Singe(パンドサンジュ)の門田充氏にお願いし、細かい部分も忠実に再現。杉本キャンパスのシンボルである1号館やヤシの木にチョコレートを、芝生部分にはメロン果汁がたっぷりのビス生地を使用しています。

見て、そして食べて、二度楽しみがある「カメイチメロンパン」となりました。4月より生協シェリーにて販売しています。生協Webサイト(https://ocucoop.jp/shop/shop_309.html)からも購入が可能です。ぜひ、この機会にご賞味ください。

(広報課)



カメイチメロンパンを企画した文学部生ら

第8回地域連携発表会を開催

地域連携センター主催の「第8回地域連携発表会～with/afterコロナで考えるつながりのかたち～」を2021年3月9日、オンラインで開催しました。

前半は、本学学生による地域での取り組み発表6件が行われました。学生発表は審査員や参加者投票による授賞を設け、医学研究科、高田勝子さんの「国境を越えたプライマリヘルスケアプロジェクト」が所長賞を受賞しました。

後半は、「徳島県との協働事業」「JR西日本の鉄道事業」「フィリピンの大学との合同教育プロジェクト」といった国内



外における3件の事例が発表された後、事例発表者を囲んだ少人数の座談会を実施し、さらなる意見交換を行いました。コロナ禍により、これまでの繋がりを保つことやフィールド活動が困難な中、いずれの事例もオンライン化などの新たな工夫によって活動を維持したことが報告されました。

当発表会のオンライン開催は初の試みとなりましたが、with/afterコロナにおける地域連携の方法や可能性について共有する機会となりました。

(地域連携センター)

第6回日中大学学生文化交流展開催

「第6回日中大学学生文化交流展～reunion'コロナ禍の今だからこそつながろう'」は今年3月29日から4月1日までの4日間、大阪市立大学田中記念館ホワイエで開かれたほか、本学全学同窓会HPでオンラインでも開催しました。

交流展は上海大学、大阪市立大学、大阪府立大学、神戸大学の学生企画

で、本学からは青桃会、Accord、応援団、チーム朱蘭、写真部、混声合唱団、フリーデ、落語研究会、邦楽くらぶ、上海大学からは書道部、吹奏楽部、さらに神戸大学美術部凌美会、大阪府立大学美術部翠陵会が参加しました。

4大学の現役学生と本学の卒業生からの特別出品を含め、書や絵画、写真、映像など約40点を展示。最終日には、荒川哲男学長にも参加していただき、コロナ禍でのオンライン上での開催など、これまでなかったWEBでの交流展となって無事閉幕しました。

本展示会は出品者、全学同窓会、大学、観覧者等、多くの方々のご協力により実

現することができました。お忙しい中ご協力して下さり、本当に有難うございました。わけでも特別出品いただいた荒川学長、岡本直之全学同窓会長、塚本喜左衛門教育後援会副会長、ならびに水墨画ライブアートを開会式にて披露いただいた田仲勇一郎氏(経昭46卒)には深く感謝申し上げます。

オンライン会場である全学同窓会HPでは、引き続き作品とパフォーマンス動画を掲載させていただきます。お時間のある時にこちらのQRコードから観覧していただければ幸いです。



文責:実行委員長
橋本美沙紀(商3)



荒川学長(前列中央)と実行委員会のメンバーら＝大阪市立大学田中記念館ホワイエで

大阪市大病院における 新型コロナウイルス対応について

大阪市立大学医学部附属病院副院長
新型コロナウイルス対策室長 柴田利彦

大阪市立大学医学部附属病院は新型コロナウイルス感染症の治療において人工呼吸が必要な重症患者を担当してきました。大阪では重症・中等症を担当する病院が区分されており、大阪府新型コロナフォローアップセンターがその管理をしています。



中等症病院から重症病院へ搬送する場合にも各病院が個別で転送先を探す必要がなく、その逆の場合にも円滑に転送できました。そのため、大阪府では最大180人の重症患者が発生(日本最多)した状態でも、大きな医療崩壊を呈することなく対応することができました。東京では大学病院が重症・中等症の両者に対応したため重症対応が逼迫したのと対照的です。

昨年12月に住吉区にできた重症コロナセンター(30床)も有用でした。このセンターでは人工呼吸から離脱できない長期化した重症患者のみを扱う仕組みとなっており、設置後は市大病院としては新規に発生した重症患者を中心に対応できました。それでも今年1月には常に9-10の重症患者に対応しなければならない状態でした。



大阪市立大学医学部附属病院の救命救急センターに搬入される患者

新型コロナウイルスへの対応は未知のものであり、第1波時には手探り状態でした。多くの看護要員を投入しその体制確保するため合計4病棟を閉鎖することになりました。三次救急も一時中止し入院手術も減りました。緊急事態宣言下に外出を控えなければならず、外来通院患者さんへの投薬が問題となりました。独自の取り組みとして「電話受診・FAX処方」を行うため専用のコールセンターを設置し、3000人の患者さんに利用してもらいました。

第3波ではこれまでの経験を活かし、三次救急も止めず手術数の減少も抑えるなど病院機能の低下を最小限にしてきました。コロナ対応にはスピードある決断と実行が必要です。感染蔓延期には土曜日も含む毎朝カンファレンス

を行い、毎週の全体説明会で当院の現状と展望を院内で共有しました。市大病院として各職種が共通認識の元に一丸となって対応できたと思います。

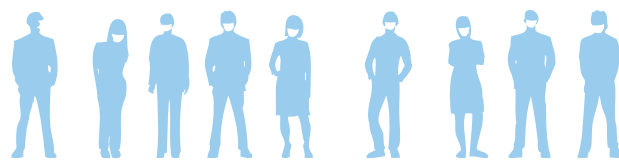
基礎医学分野においては寄生虫学教室の城戸康年准教授が高感度の抗体測定システムを開発し、厚生労働省の全国調査においてもこのシステムが活躍しました。感染制御部は市大病院内のみならず、クラスターが発生した施設へ出向きその指導対策にあたりました。

ご存知のように十三市民病院は急きょコロナ専用病院となりました。十三市民病院の多くの医師は市大から派遣している医師です。彼らの援助のため10人の内科チームを派遣し、十三市民病院での中等症患者収容数の増加に寄与しました。重症コロナセンターにも医師・看護師を派遣しています。今後はワクチン接種においても協力していく予定です。

大阪市内に存在する大学病院として、どのように社会貢献すべきかを職員全体で考えて実行してきました。このような貢献をするためには、やはり市大病院は今後も大阪市の真ん中にあり続けなければならないと思っています。



コロナ対応病棟



森下会計事務所

所長 税理士 森下 豊
(商学部 昭和47年卒)

事務所 _____
〒532-0011 大阪市淀川区西中島5丁目12番8号
新大阪ローズビル 303
TEL. 06-6308-2802 FAX. 06-6308-2151
E-mail: morisita@apricot.ocn.jp



人の心を豊かにする表現者に ミスユニバーシティ日本大会に出場

平谷珠季さん(理学部化学科4年)

ミスユニバースジャパン、ミスグラウンドジャパンとともにベストオブミスの1つであるミスユニバーシティ2020ファイナリストとして、昨年11月の日本大会に出場を果たした奈良県代表、平谷珠季さん(理学部化学科4年)。今回の経験を生かし、「生活を豊かにできる化学に携わっていることに誇りを持ち、人の心を豊かにする表現者を目指したい」と将来の夢を語る。

■ベストオブミス参加のきっかけを教えてください。

「三大ミスコンに参加している女性は、ただ美しいだけでなく、自分自身をよく知り、社会について学び、考え、その考えを世の中に発信していけるような、芯の強さがあると思います。私もそんな女性として成長するためにベストオブミスに参加しました」

■ミスユニバーシティ奈良県代表に選ばれたときはどんな気持ちでしたか。

「大会まで自分と向き合って、努力してきたことを評価していただけてうれしい気持ちと、それまでに応援して支えてくださった方々への感謝の気持ちで一杯でした」

■自分自身を一言で表すと。

「周りを癒すことができる人間だと思います。昔から癒し系だと言っていただけが多いのですが、それは相手の話を真正面から一生懸命に聞いて、どんな時も受け入れようと心がけているからではないかと思っています」

■小さい頃のあなたはどんな子でしたか。

「外で遊ぶことや工作が好きで、よくいたずらをするような活発な子でした。またとても負けず嫌いで、やってみたいと思ったことは何でも挑戦する子でした」

■あなたの“美の秘訣”を教えてください。

「毎日野菜を味噌汁やスムージーにしてたくさん食べること、3歳から17歳まで習っていたバレエでやっていた柔軟や筋トレをすることです」

■あなたのチャームポイントは。

「目の下にある泣きぼくろと、生まれつき茶色い髪の毛です。昔は顔にたくさんほくろがあるのがコンプレックスでしたが、自分でメイクなどを研究する様になって、チャーム

ポイントになりました」

■今までで1番頑張ったことを教えてください。

「大学の受験勉強です。自分の限界を超えて、自分に自信を持つことができたなら、これからの人生で何かをやり遂げる時の糧になると思ったので、毎日12時間以上勉強にだけ打ち込んでいました」

■憧れている人は。

「私の母です。私の母は、娘の私の夢を精一杯応援してくれていますが、それと同時に母である前に1人の女性として、自分の夢をずっと追いつけてきた人なので、私もそんな風にならなくて夢や目標を持ち続けて、それに向かって努力できる人になりたいと思っています」

■大阪市立大学を選んだ理由は。

「学科の定員が少ない分、教授と生徒の距離が近く、より丁寧に勉強を見ていただけたと思ったので大阪市立大学を選びました」

■在学生だからわかる大阪市立大学の魅力について教えてください。

「美味しいイタリアンが食べられる『野のはなハウス』というレストランが学術情報総合センターにあることです。学食とはまた違っていて落ち着いた雰囲気なので、ゆっくり寛ぐことができます」

■将来の夢、今後について教えてください。

「私は地方大会でも、日本大会でも、人を思いやる心についてお話しさせていただきました。私は誰かを思いやることは立派な社会貢献だと思っています。人の生活を豊かにすることのできる化学に携わっていることに誇りを持ち、私の演技や文章で人の心を豊かにできることを願いつつ、何事にも真心を込めて取り組んでいきたいと思っています」

●ミスユニバーシティとは

ミスユニバーシティ(MISS UNIVERSITY)は全国の大学生、専門学校生の中から日本一を決める全国版ミスキャンパス。次世代のオピニオンリーダーの発掘や女性の潜在的な能力、魅力を引き出し、女性活動のフィールドを広げることを目的に毎年開催されている。昨年は北海道から沖縄までの各県での地方予選(ベストオブミス県大会)が行われ、ミスユニバーシティグランプリとなった18人が県の代表として11月30日に埼玉県内で開催された「ミスユニバーシティ日本大会」に出場した。

インタビュー 中村祐子(文平27卒)



ミスユニバーシティ日本大会に出場した平谷珠季さん

市大の
思い出

4年間の思い出

廣山紗千(商学部)

私の市大の思い出はアイスホッケー部のマネージャーとして4年間活動したことです。特に4年生の1年間は思い出に残っています。同級生にマネージャーがいなかったため1人で後輩7人を引っ張らなければならず、またコロナウイルスによって部活動が制限されたため、例年よりも限られた時間で教えなければならなかったからです。



時には厳しく注意する必要があり、ついてきてくれないかもしれない不安や、自分が1番できなければならないプレッシャーを常に感じていました。そのため練習中のビデオを何度も見返して後輩の仕事を確認したり、選手たちに話を聞いて仕事の根本を改めて理解したり、部活外にたくさん時間を割いて取り組みました。

引退時に後輩から「先輩のようになれるよう頑張ります」と言われたときは本当にうれしかったです。そして選手たちがやりきった姿をみたとき、頑張ってた良かったと思いました。ずっと応援してくれた家族や友達、最高の思い出にしてくれた部員全員に感謝の気持ちを述べたいです。

モラトリアム期間

安藤寛修(経済学部)

大学生の間は、時間が山ほどあったので、今後長らく自分の生き甲斐になっていく趣味を見つけることができました。お笑いをやることです。市大にはお笑いサークルがなかったので入学と同時に仕方なく落研に入りました。最初は落語には興味がなかったのですが、創作落語に出会い、それがいかに自由であるかを知った私は創作を何本も作りました。また2回生になる直前からフリーの芸人としてプロ



の芸人さんに交じって舞台に立ったりもしました。

この4月から就職するのでこれらは全て「趣味」に変わりますが、お笑いがこれからの生活を豊かにしてくれることには変わりありません。ここには書ききれないほど沢山の経験ができたのは「大学生」という特別な期間があったからにはほかなりません。

この春から私は公立大学法人大阪の職員になります。そこにやってくる学生さんたちにも、今後の人生を彩るような特別な出会いがあればいいなと思いながら、傍らで見守っていきたいと思います。

大学生活を振り返って

西首龍真(法学部)

私の大学生活は高校生の頃にイメージしていたものと大きく違っていました。この原因として硬式野球部に所属したことがあります。私が高校生の頃にイメージしていた大学生活は大きな教室で多くの友達と授業を受け、合コンに参加し、飲み会にも参加し、長期休暇には旅行をするというものでした。



それが実際はどうでしょうか。授業は部活の仲間としか受けることはなく、合コンにも行けず(これは私の資質によるものですが)、次の日の練習に影響が出るため、なかなか飲み会にも行けず、7泊8日の野球しかしない合宿に行くことはありましたが、旅行をすることはできませんでした。

しかし、得たものはイメージしていた大学生活を送れなかったことよりも大きかったと思います。仲間と共に目標に向かって必死に取り組み、多くの喜びを共有することができたことは、かけがえのない財産になりました。また、唯一無二の仲間を作ることができました。

この大学野球で得たものを胸に社会人として成長していきたいと思っています。

大学の思い出

小林由紀彦(文学部)



私はこの大学生活を通して、人との繋がりの大切さを実感しました。他大学と行った演劇祭の運営、留学、アルバイト。私はこの4年間でたくさんの方に挑戦しました。しかし、コロナ禍での就職活動や卒業論文

の執筆は、今振り返ると大学生活の中で最も大きな挑戦だったのではないかと思います。自分の意志とは無関係に困難な状況に置かれたからです。

しかし、そんな中でも部活動や私の所属する教育学コースの仲間、そして先生が支えてくれました。周囲と直接的な交流が遮断された中でも、互いに励まし合うことで乗り越えることができたと思います。

今までの当たり前が大きく揺らいだ一年を4回生で過ごしました。しかし、これまで関わってきた人の大切さを再認識する年でもありました。「為せば成る」。やればできるという意味で私が大切にしている言葉ですが、一人でできることは限られています。他者との対話が大きな支えになることを強く実感した大阪市立大学での4年間でした。



4年間を通して



小谷悠人(理学部)

学科での野外実習、たくさんのライブ・フェス観戦、学園祭でのプラネタリウム解説、友人との会食や旅行、研究活動、この4年間で数え切れないほど思い出ができました。そのどれもが自分1人だけではできなかったことです。本当に周囲の人々に恵まれたと感じる学生生活でした。

また、「挑戦すること」の大切さを実感する大学生活でもありました。私はボランティア活動、留学、学会発表のような特別な活動は全く行っていません。ですが、「ライブに参加してみる、ボクシング、読書、キャンプ、プラネタリウムをしてみる」など小さな挑戦をしました。これを挑戦と言ってもいいのかわかりませんが、私にとっては全て初めてであり、間違いなく、そこには学びがありました。

また、「挑戦すること」の大切さを実感する大学生活でもありました。私はボランティア活動、留学、学会発表のような特別な活動は全く行っていません。ですが、「ライブに参加してみる、ボクシング、読書、キャンプ、プラネタリウムをしてみる」など小さな挑戦をしました。これを挑戦と言ってもいいのかわかりませんが、私にとっては全て初めてであり、間違いなく、そこには学びがありました。

社会に出ても周囲の人を巻き込み、協力しながら大小関係のない挑戦を積み重ねていきたいと思います。そして、これから出会う人たちや学生時代の友人から見て、恥ずかしくない自分でいられるようにこれからも頑張っていきます。

自分を成長させてくれた6年間

岩崎 暖(工学研究科)

出会いと学びに恵まれた学生生活でした。「格好いいから」という理由だけで入学前から心に決めていた馬術部では、馬の手入れや餌代バイトに追われる泥臭い毎日を送りました。騎乗姿もついに様になりましたが、同じ目標に向かって仲間と切磋琢磨し、馬との関係を築くため試行錯誤した日々は私にとっての宝物です。副専攻の選択も入学前から決めており、ここでは2度の海外派遣の中で夢を語り合える大切な同期を得ることができました。



研究室配属以降は挫折も味わいました。研究はうまく進められず、設計演習では遥かに優秀な先輩を目の当たりにし、就活も進む中、自分の価値について自問する日々が続きました。独りよがりになりがちな自分が、相談できる人たちの大切さに気付いたのはこの頃だったと思います。

市大の良いところは、学生に対し親身になってくれる職員の方々の存在、そして行動すれば望むものが手に入れられる環境だと思います。6年間過ごせたことを誇りに思い、卒業生として相応しい活躍ができるよう精進してまいります。

思い出の女子ラクロス部

小無田友里(生活科学部)



4年前、手にした食品栄養科学科の合格通知、あの時の体を突き上げるような喜びは今でも鮮明に覚えています。憧れ続けた学科で、素敵な友達と大好きなことを学べた4年間、課題や実習のしんどさも良い思い出です。

そして、私の大学生活の全てともいえるのが、体育会女子ラクロス部での活動です。2020年のラストイヤーは、新型コロナの影響でリーグ戦開催中止の判断が下され、前代未聞の年となりました。最後の年にして、「一部昇格」という目標に挑戦することすらできない、この悔しさを私はなかなか受け入れられませんでした。

でも、私の同期は本当に強くて「来年のチーム、後輩のために私たちが残りの時間でできること、残せることは何だろう」、そう前を向いていました。チーム理念である「全員がチームのことを考えて行動できるチーム」を最後まで貫いていました。こんなに誰かのために最後まで全力になれる、そんな仲間と出会えたこと、4年間の喜怒哀楽を共にできたこと、それだけで市大に来て良かったと思います。今年のリーグ戦では、一生懸命で頑張り屋な後輩たちが、私たちが見られなかった景色を見せてくれると思います、頑張れ'21チーム!

市大の思い出

看護学生のコロナ対応

古和田翔子、外谷有紗、藤田未来
(医学部看護学科)

昨年は新型コロナウイルスの世界的流行により、私たちの学生生活も大きく変化し、その状況に適応することを余儀なくされた。



学生生活は、同じ講義を受け、同じ志を持った仲間と過ごせることが醍醐味の一つである。しかし昨年は、顔を合わせることかできるのが画面上のみであり、家にいる時間が長くなった。そのような状況に適応するにあたり、私たちが大変だと感じたことは2点ある。

1つ目は、オンラインでのコミュニケーションの取り方である。オンラインでは、対面よりも相手の表情や雰囲気、声のトーンなどがわかりにくくなるため、仲間と会話していても、微かなズレを感じるが多かった。

2つ目は、自己管理である。モニターに長時間向かい、身体的な疲労が大きかった。また、課題の提出期限や講義の時間など、スケジュールの管理も大変であり、適応するまでに時間を要した。

そのような状況でも、なるべく早期に適応できるようにした。SNSやオンライン通話を用いて自主的に交流の機会を設け、国家試験勉強の励まし合いなどを行い、人と関わる機会を増やすよう工夫した。

オンライン授業では、照明などの環境を整備し、表情を大きくするなど少しでも相手に雰囲気や表情が伝わりやすく工夫した。また、体力が衰えないよう、散歩をしたりストレッチをしたりした。時間の管理では、友人と進捗や連絡事項を協力して行うことで、少しでも管理できるよう工夫した。

今後はオンライン上での交流も増え、遠方にいる人とも

交流できるというメリットを実感することも多くなると予想する。笑顔でいることや相槌を打つなどは、対面でもオンラインでも、重要なことは同じである。技術の革新によって、コミュニケーションの方法も多様に変化していきだろう。

私たちは2021年3月に卒業し、それぞれ大阪市立大学医学部附属病院、聖バルナバ助産師学院、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻・博士前期課程・助産師教育課程に就職もしくは進学した。様々な変化に適応しながら、今後も積極的に人と関わる機会を持ち続けたいと思う。



クラブ紹介

国際交流団体OGM

国際交流団体OGM(Osaka City University Global Members)は大阪市立大学国際センター公認の団体です。現在28人で活動しています。主な活動は、英語で交流する定期イベントや国際交流会の運営です。留学生支援の役割

も担っており、空港に留学生を迎えに行く活動や留学生のためのキャンパスツアーも企画しています。



現在は対面で行っていたEnglish chatをオンラインで開催しています。夏休み中には、世界の国々をテーマに会話する「バーチャル世界1周」を実施しました。さらに去年は、イスラム文化を紹介しているジャパンダアワセンターとの交流も実現しました。今後の目標は、大阪の行政や経済団体が参画する「留学生支援コンソーシアム大阪」とのコラボイベントを企画することです。

そんなOGMですが、所属する約半数は大学から国際交流を始めました。海外経験がない人や英語に自信がない人でも安心して参加できます。OGMは国際交流を通して今しかできない貴重な経験ができる団体です。

赤松みなみ(商2)

家事相続・不動産・民商事法務・企業法務・事業再生・事業承継・M&A・特許知的財産・
国際的ネットワークを利用した海外法務まで実践的なワンストップサービスを提供



弁護士法人 **中央総合法律事務所**
CHUO SOGO LAW OFFICE, P. C.

代表社員会長弁護士 なか つかさ **中務 嗣治郎**

- | | | |
|-------|-----------|---|
| 大阪事務所 | 〒530-0047 | 大阪市北区西天満二丁目10番2号
幸田ビル11階(受付5階)
電話(06)6365-8111(代) FAX(06)6365-8289(代) |
| 東京事務所 | 〒100-0011 | 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
日比谷国際ビル18階
電話(03)3539-1877(代) FAX(03)3539-1878 |
| 京都事務所 | 〒600-8008 | 京都市下京区四條通烏丸東入ル
長刀鉾町8番 京都三井ビル3階
電話(075)257-7411(代) FAX(075)257-7433 |

同窓会ニュース



有恒会定期総会と130周年記念式典開催

と き:令和2年11月3日(祝)

ところ:大阪市立大学学術情報総合センター

毎年有恒会定期総会の直前に行われる有恒会評議員会は、新型コロナウイルス感染防止の見地から、メールもしくは文書での決議となった。定期総会も毎年6月に開催されているが、これも延期され11月3日開催となった。

定期総会では、会則一部改正ならびに令和元年度活動報告と決算報告、令和2年度活動計画と予算案等が審議、承認された。

令和元年度は、6月に評議員会・定期総会が開催され、支部総会、就職支援「現職卒業生と現役生の交流会」や「ビジネス交流会」なども開催されたが、令和2年3月開催予定の全国支部代表者会議は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止された。

令和2年度は、有恒会創立130周年にあたる記念すべき年であり、事業スローガンとして有恒会の名称に鑑み『恒心・継承・飛翔』が採択された。しかしコロナ禍の中、各種行事が中止、延期され、有恒会総会と130周年記念式典も11月3日まで延期された。その中で在学生支援交流会はWeb開催により行われ、苦しい状況下ではあったが活動できた。最後に大阪府立

立大学との統合による新しい有恒会の方向性として、府大同窓会と一緒に学生支援、大学支援を行うこと、評議員制度廃止と運営本部廃止等によりスリムな組織を目指すことなどが説明された。

総会終了後、有恒会創立130周年記念式典に移った。岡本直之会長と荒川哲男学長の挨拶があり、有恒会スローガンの優秀賞として中村祐子さん(文平27卒)が表彰された。次にコロナ禍支援として、市大医学部附属病院、大学祭実行委員会、野のはなハウスを運営する社会福祉法人野のはなにそれぞれに100万円が贈呈された。有恒会アワード表彰では、令和元年度優秀賞の京滋支部と特別賞6支部のうち近隣2支部に表彰状と金一封が贈呈された。残り4支部については事務局からの発送となった。

竹中敏実(経昭49卒)



創立130周年記念式典でコロナ禍支援や表彰を受けた人たち
(前列中央は岡本会長)

工学部同窓会第32回評議員会

第32回(2021年)評議員会は、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言下にあることから、実開催を断念し文書での決議となった。

1号議案2020年度事業報告では、主なものとして以下2点があげられる。

- ① 新型コロナウイルス感染症の拡大により、困窮学生支援のため、大学「夢基金」に500万円を寄付。工学部・工学研究科が設けた「COVID-19困窮OCU工学生支援制度」を同窓会として支援するため、900万円寄付した。
- ② ワーキンググループを設置し、大学統合後の現工学部同窓会の在り方を検討するとともに新大学における同窓会の在り方について府大同窓会関係者、市大同学同窓会関係者と協議。

次いで2号議案2020年度収支決算及び会計監査報告が承認され、3号議案2021年度(第25期初年度)理事・役員案が承認された。今回は会長交代があり、宇野勝久会長から斉藤壽士会長(昭44卒)にバトンタッチされた。

4号議案2021年度事業計画案では、引き続き統合後の

現工学部同窓会の在り方を検討し、年度内には2022年4月以降の同窓会組織(案)を作成し、会員に提示する予定。最後の5号議案2021年度予算案には、COVID支援寄付200万円が含まれる。まさに新型コロナウイルスに翻弄された1年であった。

山本 孝(工昭45卒)



斉藤壽士新会長

理学部同窓会総会の開催

と き:令和2年11月3日(火)

ところ: 田中記念館3階会議室

理学部同窓会総会が令和2年11月3日、田中記念館3階にて行われた。出席者はコロナの関係で10人と少なかったが、マスク着用とフェイスガードで感染防止対策をして実施し、同窓会活動についての積極的な意見が多数出された。

まず、三木久巳会長から全学同窓会総会の報告と挨拶があり、畑徹副会長より昨年度の活動報告、三田村宗樹副

会長より会計報告がされ承認された。また、コロナ禍により学生の海外渡航援助事業の中止があったものの、困窮学生への支援として大学の夢基金に500万円寄付したことが報告され、数年前から滞っていたホームページのリニューアルが行われたことと最新の記事掲載が紹介された。

最後に、令和3年度の活動計画、会計案も示された後、新役員選出を行った。

今後の方針として以下が確認された。

1. 植物園を盛り立てていくための会員募集の案内を会報に同封する。
2. 学科ごとに学年のクラス会がいくつか開催されているので記事掲載をお願いする。
3. 全学の総会が6月に開催されることになったので、この直後に理学部同窓会役員会を開催し、同窓会総会は今まで通り11月3日に開催する。
4. 規約上にある評議委員会は有名無実になっているので次回の総会で削除の方向で改定する。

畑 徹(理院昭54修)

生活科学部創立70周年記念事業の開催



大阪市立大学名誉教授
同生活科学研究科客員教授
藤田 忍

大阪市大生活科学部創立70周年記念事業(リモート講演会)が、2020年10月18日、都シティ大阪天王寺で開催されました。コロナ禍に鑑み、同窓会役員10数人の直接参加と、プラス30数人のZoomによるリモート参加を得、いわばハイブリッドという初の試みでした。

さて、内容は以下の通りです。羽衣国際大学名誉教授で大阪教育大学名誉教授の岸本幸臣氏による記念講演「この70年、生活の変化と生活科学の課題～ポストコロナ時代が問いかけること～」の後、「これからの生活科学が担う役割」をテーマに卒業生による対談(岸本先生、篠田美紀生活科学研究科准教授、私藤田忍)を行いました。

生活科学の卒業生は、職業人としての専門家として活躍していますが、一方で日常生活における矛盾や問題、解決への工夫を実際に体験している一市民、つまり「実践的な市井の専門家」も数多くいます。この人たちが大学、大学院と共同研究を行うラボを作ることによって、生活者からの疑問・改善策の発信を行い、「科学の生活化」を進めることができます。

以上の素晴らしい内容の記念講演につきましては、70周年記念生活科学部同窓会 News Letter特別号に、その全文が掲載されていますので、ぜひ熟読していただければ幸いです。

今後の課題として私見ですが、リモートの視聴者の反応

が講演者に直接伝わるよう双方向性を高めること、さらにオンラインに留まらず、オンデマンドのYouTubeによるご講演の配信を加えることによって、いわば時空を超えるイベントとすることが考えられます。いかがでしょうか。

【記念講演・対談要旨】

この70年、科学技術の進歩発展により、生活は大きく変化・発展し、豊かになってきましたが、一方で資源の浪費、健康破壊、家族崩壊、環境破壊といった深刻な矛盾をもたらしてきました。この矛盾を予見することが生活科学に求められている第一の役割です。いわば「光と影」をくっきりと浮かび上がらせることです。

専門分化された科学と技術は、ともすれば光、発展を至上命題とし、その結果ひとつの大きな問題として科学技術が暴走する事態が起きています。すなわち、この暴走は個々の細分化された諸科学・技術だけでは制御が困難です。生命そして生活が脅かされる現場において、問題の渦中にあり、立ち向かい、実践的で総合的な解決策を迫ります。生活科学による「科学の生活化」が期待されているといえます。

森井良雄氏、旭日単光章を受章

令和2年秋の叙勲において、株式会社アスコット代表取締役会長の森井良雄氏(商昭39卒)が旭日単光章を受章されました。

中小企業のお客様の情報システム開発に、長年携わってきたことが評価されたものです。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝と一層のご活躍を祈念いたします。

村上芳子(商昭58卒)

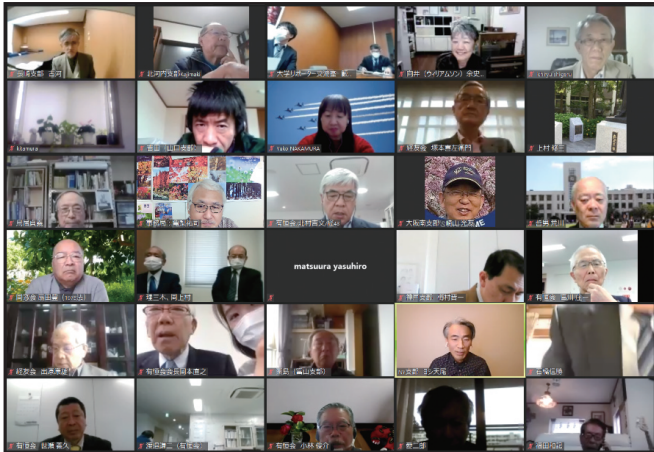


リモートで全国支部代表者会議を開催

と き:令和3年3月13日(土)

と ころ:Zoomによるリモート会議

昨年(令和2年3月)は、コロナ禍が始まり全国支部代表者会議ができませんでしたが、今年は初めてZoomを利用したリモート会議での開催となり、岡本直之会長の「皆さんから忌憚のない意見を出してほしい」という言葉で会議は始まりました。



初のリモートで開催した全国支部代表者会議

荒川哲男学長から大学の状況説明があり、大学の英語名称が決定したこと、令和3年度を「ラスト・イチダイ」としてイベントを継続すること、並びに支部からの質問に答える形で、森之宮新キャンパスの説明がありました。岡本会

長からは、要請が強かった支部への通信費補助を行うこと、令和3年度もコロナ禍支援を現役大学生に対して引き続き行うことなどの説明がありました。



今回はリモートで行われたため、海外支部
公式キャラクター「スギモトカメイチ」のメロンパンを紹介する学生ら

からも無理なく参加していただき、生の言葉で語られた現状には驚きの声が上がりました。国内支部からは、コロナ禍の影響で思うように活動ができないという声が多くあり、そのような状況下でも、SNSを活用するなどして前向きな支部活動を求められていると感じました。

また組織拡大のためにも卒業生の名簿が必要になっているという声があり、本部からも協力を惜しまないとのことでした。

本部の宮川庄一副会長から統合後の全学同窓会の話があり、開学の来年4月設立を目指し、校友的なイメージであるとのことでした。また、現役学生から大学の公式キャラクター「スギモトカメイチ」とそれを使ったメロンパンが紹介されました。

最後に小林俊介副会長から、来年度以降も支部代表者会議を継続していくとの発言があり、会議は散会となりました。

竹中敏実(経昭49卒)

ダイジェスト版「開学の祖 五代友厚小伝」の刊行

昨年2020年9月、『新・五代友厚伝～近代日本の道筋を開いた富国の使徒』(八木孝昌著、PHP研究所)を出版したが、今年2月にはダイジェスト版『開学の祖 五代友厚小伝～高遠な志・進取の精神・利他の心』を刊行した。このダイジェスト版は主に大阪市立大学の学生諸氏を対象とし、第18話で構成され、読みやすく監修されている。

本書は五代友厚の生涯が如何様であったかを辿っている。五代が遭遇したいろいろな出来事や数多くの事業などの足跡は、まさに本書のサブタイトル「高遠な志・進取の精神・利他の心」にある。

さらに五代の汚名と言える「開拓使官有物払下げ事件」では3話にわたり、「五代政商説」がいかにも誤伝であるかを史実に基づいて正しく解説している。

この事件の誤伝は従来の五代伝や関連文献をはじめ、高校日本史教科書にも同じ「濡れ衣」を着せられている現状に鑑み、五代委員会では文科省、日本歴史学会等関係者に対し教科書の改訂に向けて取り組み中である。今後ともご支援ご協力をよろしく願う次第であります。

五代友厚記念事業委員会
羽原顕三(商昭38卒)



「有恒」のルーツ 有恒倶楽部のあゆみ

西脇五郎(経平22卒)

有恒倶楽部は、明治40(1907)年市立大阪高等商業学校同窓生の社交機関として設立された「大阪高商倶楽部」に淵源があります。この倶楽部は間もなく解散しますが、大正15(1926)年「大阪高商関係者社交倶楽部」と仮称し創立事務が進められました。

その後「浪速倶楽部」と改称して会館選定に着手しましたが、野村徳七氏(本科明治26年卒。野村銀行・野村証券の創設者)のご厚意により、大阪市東区備後町の野村ビル(元大和銀行本店の旧ビル)を会館として提供を受けて、大正15年11月3日に開館の運びとなりました。

大正15年9月1日創立総会当日に大阪商業講習所時代の所長であった山本達雄氏により「有恒倶楽部」と命



名されました。東京商大同窓生の社交機関「如水会」が、往年、渋沢栄一氏により礼記の「君子交如水」から採択銘名されたことに対して、「有恒倶楽部」の名称は孟子の「無恒産而有恒心惟士為能」から採れたものであって、「恒心有る者の集まり」を意味し、好名称として総会において、満場一致で決定しました。

代表理事には喜多又蔵氏(第11代有恒会会長)が就任し、会員数は431人で、大阪高商同窓生のみでした。当時、大阪には社交機関の数も少なく、地域的に有恒倶楽部が北浜、船場、島之内等いわゆる商業・金融機関の集合地帯の中心にあるため、卒業生以外の一般よりの利用希望が多く、

12月に特別会員制度を制定し、会員数は非常に増加しました。創立以来、原則理事長は大阪市大(元大阪高商・大阪商大)の卒業生に限られていました。

昭和19(1944)年5月 戦時下において名称がけしからんと言われ、「有恒社」と改称。

昭和21(1946)年5月 戦後となり名称を「有恒倶楽部」に復活。

昭和35(1960)年7月 有恒倶楽部は会員の任意の友好団体だったが、第



有恒倶楽部大ホール(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)

7代浅田敏章理事長の時、「社団法人有恒倶楽部」と改称。このころ会員数は1557人となっていた。

平成2(1990)年 野村ビルの改築のとき、第2野村ビル7階(備後町2丁目1-1)へ移転。

平成15(2003)年5月 創立以来77年目に「有恒倶楽部」が解散。

女性部会(WPC)ニュース

コロナ下の2020年度活動報告 ～会員アンケートを実施～

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、市大の様々な同窓会活動が中止やオンライン開催になるなど多くの制約を受けたのと同様、全学同窓会女性部会(WPC)においてもリアルな場での集まりとなる総会、交流会は中止としました。

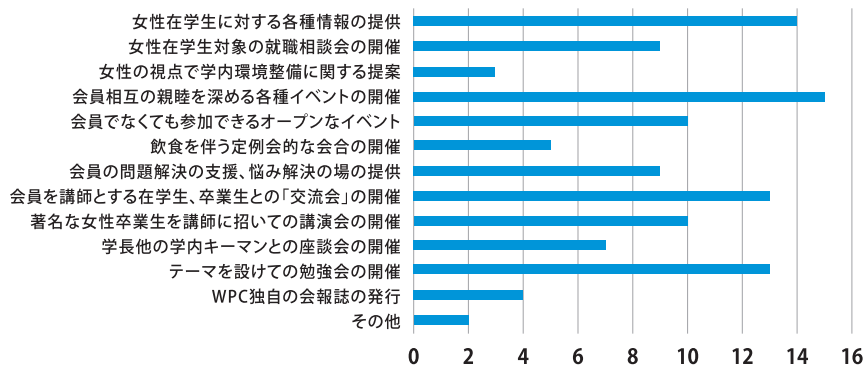
その上で、「コロナ下のステイホーム期間」を「WPCの今後の活動に向けての充電・準備期間」と前向きに位置づけて、WPC会員を対象にアンケートを実施、その結果を基に「今後のWPCの在り方」や「活動内容」、「情報共有の手法」などについて検討を進めました。

WPCは、「市大の女性在学生・卒業生のネットワークを構築し、女性の力を高め、女性が活躍できる社会の実現を目指す」という趣旨の下、出身学部も年齢層も幅広い、現在48人の会員で構成されています。今回のアンケートには半数を超える25人の方にお答えいただき、立場や年代の異なるメンバーの生の声を聞く貴重な機会となりました。

アンケートには、OGとして在学生の役の立ちたいという熱い思いや、これまで同様に交流会や親睦会の充実を望む声、さらには、新たな試みとして、各界で活躍する女性卒業生を講師とする講演会やテーマを設けての勉強会をしたいとの意見等が多く寄せられました(図参照)。

WPC世話人会では、これらのアンケート結果を今後の活動に活かし、当面はオンラインを利用して、在学生などにも広めていく予定です。

今後のWPCの活動について(複数回答)



WPCアンケートから回答の一例

※女性部会(WPC)については、下記もご参照ください。

ホームページ:<https://www.osaka-cu.net/wpc>

Facebook:<https://www.facebook.com/groups/ocu.wpc/>

WPC世話人会 米田昭子(文昭55卒)

田中記念館に大阪市長賞作品を寄贈

私は昭和43年商学部卒です。当時学園紛争が激しい中、美術部青桃会で絵を描き始めました。新制作協会会員の飯田順雅先輩に出会い素晴らしい手解きをいただき感謝しております。これが私の絵との始まりです。卒業後、商業施設企画会社に就職をしました。

そして1994年上海社長として上海に派遣され、その17年間は激動の中国を目の当たりに体験させていただきました。中国では漢



田中記念館入り口に寄贈された「群像」

字を絵にした作品を発表しました。2013年に帰国退職し、好きな絵を本格的にやろうと新世紀美術協会に入り今に至っています。

2018年10月には当時の吉村洋文市長より大阪市長賞を拝受致しました。この作品「群像」は全学同窓会より推挙を受け、19年8月に大学に寄贈させていただき、田中記念

館入り口に飾っていただいています。これはこの上もない名誉なこと感謝しています。この「群像」は我が家創業の履物をテーマにそこに就業している人々を描きました。大学に来られたらぜひ田中会館へお立ち寄りご覧いただければうれしく思います。

原田利明(商昭43卒)

大阪市立大学附属植物園に改名 植物相の過去と現在を体験



大阪市立大学附属植物園 園長
山田敏弘

本学の植物園は1950年に発足して以来、理学部の附属施設として教育・研究活動に携わってきました。この間、植物園では理学部の専門科目のほかに博物館実習や基礎教育科目なども実施していましたので、講義・実習でお越しになった卒業生の方々もいらっしゃると思います。また、本学の学生は無料で入園できますので、余暇などでご来園された方もいらっしゃるかもしれません。

さて、植物園は2021年4月から全学の附属施設として再出発いたしました。これまでも植物園では植物を含む生物学の研究を推進してきましたが、それを強化するのが目的です。もちろん、研究の成果は学生教育に活用されますし、普段の普及活動を通じて、市民への還元も行います。また、これを機に全学の学生に気軽に植物園に足を運んでもらえるようになればと願っています。

ご存知の方も多いと思いますが、大阪市立大学の誇る植物といえば、やはりメタセコイアです。メタセコイアは、植物園の3代目園長であった故三木茂先生が1941年に化石に対して命名した植物名です。その後、1946年に中国で生育しているのが確認され、一躍「生きた化石」として有名になりました。

三木先生は、生きたメタセコイアを報告した研究者から苗を譲り受け、それを植物園に植栽しました。

その際、化石メタセコイアが生えていた1200万年前の風景を植物園に復元しました。この“化石の森”は、今でも植物園でご覧になることができ、4月には芽吹き、11月には落葉の景色をお楽しみいただけます。

植物園には日本列島各地の森林が復元されています。これは2代目園長であった故吉良竜夫先生によるもので、先生の「日本に固有な植物相を展示し、固有植物の重要性に関する理解を深めてもらいたい」という願いから造園されたものです。さらには、日本の植物相の起源とも関わりの深い北米や東アジアの森林も復元展示されています。

このように、日本の植物相の現在を過去という視点から眺められるのが本学植物園の最大の特徴です。現在の大阪にはシイやカシなどを中心とする森が広がっています

が、100万年ほど前にはブナの森が広がっていました。さらにその前にはメタセコイアの森もありました。植物園ではそれらを一度に見学することができるので、手軽に“タイムスリップ体験”が可能です。

一方、植物園では絶滅危惧植物の保全にも取り組んでいます。昭和の中頃までの大阪にはたくさんの田んぼや溜池があり、そこには様々な水草が生えていました。しかし、都市化や農薬の影響で水草の生育地は失われ、大阪の水草は絶滅の危機に瀕しています。似たような状況は日本各地でも見られます。

そこで植物園では、西日本の水草を中心に絶滅危惧植物を収集・育成しています。水草の育成は一筋縄ではいきませんが、増殖し植え戻す取り組みが進んでいます。これらの「本当は大阪にもいるはずの植物」たちの展示も行っています。

こうした取り組みの結果、本学植物園は日本植物園協会の植物多様性保全拠点園に認定されているほか、環境省の認定希少種保全植物園にも指定されています。

植物園には「植物園友の会」があり、友の会会員の皆様には植物園活動へのご支援をいただいています。会員の皆様には、年間入園パスポートをご利用いただけるほか、同伴の方2人までが割引料金でご入園いただけます。会員の皆様には植栽の植物について解説した会報を配布しています。

本学卒業生の皆様には、ぜひ友の会にご入会いただき、在学中と変わらぬご支援をいただければ幸いです。

やまだ・としひろ：1999年京都大学理学部卒、2004年東京大学大学院理学研究科生物科学専攻 博士後期課程修了。国立科学博物館地学研究部研究員、金沢大学理工研究域准教授などを経て2018年から現職



大阪市立大学附属植物園 (大阪府交野市私市)

論壇・随想

同期とのメール討論会



青木育志(法昭46卒)

昨年2月に新型コロナが日本中の話題になって以降、こういうときこそ同窓同期の人との話し合いが必要であると思い、メンバーになりそうな人たちを集い、メール討論会

を立ち上げました。それは今も続いています。

メンバーの守るべきルールは次のとおりです。すなわち、①各メンバーは、好きなテーマで、好きなときに、好きなだけ、文章化(意見・情報提供など)し、メンバー全員に同時メール送信する②各メンバーは、他メンバーのメールについて返信・言及の義務はない③各メンバーは、他のメンバーから返信がなかったり、言及がなかったことを恨みに思わない(文句を言わない)。

当初メンバー7人からスタートし、現在は15人です。発信頻度は月によりバラツキはありますが、昨年5月の月間統計では、7人で約140通のメール送信がありました。1日約4.5通です。現在では1日約3~4通程度でしょうか。ほぼ毎日のように発信する人もいれば、ほとんど発信せず、聞きに徹している人もいます。政治問題ばかり発信する人もいれば、健康問題のみ発信する人もいます。

テーマ的には昨年の2月から4月まではコロナ問題中心でした。例えば、学校封鎖問題、アベノマスク問題、30万円給付問題など。その後、東京高検検事長の定年延長問題、広島県での札束配布問題、学術会議の6人認定見合わせ問題など。

こうした中で特に盛り上がったのは、黒川氏事件に関連して、検察庁と法務省の関係、その関係は角栄逮捕のときはどうであったのか、角栄裁判は正統な法手続きによって行われたのか、不当な手続きであったとすれば、それはなぜで、どういうことか、というように論点が広がっていったのです。さすが法学部卒の面々です。今年に入ってからは、二度目の緊急事態宣言を受けて、コロナ問題に議論集中しています。

メール討論のやり方については、この1年間で、3,4度の変更がありました。メンバーの増加や反応の仕方の変化などで、その都度メンバーの多数決で決定してきました。新しい問題では、発言しない人がいるので、全員の発言義務化が提議されましたが、否決となりました。もう一つは、フェイスブックに切り替えたかどうかが提案され、これも賛成者少数で否決です。問題はないかと問われれば、ないと言えば

嘘になります。メンバーはいろいろなタイプの人がいるので、全員の満足を満たすのは無理です。例えば、全体では現実主義・保守主義が強いので、理想主義・革新主義の人は言いづらくなっているのは、致し方ありません。

本会の目的というか利点は次のとおりです。すなわち、①同窓同期の者で、世上のトピックスについて、意見・情報交換することは楽しみであり、有益である。メール発信することに同窓会をしているようなものである②70歳を過ぎ、これからの人生を思い煩うとき、仲間意識のあるメンバー間で、意見・情報交換することが、ボケ防止にもなり、仲間意識の醸成、相互扶助にも繋がる。

私個人のことを言えば、この討論会での私の意見をもとに、一般用書き直し、ホームページで発表しています(「青木育志の書齋」<http://kyoyoushugi.wordpress.com/>)。私のホームページを見ていただきますと、だいたいどういことが討論されたかが分かります。読者諸賢もこれを読まれて、こういう討論会を立ち上げられてはいかがでしょうか。特に、コロナ禍で直接会う討論会の実現は難しいです。その一つの解決策です。同期の人で参入希望の人は事務局まで連絡してください。

あおによし「なら旅」



福井義尚(法昭53卒)

「あをによし寧楽の京師は咲く花の薫ふがごとく今盛りなり」(万葉集 巻3-328)

「咲きさかる花のかがやくよう」と万葉集にうたわれた1300年の歴史を誇る古都・奈良。日本の国のはじまりを体感できる3つの世界遺産に囲まれ、2000を超える国宝、重要文化財の建築、仏像が数多く残されています。

さらに、豊かな自然、古代ロマンを感じることでできる史跡、現代と昔が調和した町並みなど県内各地に心癒やされるさまざまな魅力が満ちている、まさに奈良は日本の心のふるさと・祈りの聖地です。

さらに、豊かな自然、古代ロマンを感じることでできる史跡、現代と昔が調和した町並みなど県内各地に心癒やされるさまざまな魅力が満ちている、まさに奈良は日本の心のふるさと・祈りの聖地です。

私が副理事長として勤務している一般財団法人奈良県ビジターズビューローは、観光庁の登録を受けた奈良県唯一のDMO(Destination Management Organization)として、観光業を通して地域の「稼ぐ力」を引き出し、地域への誇りと愛着を醸成する、「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役です。このミッションを実現すべ

く、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を果たしています。



今年、1400年御遠忌を迎えた聖徳太子創建の信貴山朝護孫子寺(奈良県生駒郡平群町)

奈良県は、他に類を見ない価値を有する歴史・文化探訪の地であり、令和元年の延べ入り込み観光客は4502万人と順調に増加しているものの、日帰り観光客が約90%、宿泊客が約10%の延べ273万人と、旅行消費単価の高い

宿泊客の比率が低く、旅行消費額は少ない状況になっています。

これは本県の観光が、大阪や京都に宿泊し県内の有名社寺等に立ち寄る「通過型観光」になっており、このことがホテルやレストランなどの新規進出の阻害要因の一つで、県内宿泊施設の客室数は全国で最も少ないレベルにあります。訪日外国人旅行者についても、訪問率・訪問数ともに全国第5位と高い数値を示しているものの、奈良公園・東大寺等を中心に日帰り観光がメインとなっています。

現在は、新型コロナウイルスの世界的な流行により、インバウンド観光需要が激減していますが、私たちDMOが取り組むべき最大の課題は、快適な県内周遊観光を促進することで滞在時間を延伸し、観光消費額の増加を図ることです。奈良市内に訪れた観光客を橿原市、明日香村などの中和地域、天川村や十津川村などの県南部地域にも誘客できるよう、地域とともにアクセスの改善や受け入れ環境の整備、観光資源の磨き上げを図ります。そしてリピーターが数多く生まれる、楽しく何度でも訪れたい観光地・奈良の実現を目指したいと考えています。

環境・マルクス・私

杉立彰彦(経昭43卒)

「香住町が工場誘致条例を成立させると、突然『県』が××電力の原発設置計画を通告し…住民の反対運動によってご破算になり…当時中学生の弟(工院昭52修)もセッセと反対ビラを各戸配布した。」



半世紀以上前、公害と価値論がテーマの卒論のあとがきに、こう書いた。また降雪に悩まされていた地方の出身者として、「温暖化」大いに賛成だと公言もしてきた。しかし、これらはいずれも多分に地域エゴのなせることでもあったのだが。

1991年ソ連崩壊と前後して、マルクス経済学に変化が現われた。われわれの学生時代、宮本憲一先生は、大気汚染・有機水銀中毒などの個別被害を、1964年共著『恐るべき公害』の中で「公害」と定義されたが、1989年さらに大きく「環境」と捉えた『環境経済学』を刊行し、環境問題の研究と実践の最先端を走られた。

一方、京大マルクス財政学のホープ池上惇氏は、1991年『文化経済学のすすめ』へと転進?した。海外でも、ゴルバチョフの首席顧問だったソ連のイデオログ、ヤコブレフが、『マルクス主義の崩壊』の発刊によって「マルクス主義」と決別するなど、内外でマルクス研究者が消えうせたようだった。

小生は、なんか違うなあ…変化したかに喧伝され、「歴史は終わった」これが最終段階だと主張されている資本主

義経済だが、現在でもマルクスの分析によらないと理解できないし、また一番よく理解できる。資本家(経営者)、労働者は、ともに「疎外」されたシステムの再生産の軛下にあるので、資本制生産を止揚して、資本家も労働者も等しく開放され、人類全般が「自由」を取り戻さなければならないのに、どうして研究者たちは消えたのか、とモヤモヤしたまま停年を迎えた。

暇になった時間にまかせて、内外の少なくなったマルクス研究者のエコ社会主義本などを漁ったり、マルクスを再読したりしていたら、2019年斎藤幸平先生のドイツチャー賞受賞の日本語版、経済書とは思えない綺麗な装丁の『大洪水の前に—マルクスと惑星の物質代謝』が呼びかけた。「マルクスへ帰れ」コレだよ、コレ!

それからは、斎藤先生の編著書『マルクスとエコロジー—資本主義批判としての物質代謝論』『未来への大分岐』、web上での論文、講演、討論会の探索とTV出演など「斎藤追っかけ」が始まった。斎藤先生のご活躍は、日本国内はもちろん欧米、中国、インドと世界に渡り、ムスト『アナザー・マルクス』の記者江原慶氏は、そのあとがきに「斎藤幸平さんは全編にわたって詳細に検討し、適切なアドバイスを下さった」と謝意を示してもいる。

そしてついに『人新世の「資本論」』が出た。先生が資本主義批判に留まらず、未来への展望を指し示された。共産主義ならぬ「共生主義 communism」(集権でなくアミーバ型社会へ)を希求する者としては、この本が広く世に受け入れられつつあることを大いに喜ぶたい。

創造都市研究科と空堀「にぎわい堂」、 そして2つの“女子”同窓会

寺西章江(創平17修)

2003年は、3つの新たなチャレンジをすることができた節目の年である。1つ目は仕事で、新設部署に希望して異動したこと、2つ目は学びで、創造都市研究科の1期生として社会人大学院生になったこと、そして3つ目が社会・地域活動で、大阪・空堀にコミュニティスペースを設立したことである。



関西大学の英文科を卒業し、旅行会社やコンベンション運営会社を経て、1995年から海外との経済交流を通じて大阪市内中小企業のビジネス支援を行う団体に勤務していた。団体が統合・再編された2003年、希望通り企業誘致課に配属された。課全体で手探り状態ながら、事務所探しの手伝い、国内外での企業誘致の説明会開催、経済ミッション団の受け入れなど、様々な国の多様な業種の企業を支援し自治体・団体と接する中で、大阪のポテンシャルに改めて気づかされるが多々あった。

企業間の橋渡しや情報提供で喜ばれ大変面白い業務だったが、経験を積むほどに、経済や経営の知識を仕入れて、更に経営側の気持ちに寄り添うことができればもっと良い仕事ができるのではないか、という思いがあった。同時に、企業の存在意義とは何かという素朴な疑問が生まれていた。

そんな折、シンポジウムの座長などを務めていただき親交のあった市大の先生方から「社会人のためのソリューションを提供する大学院をつくる」と聞き、飛びついた。仕事ずばりのアジアビジネス研究分野でなくアントレプレナーシップ研究分野を選択したのは、ビジネス活動の支援側として上記の思いがあったからだ。国内外の出張もある中、平日2日の夕方と土曜日終日の授業に加え、毎日深夜までレポートやプレゼン資料を作成し、睡眠不足の日々が続き

たが、疲れは感じなかった。

仕事と社会人大学院の両輪だけでも大変だったが、2000

年頃から毎月主宰していた交流会・勉強会の“人つなぎ”常設スペースとして、大阪・空堀の魅力発信や商店街応援の気持ちが相まって設立したのが、100年長屋をリノベーションした「にぎわい堂」だ。

商店街で全て調達した食材の試食と店舗へのフィードバック、「なにわいろはかるた」展など大阪文化に関するイベントを開催し、13年間運営した。新聞・雑誌などのメディアにも多く取り上げていただき、ユニークな方々との多くの出会いがあった。大学院生としての修論のテーマも、地域の問題解決を図る「コミュニティビジネス」を取り上げることとなった。



100年長屋をリノベーションした「にぎわい堂」で交流する人たち

一見バラバラな3つのチャレンジは実は繋がっており、大阪人としての強い思いに貫かれている。その後2013年から幸運にも本学の職員となり、20年には「大阪市立大学140周年記念展示室」開設にも関わることができた。また、全学同窓会女性部会(WPC)の世話人、そしてもう一つの母校である関西大学女子秀麗会の幹事・事業部長もさせていただいていることは、大変貴重な経験であり、リーダーシップなど学ぶことも多い。「にぎわい堂」は、オンラインに場を移し、毎月サロンを継続している。今後も、修了生として職員として、そして同窓会世話人としても、変わらぬ大阪への思いを胸に、世の中に求められる使命を遂行していきたい。

論壇・随想



ご存じですか？

ご自宅[🏠]で、京都銀行をご利用いただけます！！

▶ 例えば！京銀アプリ&京銀ダイレクトバンキングで… ▶

口座開設

残高照会

振込・振替

税金・各種
料金払込
(Pay-easy)

投資信託
外貨預金

等



まずはダウンロード



▶▶▶

京銀アプリ





京都銀行

(2021年3月1日現在)



同窓短信

記録が記憶を呼ぶ

鳥居貞義(商昭34卒)

有恒会130周年記念誌に投稿した「恩師講義の思い出」はお陰様で同感の反響を多数頂戴しました。今回は入社最初の社長訓話を紹介します。私が松下幸之助社主が創業した配線器具のトップメーカー、松下電工に入社したのは60年前のことでした。当校先輩の丹羽正治社長の最初の訓話は誠に印象深い言葉でした。

社長さんは常々社内新聞等で語っておられたように、企業は、利益を追求する法人には違いないが、唯それだけでは足りないところがある、結局は国家社会に奉仕してそこから報酬を受けるものであると話された。社長さんは、発展期・成長期にあり、まだ完成の域に入っていない会社が求めている人材のことを実に巧く説明された。松下電工は決して良い会社ではない、いい会社なら諸君のような人材は不要だと述べられた。「良い会社ではない」という言葉は適当でないように思うが、松下電工が成長期の会社であるからこそ我々はその未完のよこびを感じ、「よし、頑張ろう」と誓った。

人生の原点、杉本町

島津泰治(商昭37卒)

私の人生を振り返って見ると、市大での学生経験が原点になっているように思える。第一には、私の属したゼミでの平岡助教授の自由奔放な学者離れた大人の風格と、社会全体を見つめる哲学的人生論である。



第二には、FLD(語学部)でのクラブ活動だ。部活は実に活発で、英語弁論、ディベート、英語劇、普段の英会話と全てに参加し、3回生の時に幹事長を経験した。英文毎日の全国学生英語弁論大会では西日本代表に選ばれ、東京での全国大会で特色のある各大学のESSの人たちと楽しく交流できたことは今も忘れ難い思い出だ。

第三は、教養課程で第二外国語としてフランス語を選択し、フランスに興味を持ったことだ。文学部の学生との合同クラスで、フランス的な文学部の雰囲気味わった。

卒業後は、総合商社に入社し4回の海外駐在も経験したが、1979年から84年までの5年半のパリ駐在は私の人生観を大いに変えた。フランスの矛盾や欠点は多いが、一番感銘を受けたのは、Grandes Ecoles出のフランス人エリートの知識の豊富さと恰好良さと、自分の高貴な立場を弁えているNoblesse Obligeの実践だ。言葉の大切さと哲学を大事にする大人の生き方とも言える。

昨年来のコロナ禍でStayHomeを余儀なくされ、インターネットでフランスのテレビのニュースを毎日見ている

が、随分酷くなったフランスの現状の中にもフランスの知性が十分感じられて大いに楽しんでいる。

奈良の魅力

山中恵子(生昭47卒)

私は小学校から大学まで、そして就職先の大林組やその後勤務した設計事務所も全て大阪市内で、大学以外は徒歩圏内でした。ロンドンで暮らした一年間を除き、生まれ育った土地を離れたことはありませんでした。35年前に設計事務所を開設し、最初の作品となった奈良市の自宅に住まいを移しましたが、相変わらず昼間は大阪で、自宅は寝に帰るだけでした。しかし、4年前に事務所を奈良の自宅に移し、ようやく大阪市民から奈良市民になった心境です。



コロナ感染の影響もあって、大阪へ行く機会が少なくなり、四季折々に奈良のあちこちを散策し、その魅力を感じています。原始林が生い茂る春日山の麓に広がる春日大社、東大寺、興福寺の広大な境内に鹿が群れ遊ぶ奈良公園。薬師寺、唐招提寺の西ノ京。のどかな風景の中に世界最古の木造建築

『新・空間時代』へ

Sun Create System

サンクリエイテム工業株式会社

代表取締役 **矢野 憲 治** (法S46卒)

〒299-0101 千葉県市原市青柳北4-2-5
 TEL. 0436-98-3777 FAX. 0436-98-3888
 携帯電話: 090-3314-8399 mail : yano@suncrtem.co.jp

の法隆寺、法起寺、法輪寺が立つ斑鳩の里。古代ロマンの地である飛鳥。ちょっと足を延ばして、自然豊かな長谷寺や室生寺…等々。

小さな村で農業を始めました

桑名雄大(商平29卒)

現在、岡山県の中央部、久米南町という人口約4500人の町に暮らしており、お米、大豆、麦、ときどき野菜を有機で育てています。在学時代から、人間の豊かさや幸福とは何なのかと自問自答を重ねていましたが、うまく答えがわからずにいました。しかし、土を耕し、種を撒き、作物を育てる実践の中で、少しずつ理解ができてきたように思えます。



快晴の棚田にて。本人(左)、右は去年手伝いに来ていたドイツ人学生

もちろん、人それぞれに意見があると思いますが、僕の場合、自然の中で四季の移ろいに身を委ねながらも、日々の暮らしを試行錯誤して創っていくことで、自分なりの答えに近づけそうです。農業はまだ始めたばかりですが、大阪市立大学で学んだことを活かし、つながりを大切にしながら、これから頑張っていきますので、応援よろしく

お願い致します。

農村での暮らしや食をSNSで発信中です。応援したい!気になる!という方いらっしゃいましたら、フェイスブック or インスタグラム or ツイッターで「桑名家の食卓」のフォローお待ちしております。

フェイスブック

<https://www.facebook.com/kuwana.syokutaku/>

インスタグラム kuwanake.shokutaku

Twitter@kuwa_syokutaku

新型コロナウイルス感染症の現場から

木下千紗都(看平22卒)

私は今大阪市立十三市民病院で新型コロナウイルス感染症中等症患者の看護をしています。コロナが流行するまでは助産師として母乳育児支援に力を注いでいたところに、十三市民病院がコロナ専門病院になるという報道はまさに青天の霹靂(へきれき)、人生最大の衝撃でした。

「これからここで出産するはずだったお母さんたちはどうなるの」、「私たちの仕事は、私たちの健康はどうなるの」、大きな不安が頭の中を巡り、怒りを覚えるまで時間はそうかかりませんでした。



そんな中で私は最前線の病棟へ異動することに。しかしいざ現場に駆り出されると、皆文句を

言いながらも(笑)自分たちができる看護を精一杯実践しているのです。そんな中で働いていると私もここで負けてはいられないという気持ちになり、今では他の看護師からも少しは頼られる戦力になれたかなと思います。コロナは人々に大きな衝撃を与えましたが、私たちにはそれを乗り越えられる力があると思っています。

少年サッカーに関わって

大北日吉(医昭49卒)

私は学生時代排球を楽しんでいましたが、長男がサッカーをやりたいと言うので、市の公報に載っていたサッカー少年団に入団させました。送迎するうち、指導の手伝いを頼まれ、いつか指導者の一員となり、遂には団長に推挙され現在に至っています。



八尾南山本JSCは創団45年を超え、当初は各指導者が、競って強いチームづくりに切磋琢磨し、20年前頃には大阪府で3回3位になるなど実績をあげていましたが、若い指導者に代わり、「サッカーを好きになり楽しんでもらう自主性を重んじ、個性を伸ばす」育成方法に変わり、ありがたいことに2人のリーガーや学校の体育指導者、サッカーチーム指導者が大勢育ち、うれしく思います。

孫も2人、現在サッカーを楽しんでおり、老後ますます楽しみです。

協和綜合法律事務所

辯護士 原 戸 稲 男
(法昭 62 卒)

大阪事務所

〒530-0017 大阪市北区角田町 8 番 1 号

梅田阪急ビルオフィスタワー 34 階

電話 (06) 6311-8800 番 FAX (06) 6311-8806 番

東京事務所

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1 丁目 7 番 1 号

有楽町電気ビル南館 11 階

電話 (03) 3216-1171 番 FAX (03) 3216-1173 番



TSUKAKI

ツカキグループ

ツカキ(株) 塚喜商事(株) 京都和装(株)
マリエクラッセ(株) (株)タムラ (株)京朋

Growing Together

～共に成長を～

社長 塚本喜左衛門(S46 経卒)

グループヘッドオフィス

京都市下京区烏丸通仏光寺上ル二帖半敷町661番地

〒600-8412 TEL. 075-341-3547(大代表)

<https://www.tsukaki.com/>

支部だより



リモートによる初の支部ブロック会議開催

支部長(あるいは代理人)が一同に会して情報交換を行い、親睦を深めるという支部代表者会議が、2020年3月7日に予定されていましたが、コロナ禍の影響により中止されました。そこで、Zoomを利用した「支部ブロック会議」が初めてリモート開催されました。

2020年11月26日、近畿地区、12月15日に北海道、東北、関東地区、今年1月19日、東海、中京、北陸地区、2月17日に中国、四国、九州地区で開催。



会議では岡本直之会長の挨拶から始まり、続いて荒川哲男学長または鈴木洋太郎副学長からコロナ禍でのオンライン授業や140周年記念事業など大学の現状についてのお話がありました。

各支部からの状況報告において、このような状況下では、悔しいが総会開催ができなかった(福井支部は開催)という声があった半面、ライン等を利用することで会員相互の連絡を取り合い、ニューズレターの発刊や役員会、監事会を開催している支部もありました。

質疑応答では、新大学統合に関する情報提供を求める声が多く、統合後の大学や同窓会のこと

について質問があり、荒川学長(鈴木副学長)や本部役員から状況について説明がありました。同窓会統合については、お互いの意見交換は進んでいるが、まだ具体的などころまではいっていないということでした。各支部からは、新大学発足後、府大の同窓生と一緒に活動することで規模の拡大を目指すという意向を強く感じました。

支部からの要望では、支部活動参加者が高齢化し、先細りしていることから、名簿がほしいという声が多くありました。これに対して、ネットワーク委員会を立ち上げ、メールを送れるような体制を構築していくとの回答が本部からありました。財政面では郵送費用に対する援助を求める声が多く出ていました。

リモート会議そのものについては、開始直後は、声が聞こえない、ハウリングが起きているなど少しトラブルもありましたが、概ね好評であったと思われます。支部からも本部からもリモート会議を続けたいという提案がなされました。

合計4回のブロック会議では、他にも活発な意見がやり取りされ、有意義な会議となりましたが、一部割愛させていただきました。ご了承ください。

なお、リモート会議に参加した支部、参加者は次の通りです。(敬称略)

【北海道、東北、関東地区】

北海道支部:石黒直文(経昭29)▽東北支部:早川公康(生院平10)▽埼玉支部:村岡健治(経昭45)▽千葉支部:福田和記(商昭46)▽東京支部:中尾隆史(工昭49)、杉本クラブ:奥山正昭(経昭44)、支部顧問:森本 喬(文昭36)▽横浜支部:森聡彦(経昭59)湘南支部:植嶋平治(商昭51)

【東海、中京、北陸地区】

静岡支部:山本義彦(経博昭48)▽北陸地区:誉田豊(商昭44)、堀江寿郎(商昭52)▽富山支部:栗島憲治(商昭52)▽石川支部:伊藤光明(経昭49)▽福井支部:和田龍三(経昭49)▽愛知支部:滋野公彦(経昭59)、奥田

篤志(経平1)▽三重支部:北村純一(経昭46)

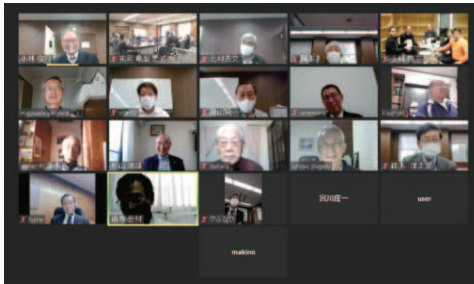
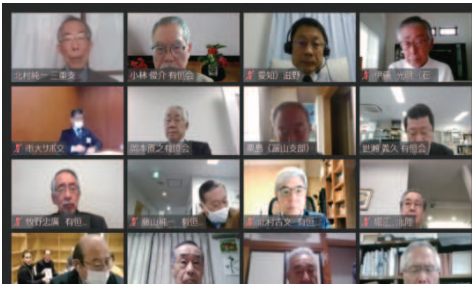
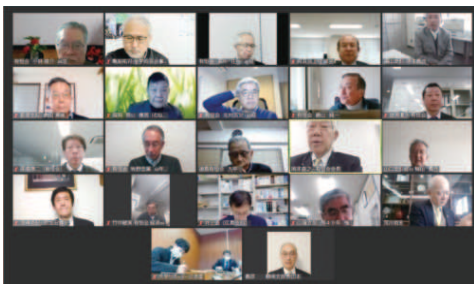
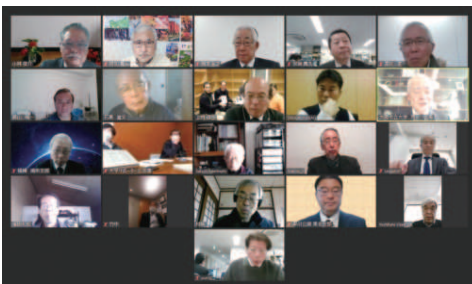
【近畿地区】

京滋支部:藤野正純(商昭51)▽大阪北支部:小林俊介(法昭44)▽大阪南支部:金村福寿(商昭56)▽北摂支部:杉山徳雄(経昭44)▽南大阪支部:出原康雄(経昭42)▽北河内支部:梶巻正男(理昭45)▽神戸支部:梅村晋一(法昭55)▽宝塚支部:原本文吉(商昭43)▽姫路しらさぎ支部:松浦康裕(経昭50)▽奈良支部:一柳茂(商昭49)

【中国・四国・九州地区】

広島支部:井上道(法平3)▽福山支部:塚本義政(法昭53)▽山口支部:梅田義元(経昭43)▽山陰支部:梅林広志(商昭49)▽徳島有恒会:大平恒己(経昭41)▽愛媛支部:曲田清維(生院昭52)▽福岡支部:棟居秀信(商昭52)▽長崎支部:古河幹夫(経昭52)▽沖縄支部:目加田博史(商昭53)

竹中敏実(経昭49卒)



日本最古の神社、石上神宮と考古美術の博物館、天理参考館を訪ねて 奈良支部 秋の見学会

奈良支部(高橋敏朗支部長)の第28回見学会は、2020年11月22日(日)、日本最古の神社といわれ国宝「七支刀」で有名な石上神宮(天理市布留町)と世界の生活文化と考古美術の博物館、天理大学付属天理参考館(同市守目堂町)を訪れ、古代の歴史に親しみながら会員同士の交流を深めました。

当日は夫婦同伴の参加も多く28人が出席。JRと近鉄の天理総合駅前集合して昼食の後、物部氏の総氏神として信仰され、日本最古の道、山の辺の道の起点にある石上神宮へ。森重人権禰宜の案内で楼門や回廊、摂社出雲建雄神社拜殿(国宝)などを見学し、拜殿(国宝)前で記念撮影。

この後、天理参考館では同窓で同館の異善信学芸員の解説で、同館・天理図書館創立90周年特別展「大航海時代へ～マルコポーロが開いた世界～」を鑑賞。60年以上も行方が分からなくなっていたが同図書館で「再発見」された「瀬戸内海西海航路図屏風」(江戸時代初期)や当時の「世界図」などに大航海時代の冒険者たちに思いを馳せました。

奈良支部では今年2021年は聖徳太子1400年御遠忌に当たることから、11月に第29回見学会として法隆寺を訪れる予定です。

藤山純一(法昭51卒)



石上神宮拜殿前で記念撮影する参加者ら



天理参考館では学芸員が解説

願いをこめた新薬を、
世界のあなたに届けたい。

「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」

わたしたちは、新薬の開発に挑み続けます。

待ち望まれるくすりを、一日でも早くお届けするために。



大阪市立大学同窓会・有恒会 支部連絡先一覧 (国内、海外)

No.	国内・支部名	支部長・会長	幹事代表、事務局等	学部卒年	メールアドレス
1	北海道支部	支部長	石黒 直文 矢橋 潤一郎	経昭29 経平6	hokkaido@ocuj.ac.jp hokkaido@ocuj.ac.jp
2	東北支部	支部長	石橋 信勝 早川 公康	法昭44 生院平10	tohoku@ocuj.ac.jp tohoku@ocuj.ac.jp
3	埼玉支部	支部長	沖津 由紀子	理院昭51	saikyo@ocuj.ac.jp
4	千葉支部	支部長	福田 和記	商昭46	chiba@ocuj.ac.jp
5	東京支部	支部長	深尾 愛二郎	経昭44	tokyo@ocuj.ac.jp
6	横浜支部	支部長	森 聡彦	経昭59	yokohama@ocuj.ac.jp
7	湘南支部	支部長	植嶋 平治	商昭51	shonan@ocuj.ac.jp
8	静岡支部	支部長	山本 義彦	経昭42	shizuoka@ocuj.ac.jp
9	富山支部	支部長	粟島 憲治 齊藤 賢治	経昭49 商昭54	toyama@ocuj.ac.jp toyama@ocuj.ac.jp
10	石川支部	支部長	伊藤 光明 宮本 和美	経昭49 商昭56	ishikawa@ocuj.ac.jp ishikawa@ocuj.ac.jp
11	福井支部	支部長	和田 龍三	経昭49	fuji@ocuj.ac.jp
12	愛知支部	支部長	滋野 公彦 奥 篤志	経昭59 経平1	aichi@ocuj.ac.jp aichi@ocuj.ac.jp
13	三重支部	支部長	北村 純一	経昭46	mie@ocuj.ac.jp
14	有恒会 京滋支部	支部長	藤野 正純 上田 雅弘	商昭51 商昭59	kyosai@ocuj.ac.jp kyosai@ocuj.ac.jp
15	有恒会 大阪北支部	支部長	小林 俊介 甘田 外成	法昭44 経昭40	okanishi@ocuj.ac.jp okanishi@ocuj.ac.jp
16	大阪南支部	支部長	金村 福寿友 崎山 光友	商昭56 商昭50	osaka@ocuj.ac.jp osaka@ocuj.ac.jp
17	北摂支部	支部長	池上 隆彦 中尾 浩己	医昭40 商昭42	kitsetsu@ocuj.ac.jp
18	南大阪支部	支部長	頓花 修二 古下 政義	商昭54 法平3	nanosai@ocuj.ac.jp nanosai@ocuj.ac.jp
19	北河内支部	支部長	梶 巻 正男 濱中 嘉一	理昭45 創都修平26	kitkani@ocuj.ac.jp kitkani@ocuj.ac.jp
20	神戸支部	支部長	梅村 晋一 竹本 昌弘	法昭55 法昭53	kanbun@ocuj.ac.jp kanbun@ocuj.ac.jp
21	宝塚支部	支部長	原木 文吉	商昭43	taozuka@ocuj.ac.jp
22	姫路しらさぎ支部	支部長	松浦 康裕 吉備 文昭	経昭50 商昭51	himeji@ocuj.ac.jp himeji@ocuj.ac.jp
23	奈良支部	支部長	高橋 敏朗 一柳 茂	営修昭43 商昭49	nara@ocuj.ac.jp nara@ocuj.ac.jp
24	有恒会 和歌山支部	支部長	小佐田 昌計 大岩 宏	法昭43 法昭59	wakayama@ocuj.ac.jp
25	有恒会 岡山支部	支部長	小野 健太郎	商平5	okayama@ocuj.ac.jp
26	有恒会 広島支部	支部長	井上 道 河合 直人	法平3 法平11	hiroshima@ocuj.ac.jp hiroshima@ocuj.ac.jp
27	有恒会 福山支部	支部長	塚本 義政	法昭53	fukuyama@ocuj.ac.jp
28	山口支部	支部長	吉田 慈孝	理修平11	yamaguchi@ocuj.ac.jp
29	山陰支部	支部長	梅林 広志	商昭49	yamaguchi@ocuj.ac.jp
30	香川支部	支部長	高木 孝征	商昭51	kyushuu@ocuj.ac.jp
31	徳島有恒会	支部長	大平 恒己 沢田 久志	経昭41 商平6	tokushima@ocuj.ac.jp tokushima@ocuj.ac.jp
32	愛媛支部	支部長	曲田 清維 浮田 泰昌	生院昭52 経昭54	ehime@ocuj.ac.jp ehime@ocuj.ac.jp
33	福岡支部	支部長	藤本美佐子 棟居 秀信	生昭47 商昭52	fukuoka@ocuj.ac.jp fukuoka@ocuj.ac.jp
34	大分支部				
35	長崎支部	支部長	古河 幹夫 飯田 清親	経昭52 法昭51	long崎@ocuj.ac.jp
36	熊本支部	支部長	鳥飼 香代子	生昭46	kyushuu@ocuj.ac.jp
37	宮崎支部	支部長	橋口 律男	法昭49	kyushuu@ocuj.ac.jp
38	鹿児島支部	会 長 支部長	平田 宗興 中村 俊久	医昭46 商昭47	kyushuu@ocuj.ac.jp kyushuu@ocuj.ac.jp
39	沖縄支部	支部長	天願 勇 目加田 博史	医昭47 商昭53	okinawa@ocuj.ac.jp

海外・支部名	代表者	学部卒年	メールアドレス	海外・支部名	代表者	学部卒年	メールアドレス
上海支部(上海友好会)	奥田 洋一	工平9		シンガポール支部	岸本 亮	工博平21	
台湾支部	田村 圭介	商昭62		ニューヨーク支部	天尾 嘉宏	経昭61	
香港支部	森實 章	法昭55		ホーチミン支部			
バンコク支部	田宮久弥雄	経平13		ジャカルタ支部	津田 俊宏	商昭55	
クアラルンプール支部	沼 裕子	経平7		ハノイ支部			

会員のひろば

クラブOB会



杉本クラブ秋季例会

とき:2020年10月27日(火)

ところ:西日暮里「一合」

お店のコロナ対策の配慮もあって、一人一皿ごとのレシピに舌鼓を打ちながら、焼酎「佐藤」、日本酒「田酒」の山廃仕込みの各一升瓶2本を置いての酒盛りでした。アクリル板だと、声高になると言うことで途中から、その仕切りも外し、エキサイト時には、クールダウンを叫びながらの2時間でした。今回は事前スピーチ原稿の提出形式を採らず、思い思いにステイホームやら、大阪都構想の成り行きやら、弁護士の後藤さんへの質問などで話に花が咲きました。

前田寿雄(商昭49卒)



オンライン「法友40会」(法学部昭和40年入学・44年卒業生中心同期会)開催

とき:2020年11月27日(金)

11月最終週に近畿地区在住者中心に同期会(法友40会)を行っているが、今年は対面での懇親会形式での開催は困難となった。そこで、パソコンによるテレビ会議形式で同期会を試みにやってみようということになった。

同期生は既に高齢者となっているため、事前に概要説明、呼びかけを行い、パソコン同士の接続確認などリハーサルを行った上で「本番」を実施した。

結局、最終参加者は6人(通常は10数人)で、ほぼ1年ぶりの再会だったが、個々人の健康のこと、仕事のことなど近況を伝え合い、結構楽しい時間が持てた。また小林君から市大と府大の合併による新大学「大阪公立大学」の状況、課題などについてもいろいろな情報が得られ、質疑応答、あっという間に時間は過ぎた。

同期会は、やはり対面で食事を摂りながら近況を伝え合い、懇親を深める通常のものが一番だが、新しい様式としての「オンライン同期会」もそれなりに良いな、との印象だった。

植田浩吉(法昭44年)

ミニ語交会Zoom新年会

語交会は、現役時代speech・debate・dramaなどで明け暮れた語学部(「FLD」、今は名称をESSに変更)の同窓会である。



そのうち昭和43~52年卒の有志が年1回大阪で「ミニ語交会」を始めたのが17年前のことだった。ほぼ同時期に活動したメンバーが一堂に会し、お互いの動静や懐かしい昔話を語り合い、心温まる時間を過ごしてきた。

始めた頃は働き盛りで多忙な中、約30人が集まり、同窓会にゴルフとタイトな日程もこなしていたが、東京在住者の増加、退職、高齢化とともに参加者が漸減し、昨年はコロナ禍であった。

しかし、自粛を強いられる中でもチャレンジ精神旺盛なメンバ

ーは昨年10月24日、新しい生活様式を取り入れ、先端ツールZoomを利用して第17回ミニ語交会(12人が参加)、続いて本年1月9日、平均年齢70歳を優に超える24人が参加し、普段着で、安全・安価だが中身の濃い新年会を開催した。

We are connected. 絆を再確認し、再会を約した。

在原 栄(法昭49卒)

物流を通じて豊かな明日に挑戦

 株式会社 杉村 倉庫

杉村グループ: 杉村運輸株式会社
杉村興産株式会社

本 社 : 〒552-0013 大阪市港区福崎1丁目1番57号
Tel. 06-6571-1221 Fax 06-6574-8595
東京事務所: 〒103-0027 東京都中央区日本橋1丁目2番10号
Tel. 03-3272-2441 Fax 03-3272-2446
営 業 所 : 関西圏 4営業所、首都圏 4営業所

ホームページ: <http://www.sugimura-wh.co.jp/>

落楽会のZoom交流会

東西の地に住む市大落研のOBがコロナ禍の環境を逆手にとって今年1月10日、Zoom交流会を企画した。

東京地区では、「杉本クラブ」として四半期ごとの集いを催しているものの、大阪の諸氏とお会いするのは今回が初。まずは、stay・homeの近況を語り、関電勤務経験者が電力需給逼迫から原発への展望を皮切りに賛否議論。鉄鋼商社社長から日本の国力浮沈が論じられ、電気科卒のOBが電気自動車開発の周回遅れを嘆くかと思えば、水道管破裂に四苦八苦した話やら、加齢対策に市民農園通い話などで場は和んだ。

大阪の地元で塾経営の冬団治(芸名)氏からは「命知らずで、この時期もミナミやキタで月2回落研の飲み会をやってますよ」。「有恒」編集責任者の楽珍(芸名)氏からは、全学同窓会と有恒会の解説があった。会は時間超過で盛り上がり、今回の企画MCの鈍浮庵(芸名)氏に謝意。
前田寿雄(商昭49卒)



「つらら会」

「つらら会」は大阪市大機械体操部のOB会です。昭和39～42年入学の仲間で作っています。10数年前から毎年紅葉の秋に夫婦同伴の15人ぐらいで旅行を楽しんでいます。

旅行以外にもゴルフや麻雀などを楽しんでいましたがコロナで全て休止です。そんな中、旅行をキャンセルした昨年6月に幹事の岡本進氏の発案でZoomを使ったパソコンリモート会議を開きました。以来、毎月第3木曜日19時からZoom会議を続けています。

会議は先ず乾杯から始まりその後会員の近況報告です。趣味や孫の話などで多に盛り上がります。幸い病気や薬の話はほとんど出ません。趣味人の杉立彰彦氏による「モンテニュの世界」といった講演会もやりました。年末には忘年会と称して奥様方の参加も得て話が弾みました。差しつ差されつつはありますがマイペースで飲めるのもこの会議の魅力です。半世紀にわたって続いている友情のネットワークにも改めて感慨を覚える次第です。



小林詔三(経昭43卒)

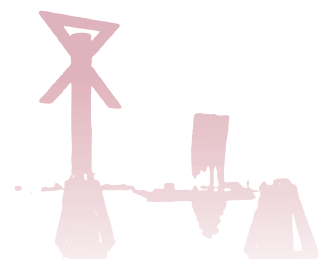
女声コーラス「みおぎ会」解散

みおぎ会は大阪市立大学女声合唱団(創部1952年)の卒業生を中心に結成されました。会員の心の絆から生まれるハーモニーの心地よさを糧に68年間歌い続けてきました。今日まで10数回のコンサートを開催し、市立大学100周年記念コンサート、南澤会合唱団の賛助出演、ボランティア、歌の集いなどの演奏活動を続けてきましたが、2020年11月15日、「みおぎ会フィナーレの集い」を最後に解散しました。



68年間歌い続けることができたのは、結成当初、自宅を練習会場に提供して下さった方、1982年から指揮者・松平季子先生、ピアニスト・岡本佐紀子先生、北野友梨先生のご指導と、たくさんの方々のご協力があったからだと感じております。

女声コーラスみおぎ会
綾部多美(家政昭27卒)





馬術部長歓送迎と馬場改修記念イベント開催

馬術部長の大場文学部教授が定年により退任され、新たに原野文学部准教授が就任されたことによる歓送・歓迎と馬場改修工事完成記念を兼ねたイベントを今年3月29日に開催いたしました。

三つの行事を同時開催するのは馬術部82年の歴史の中で初めてのことです。コロナ禍の中、大学関係者、馬術部OB、現役部員の参加協力のもと、全日本学生馬術大会3年連続出場の馬たちも参加し、両先生へ感謝すると同時に今後の発展を祈念いたしました。

杉蹄会会長 高井紀夫(工昭50卒)



馬術部長の歓送迎と馬場改修記念イベントに参加したメンバー



Cominix

お客様の生産性向上に貢献する高度専門商社

代表取締役社長
柳川 重昌

工学部 応用物理学科 1969年 (S.44) 3月24日卒



株式会社 Cominix

読者の声

『人新世』資本論に知的興奮を覚ゆ!

経済学部大学院准教授の齋藤幸平さんの著書「人新世の『資本論』」が書店で大好評と聞いています。弱冠34歳、気鋭



のマルキストです。大阪市大で学んだ皆さんには大変興味のある内容とも考えます。僭越ですが、私がプライベートの会合向けに寄稿しました内容記事を紹介いたします。コロナ禍の余裕時間でぜひともご購入の上、ご自身での吟味・理解をお勧めします。

若き日の似非(えせ)・マルキストであったK老人の年末の掉尾(とうび)を飾るに相応しいテーマでもある。かの有名な「資本論」の著者である経済学者のカール・マルクス先生は、20世紀後半からは政治経済の論壇においては残念ながら「前世紀の遺物」的な扱いを受けていた。それとともに、マルクス経済学のメッカとまで言われていたK老人の母校の大阪市大経済学部も地盤沈下が著しい様相ともなった。

資本主義の本質的欠陥を鋭く指摘したマルクス経済理論は、一面では社会主義・共産主義の政治的イデオロギーの理論支柱としての存在でもあった。しかし当時の、否、資本主義横溢の現存世界では、大きな時代錯誤として別の形で葬送されていったのである。マルクス先生としてはさぞかし不本意な20世紀の後半以降であったであろう。

そのマルクスの学問的遺志を21世紀に再び呼び戻すべく、敢然・果敢に勇躍している俊英経済学者の著書に出会った。大阪市大経済学部大学院准教授のSさんである。その著書は「人新世(ひとしんせい)の『資本論』」(集英社新

書)。学術論文形式ではなく、一般啓蒙書のスタイルだ。

「人新世」とは何とも聞きなれない言葉であるが、地質学上で名付けられた名前である。英語では「Anthropocene」である。即ち人類の経済活動が地球に与えた影響が余りにも大きく、破壊につながることを憂慮したノーベル化学賞受賞のパウル・クルツェンの命名による。人間たちの活動の痕跡・人工物が地球上を覆い尽くした年代の意味で、もちろんマルクス先生の著書「資本論」には書かれていない単語だ。

この「人新世」の環境破壊の時代、気候変動放置の世代・社会はいずれ野蛮状態に陥ることとなる。それを阻止するためには資本主義の際限なき利潤追求を止めなければならないが、資本主義を捨てた文明に繁栄などありうであろうか。しかしながら、皮肉にもこれまでの経済成長が人類の繁栄の基盤を切り崩しつつあるではないか。このことが若きマルキストS准教授の問題提起である。

当然に著書の結論は「危機の解決策はある」となる。俊英Sさんは、晩年のマルクスの思想にそのヒントがあることを発掘した。分かり易く言えば「脱・経済成長の中での人類と地球・自然との共存」である。1%の富裕層と一握りのエリートのルールに踊らされている社会システムの変革であり、そのためには3.5%の覚醒者の自覚と行動の奮起であると。これまでの「人新世」はいわば「資本・新世」であって、今からが本当の「人(間)新世」だ。資本主義は減速せねばならないと説く。

似非マルキストのK老人は、半世紀ぶりに久しぶりに知的興奮を覚えたが、S准教授の考え方の詳細は、ぜひこの本を購入していただき、自分の頭で思考していただきたいものである。K老人の生半可な解説は入り口だけに留めることにしよう。

余談。20年以上前の外骨(雅号)の句の再掲。「メーデーやマルクス尊師の尾髭骨」

甘田外成(経昭40卒)

齋藤幸平先生の“100分で名著”の最終回を拝聴

齋藤幸平先生の先行共著『未来への大分岐』ではコモンの意味が良く分からなかったが、この最終回を拝聴して、“コモン”の意味が解けた。また、先生の解説するところが良くつかめた。



つまり、修正資本主義のように矛盾を現象的に追い、モグラたたきのように修正していくのではもはや限界である。直面する今の諸矛盾は、資本論に立ち返って根本原因を認識し対応していく必要がある。それには自然、資源や知識の利用を、資本主義的利潤追求から乖離させて考えることだ。国有化イコール非効率、民営化イコール利潤追求(弱者排除)のような二者択一的論理ではなく、資本論の知恵を借りる必要がある。

古典としての資本論は既にそれを社会の共有資産として社会的、民主的管理を促している。そうでないと生産される富は社会的富とはならない。自然、資源、知識は社会の共有財産として扱わなければ、所詮は一部の人たち、資本家の独占物で終わる。

古典、資本論の解き明かす構造的問題をよく見ないと、この資本主義社会にどっぷり浸かったままでは有効な発想はできない、と教えられた気がする。なるほど、適当に修正していけば、ではなく、根本を見て変えないと結局もとの木阿弥だ、とよく理解できた。

さりながら、さて、その現実的制度設計はどうなるのか。大阪都構想が消滅した今、つまり府内にあるものはすべて府民の財産、それをどう民主的に運営し、府民全体の富を増やすか、いまや難波の夢のまた夢となり、頭の中はゴム風船の様です。

北野博也(法昭43卒)

読者の作品



作品名:夕暮れの富士山

作者:頓花修二(商昭54卒)

富士山が好きで出張の途中や旅行でたくさん写真を撮ってきました。

富士山はその周辺の風景とあわせて、四季折々の表情や時間による変化を楽しむことができます。

写真はの中で機中から偶然撮影できたお気に入りの1枚です。夏の日没直前、地上は日が暮れ暗くなっていますが、上空の雲はまだ眩しく光り輝き、雲の間にくっきりと富士山のシルエットが浮かび上がっています。

2017年7月14日18:50に撮影。



作品名:令和3年度 航空レーザ測量による高精度標高データ整備業務(甘美絵地区)

作者:矢橋潤一郎(経平6卒)

新型コロナウイルスに振り回される昨今、疫病退散に効くという妖怪アマビエを、点描で描きました。

札幌・円山にあるギャラリーカフェが企画した「アマビエ作品展」で、2021年2月から3月にかけて展示されました。

札幌にゆかりのある15人によるグループ展です。

絵画のほか切り絵や真鍮など様々で、皆さんアートを生業にしている方ばかり。

私は美術を習ったこともなく、素人感甚だしい。

そこは背景説明で補いました。

私が経営する北海航測は、航空写真測量を生業としています。

道内で唯一、固定翼航空レーザ機を所有しており、東日本大震災など激甚災害では復興のお手伝いをしてきました。

航空レーザは1秒間に200万発のビームを地上に発射し、点群データを取得する技術です。

本作は点群を点描に置き換えた、ということにしました。

背景には当社撮影の航空写真を、図化の前段階状態で配しました。

タイトルも、いかにも公共事業で発注される業務名を付けてみました。

皆様の作品(絵画・写真・書・俳句・アート他)をお待ちしています。
出稿要領は最終頁の出稿規定をご参照ください。

地域から喜ばれ
信頼される病院を目指します



社会医療法人 景岳会 南大阪病院

理事長:柿本祥太郎

院長:福田 隆

内科・消化器内科・循環器内科・外科・整形外科・泌尿器科・人工透析内科・
胸部外科・乳腺外科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科・形成外科・
リハビリテーション科・放射線科・病理診断科

〒559-0012 大阪市住之江区東加賀屋1丁目18番18号

TEL 06-6685-0221 (代) <http://www.minamiosaka.com>

【関連施設】

南大阪病院附属リハビリテーションクリニック・南大阪クリニック(透析・人間ドック)・
南大阪訪問看護ステーション・南大阪ヘルパーステーション・南大阪ハッピーセンター・
南大阪看護専門学校

同窓生の図書紹介

“奇天烈”議会奮闘記

30年間大阪府立高校の社会科教諭を務めました。親の介護を機に早期退職し大学院に入学、社会保障法を専攻し介護保険法を専門としました。その後介護や平和の市民活動に参加し2006年に豊中市長選に立候補、11年無所属の議員として豊中市議会に入りました。

思えば一市民にとって選挙や議会の仕組みは不思議なことばかりでした。奇天烈＝非常に不思議なこと＝という言葉がぴったり!ようやくそれに慣れたころから安保法制、森友問題、教育勅語、道徳教育などの問題が立て続けに起こり、憲法を護ろうという一念で奮闘しました。

一昨年春、75歳を前に引退しましたが、2期8年の記録を公にし、少しでも多くの方に選挙制度や議会の仕組みを知っていただきたい、憲法、政治の在り方、そして女性の地位向上について考えていきたいと思い、本書を執筆し出版にこぎつけました。

(東銀座出版社、2020年9月、1,364円+税)

著者記

熊野以素 (法昭44卒)



スマホで見る阪神淡路大震災 ～災害映像がつむぐ未来への教訓

1995年1月17日、阪神淡路大震災が起きた。スマートフォンなどなかった時代、映像を撮り続けたのはテレビ局だった。貴重な記録を後世に伝えようと朝日放送グループは昨年、取材映像アーカイブをウェブで公開した。本書はこのプロジェクトを主導した私がまとめた、スマホやタブレットで映像を見るための“ガイドブック”である。

「大地震発生」から「再生への動き」まで、折々の記述に必ずQRコードをつけてあり、スマホで読み取れば映像が出てくる。ウェブ公開されている2000クリップから2割弱を抜粋、文字と映像で当時を振り返ることができる。震災当時、災害報道への拒否反応は小さかった。その後、プライバシーや肖像権への配慮が厳しい時代になった。人物が映った映像は使わないような空気が報道現場に広がっているが、都市型災害の記録として貴重な。首都直下地震などが懸念される今こそ、テレビの取材成果を防災に生かしてほしい。

(西日本出版社、2020年12月、1,500円+税)

著者記

木戸崇之 (商平7卒)



そうか、そんな生き方もあったのか!

副題は「一過酷な運命に翻弄された十人の偉人たち」としています。

内外の偉人十人(ソクラテス、菅原道真、レオナルド・ダ・ビンチ、松尾芭蕉、カント、ベートーヴェン、ドストエフスキー、樋口一葉、北原白秋、アインシュタイン)を取り上げ、彼らが何に悩み、どう翻弄され、どう生きたかを伝記風に紹介し、現代から見た筆者の感想を書き添えたものです。

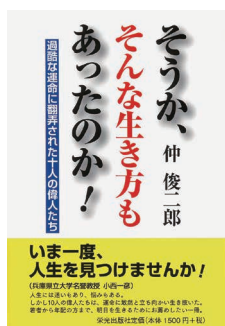
極力専門性を排し、人間の生きかたに焦点を当てています。その意味で伝記であるとともに、人生論、啓蒙書でもあります。

若者のみならず、働き盛りの人や人生の峠を越えた高齢者の皆さんにも読んでいただき、何か生きるヒントを得ていただければと思っています。

(栄光出版社、2020年11月、1,500円+税)

著者記

仲俊二郎 (本名: 仲元俊二 経昭40卒)



ふれる社会学

コロナ禍における様々な社会的、政治的問題、東京オリンピック開催の可否、Black Lives Matter...人々の耳目を集めた現象は、私たちの目の前に突然現れたものではない。これらの問題は以前から存在する社会の仕組みに「ふれる」ことで、より明瞭に理解することが可能となる。本書は社会の仕組みに気づき、それらをより深く読み解くための1冊である。

スマホ、飯テロや観光といった身近なテーマから、経営手法としてのダイバーシティ・マネジメントといった最先端のトレンドまで取り上げつつも、わかりやすく読みやすいをモットーとした社会学の入門書。そして「ハーフ」や外国につながる子どもの困難、フェミニズムの歴史、ジェンダーとセクシュアリティの差異、就活の構造、障害者とその家族の状況、マジョリティとマイノリティの意味など、「わかっているようで実は知らないかもしれない」ことを学び直し、考えるための1冊。好評につき増刷を重ね、刊行後1年経たずに5刷り。さらに学びを深めるためのオンライン版、多数開催のトークイベントにも要注目。

(北樹出版、2019年11月、1,800円+税)

筆者記

ケイン樹里安 (文博平27修)





紀貫之の土佐日記は航海記

西野 恕(商昭34卒)

私は泉南沖をヨットでクルージングしていた時、遠くの山々の下に広がる海岸を見て、白砂青松という言葉が浮かぶとともに、紀貫之のことを思い出しました。彼が土佐の守の任を終えて京へ帰る時、泉南沖を船で通ったことを記憶していたので、「白砂青松を見ながらの船旅であったろう」と思ったのです。

土佐日記には「和泉の灘より小津の泊りを追う 松原目もはるばるなり」、「石津というところの松原はおもしろくて 浜辺とおし」とあります。この時私は「土佐日記の航海記」を書くと、どのようなものになるのだろうと興味をわいてきたのです。私は「土佐日記」に関連する本を多数持っていますが、「土佐日記の文学作品としての良さを一般読者向けに出版したものはない」と思いました。

「土佐日記が航海記である」という視点から、土佐日記が「日本固有の話し言葉・書き言葉による最初の日本文学作品」であることへの世間の周知を期待して書きました。日本文学界に一石を投じることになればと期待しています。

(株式会社リーブル、2020年10月、2,000円+税)

著者記



ジーンの伝言

(138億年のアルケーとテロス)

鎌田 博(法昭48卒)

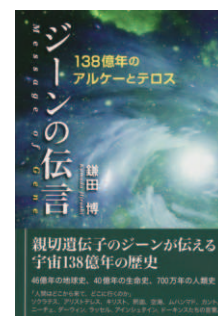
日本を愛する老人が、未来を託す若者に日本の良さを伝えるために書いた書です。大戦後、戦争のない国は世界で8カ国だけで、アジアでは日本とブータンです。それは日本人男性の約40%を持つYAP遺伝子が関係すると言われてています。

YAPは男性の性染色体のY染色体D系統で争いを嫌い、相手を思いやる性質を持ち、別名「親切遺伝子」と言われています。不思議なことに中国や韓国にはほとんど見られません。平和な時代を送った縄文人と特色を同じくします。その根拠を138億年の科学史、哲学史、宗教史によって解き明かす試みです。

アロケーとテロスとはギリシャ語の始まりと終わりです。ジーンとは遺伝子のことです。ジーンが宗教界の釈迦、空海、キリスト、ムハンマド、哲学界のソクラテス、アリストテレス、プラトン、ニーチェ、ラッセル、科学界のアインシュタイン、ドーキンスらの知識を引用し証明します。本書は学術書ではありません。独断もありますが、信憑性に富むと信じて纏めたものです。

(東京図書出版、2018年3月、1,300円+税)

著者記



「主観主義」の哲学

青木育志(法昭46卒)

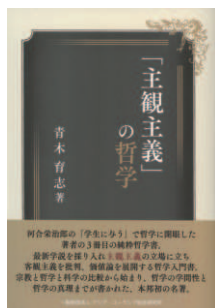
哲学の本には2種類があります。一つは有名な哲学者の説を解説するもので、もう一つは自己独自の哲学説を開陳するものです。本書は後者の本です。

私は哲学の学者ではありませんが、学生時代に読んだ河合栄次郎の『学生に与う』に触発され、哲学に興味を持ち、40歳で哲学書を処女出版しました。本書はその時の哲学アイデアを元に、最新の哲学と科学の知識をも取り入れて、改めて書き直したものです。

私の考えでは哲学は客観主義と主観主義に分かれます。前者は宇宙、地球、人間(すなわち客観)を解釈・説明することをもって哲学とする(プラトン、ヘーゲル、マルクス)のに対して、後者は人間(すなわち主観)から自然に対する行為の妥当性を追求することをもって哲学とします(カント、ラッセル、ポパー)。私は後者の主観主義が正しいと判断し、その正しさを論及したものです。

(アジア・ユーラシア総合研究所、2021年1月、1,600円+税)

著者記



チャレンジ 博士論文

鳥居貞義(商昭34卒)

この論文のテーマは人類学である。著者は「40民族・20年かけて究めました」とのサブタイトルを付けている。

冒頭の総論では著者が永年にわたり調査を行った結果、「指による数え方は超大国といえども近隣諸国の影響を受けない。日本国の文化は2000年以上にわたって中国の影響を受けているが、指で数を数える方法については全く影響がない」と指摘する。

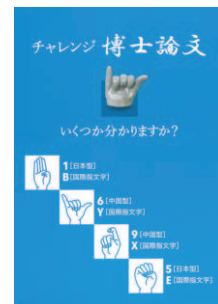
同時に分かり易いイラストにより、各国における具体的な数え方を説明し、それに対する各国大使館や総領事館からの回答、反応も紹介しているが、同時に各国での数え方のイラストや写真も届けられ、掲載している。

さらに「指学問」の個所では脳とのかかわり、右脳と左脳の働きが、日本人と西洋人とでは異なるなどユニークな視点で紹介している。

なお本書は英文版も同時に刊行を行った。

(東和印刷、2020年11月、税込み1,000円)

著者記





出会いに感謝

岸本義明(法昭41卒)

著者は「人それぞれに歩んだ過去がある。元号が変わるのを一つの区切りにして歩んだ過去を振り返り、記録として留めてもいいのではないかと。人生を振り返って一番思うことは『人との出会いに恵まれた』ということ」と執筆の動機を語る。

本書は「生い立ち・疎開から就職まで」に始まり、「南太平洋にける夢」、「出会いと交流が生む信頼と友情」、「地域社会とともに」の4章からなる。著者が永年書き続けた日記をベースに、製材会社に転職して小国サモアに赴任したことや、マレーシアでの合併事業、さらに諸国での要人との出会い、交友など多くの体験談が出てくる。

しかし海外談だけにはとどまらず、住んでいる町の自治会長を経験したことがきっかけとなって町会議員になり、その後市会議員、議長まで勤め上げた話も面白い。人との出会いの素晴らしさを語り、「これまでに流したいろいろな涙の、いくつかでも書き残せば良い」との思いにあふれている。

(文芸春秋企画出版部、2020年10月、1,000円+税)

世瀬義久記(経昭53卒)



トップアスリートの指導者に学ぶ

早川公康(生院平10卒)

本書はトップアスリートに関わる重要な事柄について、実際のトップアスリートの指導者との対談形式で展開されている。

全体では「トップアスリートとは」「選手を指導するとは」「トレーニングのあり方について」「生活・食事について」「競技スポーツと人生」「ジュニア期のあるべき過ごし方」「スポーツの国際化において大事なこと」「未来の指導者へのメッセージ」の8章から構成されており、指導にあたっての考え方や内容、さらにトレーニングのあり方、あるべき栄養サポートまできめ細かく説明を行っている。

スポーツ競技の種類を問わず、各種スポーツ指導者、アスリート、保護者、その他専門家だけでなく、一般人までスポーツに関わる全ての人々に啓発を与える書となっている。

(現代図書、2021年4月、1,500円+税)

著者記



アートって何だろう

訳・中島裕司(法昭55卒)

図鑑や絵本でおなじみの保育社から突然、英国のアート本の翻訳依頼が来ました。原本名は「Art and how it works」。世界各国で翻訳されている人気本です。私は学校でずっと英語と美術を教えてきていて、ある意味適役と思えました。

この本の副題は『子どものためのアート入門』ですが、読んでみると子どもだけでなく一般の方もすごく興味深く読めるのと、カラフルな図鑑や絵本のような装丁で飽きません。どのページからでも読めて羅列もバラバラ感はありませんが、読破すれば統一されたアートの一般的な知識や教養が身に着くようになっています。面白いので一気に読んで翻訳しました。その後、何回も何回も推敲を重ねて完成しました。

アートは人間の根幹です。学校や図書館をターゲットにしているので、3000円と少し高いように思えますが、1回のコンサートチケット代金、少し高いランチ代と思えば一生傍に置いてアートの楽しみが分る本です。

(保育社、2021年5月、3,000円+税)

訳者記



泉佐野市税務課長975日の戦い

竹森 知(経昭58卒)

泉佐野市の財政はかつて破綻寸前だった。そこへ関西空港連絡橋の国有化があった。突然の暴挙に、泉佐野市は橋に通行税を課すという苦肉の策(愚挙)を打ち出す。本書は市の存亡を賭けて国と闘った、ある地方公務員のドキュメントである。

近年、泉佐野市はふるさと納税で総額870億円も集めた。国は恥も外聞もかなく捨て、泉佐野市を制度から締め出した。

愚挙だ。市は国を訴え、令和2年6月最高裁で逆転勝利した。国に付度しない自治体にみんな開いた口がふさがらない。

市の愚挙は歴史的珍事になり、恥を捨てた国は赤っ恥をかく羽目になった。「新しいことは無理難題から」という言葉は自治体にもあてはまる。今や泉佐野市は特産品「熟成肉」の創出に取り組んでいる。

千代松大耕・泉佐野市長は『「関空の連絡橋に税金をかける』。多くの人たちから「絶対に無理」だと、笑われてきたことをやり遂げてくれました。泉佐野市は、利用税の実現によって、V字回復していきます。このキセキ(奇跡・軌跡)をぜひお読みください」との推薦の言葉を寄せている。

(2021年6月、文芸社、1,500円+税)

著者記



医療法人 福寿会

かねむら歯科医院

理事長 金村 福寿
歯学博士

大阪市立大学 有恒会 副会長
大阪市立大学 同窓会 大阪南支部 支部長
(大阪市立大学商学部昭和56年卒)
(朝日大学歯学部卒)

大阪歯科大学 元非常勤講師
明海大学歯学部 元非常勤講師
日本老年歯科医学会 専門医・指導医

専務理事	金村	光野
歯学博士	金村	直子
歯学博士	金村	優吾
医学博士	金村	晋吾
歯科医師	金村	裕貴
医学博士	金村	英利子
理事	金村	舜
理事	金村	寿之佑

〒544-0004 大阪市生野区巽北2丁目 17-15

Tel.06-6752-8148
ゴーツー ハイシャ

(介護予防) 特定施設入居者生活介護 サービス付き高齢者向け住宅 福寿

“安全安心な介護で笑顔の福寿”

ゆったりとした「二人部屋」もございます。

———ご夫婦で自由に、都会生活を楽しみませんか。

看護師常駐



〒544-0004 大阪市生野区巽北2丁目 13-14

Tel.06-6752-2910
ふくじゅ

化学で
未来を
変えるの

DAICEL

ダイセル

株式会社ダイセル

大阪本社 〒530-0011
東京本社 〒108-8230

大阪市北区大深町3-1
東京都港区港南 2-18-1

グランフロント大阪 タワーB
JR品川イーストビル

TEL06-7639-7171
TEL03-6711-8111

追悼のことば



大阪市立大学商学部名誉教授 山形休司先生を偲んで 「美しい人生／ひとすじの途(みち)」

山形ゼミOB会幹事 大西基勝(商昭52卒)



山形先生は、1953(昭和28)年大阪市立大学商学部を卒業され、市大大学院に進み、会計学の権威、木村和三郎先生に師事され、当時の木村ゼミ学生も指導されながら山形ゼミを興されました。1972年には、商学部教授となられ、のちに1986年より3年間は、税理士試験委員も務められました。

1992年に、山形先生が市大を退官(のち、帝塚山大学経営情報学部初代学部長に就任)の際に、「ひとすじの途—山形先生人と学説」誌を発刊し、約450人のご参加を得た南海サウスタワーホテルでの「退官記念パーティ」で引出物として配布し、のちの「叙勲をお祝いする会」(2017年/ホテルリッツカールトン大阪)と合わせ、朝日放送(株)、三代澤康司氏(商昭59卒、一ノ瀬ゼミ)の司会で盛大にお祝いでき、先生にも喜んでいただけました。

山形先生のご趣味は、旅行、写真撮影(Nikon一眼レフ)、スキー、ゴルフ、グルメで、学生の面倒見も良く、スキー部、ゴルフ部、アイセック、少林寺拳法部、簿記会計研究会の顧問を長く務められ、アルコールは全くダメなお方でしたが、必ずクラブの新歓コンパや忘年会には、快くご出席いただいております。

山形先生は、私たちゼミ卒業生とのゴルフが一番の楽しみ・健康法だったようで、ゴルフでは毎年(春・秋)年2回のゴルフ会(山形会)には、先生は第1回から、86歳で引退される第60回大会まで30年間皆出席していただき、その健脚ぶりには皆、圧倒されました(今秋で山形会ゴルフは第70回大会を迎えます)。

山形先生は、この著書にも書いて、常に語られてきたことですが、一名もなく、貧しく、一隅を照らすにすぎない旅路であったとはいえ、「美しく」誠実に旅してきたつもりである。研究生活を志した時、「せせらぎの流れにも似て、唯一途学びの道を極めむと思う」と誓った一。

最期に先生は「とても良い人生を送らせていただいた」との思いを胸に、90歳で安らかに旅立たれました。まさに、「美しい人生／ひとすじの途」を歩んでこられたこと、謹んでご冥福をお祈り致します。

皆に迷惑、心配をかけまいとされる山形先生の「皆に知らせるな。お葬式をするな」という強いご遺志により、市大関係の皆様方には、先生ご逝去のご報告が遅くなりましたこと、どうぞ、山形先生のご遺志をご理解のうえ、お許しください。

これまでの山形先生の人生を長らく陰で支えてこられました、先生の奥様：山形節子様には、私たち弟子として、感謝の念でいっぱいです。これからもずっと私たちと「山形ゼミ」を楽しんでいきましょう。

(令和2年11月11日ご逝去)



江並一嘉先輩のご逝去を悼む

高橋敏朗(営修昭43修)



先輩は1957年3月に本学の商学部を卒業し、近畿日本鉄道に入社されました。最初から鉄道畑ではなく、百貨店ビジネスの分野に配属され、その後の努力の甲斐あって頭角を現されました。

旗艦店であるアベノ店や上本町店のみの体制から周囲にローカル店舗を配置する戦略展開として、奈良橿原店の新規開設(1983年)や奈良西大寺での奈良店開発準備に代表として関わられました。当時が先輩の最も輝いて見えた時期でした。

1989年に常務、91年に専務、93年には代表取締役副社長に就任されています。2000年5月に退社されるまで、その生涯の大半を百貨店業務に捧げられました。

流通業分野の中で、百貨店の地位がスーパーに、さらにそのスーパーさえもコンビニに奪われていく激動の状況を深く嘆かれ、その最大の原因を商品仕入れのリスクを取らず、売れ残れば返品可能な、いわば売場賃業に陥ったことを深刻に認識されておられました。ほとんどの百貨店業界が自らのバイヤーを育てられなかったのです。

退社後は社会活動を通じたボランティアとして活動されました。公益財団法人関西・大阪21世紀協会での活動や大阪ユニセフ協会、そしてNPO法人奈良21世紀フォーラムなどです。同フォーラムでは「奈良企業人列伝—奈良に息づく風土産業—」の出版事業などを担当されました。

その間、1990年頃の母校同窓会奈良支部設立準備に貢献され、その後の支部活動には、しばしばご夫婦で参加されてこられました。

私は先輩と同じ商学部の伊藤淳巳先生の下で経営学を学び、恩師の還暦、古希パーティーなどでご一緒させていただきました。叙勲パーティーの終了後、伊藤先生が若かりし頃、「中央権力に対しても批判的精神をもて」と学生たちに諭しておられた先生が、政府からの勲章を受けられたのは何故ですか、と直言されるなど思ったことを「ずばり」発言されるタイプ

の人でした。

奈良支部活動でもいろいろご助言をいただきました。2015年、私ども後輩3人と江並さんの4人が箱根温泉に2泊逗留し、岡田美術館、ガラスの森美術館などを見学した夜に、宿舎で共に飲み語らったことを鮮明に想い出します。

亡くられる直前まで木津川市にある閑静なご自宅の庭の植栽をしばしば手入れされていたと奥様から伺っております。謹んで哀悼の意を表します。合掌。

(令和3年1月31日ご逝去)

島圖君また会えるでしょう — 楽しかった学生時代

山本榮三(商昭32卒)



年賀状は来ない、携帯は返事がない、どうしているかなと思っていた矢先、息子さんから島圖君が亡くなったという連絡を受けました。明星を卒業し、商学部では同じ木村ゼミだった。講義の帰りにはよくアベノの喫茶店「富士屋」でコーヒーを飲むか、書店「ユーゴ」へ寄った。たまにゲルのある時はアベノ交差点角の中華料理店でビールと豚まん

を満喫した。(ゲルとは当時のことばでお金のこと)。

ボート祭の練習では、明星グループ仲間とともに、ポンポン蒸気が航行していた大川を中之島辺りまで下って行った。梅の季節には月ヶ瀬まで行き、雪の降る素晴らしい景色を味わった。

八尾のお宅にもよくお邪魔させていただき、上品な優しいお母さんのご馳走をよばれて、進駐軍のPXで買われたオートプレイヤーでLP盤を聴かせてもらった。ベートーヴェンのピアノ・コンチェルトNo5がとてもよかった。今でも青春が蘇ってくる曲である。

卒業の思い出にと日光へ旅行に出かけたが、晩秋の奥日光戦場ヶ原辺りは思いのほか人も少なく寂しかった。卒業後は、島圖君は江商に入り、暫くして家業を継がれた。僕は福助足袋に入ったが、この世の荒波であった。そのような時でも、時々会って四方山話をして、楽しい時間を過ごした。俳人で良妻賢母の奥さんとMITに留学した優秀な息子さんにも恵まれ、晩年は「燦」というコーススに入って楽しんでおられた。

紙面には書き尽くせないほどの楽しい思い出があり、いつの間にか70年近くが過ぎ去ってしまいました。心から天国での平安をお祈りいたします。

(令和3年2月26日ご逝去)

謹んでご冥福をお祈りいたします(敬称略)

物故者氏名	学部卒年	逝去月日	物故者氏名	学部卒年	逝去月日
清水 薫	西華昭11		清水 正和	文昭34	令和02年08月23日
青田 良子	西華昭18		南 直昌	経昭35	令和02年12月01日
松浦 金太郎	学昭22	令和02年10月12日	米田 直也	法昭35	令和02年04月
佐藤 一郎	高昭22	令和02年11月07日	井上 知三	商昭37	令和02年10月23日
村上 豊	学昭27	平成31年03月	肥塚 文博	経昭37	令和02年10月22日
山口 延泰	経昭28	令和02年10月13日	野崎 充亮	経昭37	令和02年11月25日
奈須 真璃子	生昭28		日名子 晃三郎	経昭38	令和01年07月30日
小森 茂	商昭29	令和02年07月25日	小林 良知	商昭40	平成31年03月11日
波多野 繁男	商昭29	令和03年02月24日	山下 雅洋	経昭40	令和02年11月06日
壁谷 卓	経昭30	令和02年08月24日	宮高 智彦	商昭42	令和02年03月
福岡 正祐	商昭31	令和02年09月18日	東田 雅勝	商昭42	令和02年11月
山形 休司	営修昭31	令和02年11月11日	渡邊 尚年	経昭42	令和03年04月15日
古賀 仁	経昭31	令和02年12月01日	田中 利治	商昭43	令和02年
扇 貞行	経昭31	令和03年01月27日	辻 幹彦	経昭43	令和02年10月24日
小西 英雄	商昭32	令和02年05月18日	堀江 睦寿	経昭44	令和02年09月28日
竹川 卓志	商昭32	令和02年10月10日	宮田 菊俊	文昭49	令和02年
江並 一嘉	商昭32	令和03年01月31日	村山 一郎	商昭50	令和02年03月06日
島圖 康夫	商昭32	令和03年02月26日	白石 研二	法昭52	令和02年07月26日
木村 泰蔵	経昭32	令和03年01月04日	松川 貴彦	経昭55	
深田 道	経昭32	令和03年02月20日	鈴木 宏章	経昭56	令和02年12月22日
神崎 洋	経昭32		澤野 博之	経昭62	
福田 雅子	生昭32		藤野 祐子	生昭63	
肥塚 博嗣	商昭33	令和02年09月04日	松村 豊	商平01	令和02年08月25日
中村 一男	法昭33	平成30年04月	衣川 綾子		
高瀬 昌弥	経昭34	令和02年10月04日	高原 健	法昭33	令和3年4月16日



会報「有恒」以外にも
情報発信のチャンネルが
あります

全学同窓会ホームページ

全学同窓会・各同窓会・大学の行事予定・活動内容及び支部・会員や在学生の動向など最新情報が、全学同窓会ホームページから閲覧できます。全学同窓会HPから、有恒会(文系同窓会)、理学部同窓会、工学部同窓会、医学部同窓会、生活科学部同窓会、よつば会(看護系同窓会)など各同窓会HPへ進むことができます。大阪市立大学同窓会で検索、

大阪市立大学同窓会(全学同窓会)



または<https://www.osaka-cu.net/>まで。

メールマガジン

全学同窓会HPの内容を抜粋したもの、大学広報室提供の最新情報をまとめて、月1回15日に配信中です。メールマガジン配信ご希望の方は、全学同窓会HPトップページの右上欄「メルマガ配信希望」からお申込みください。

フェイスブック／ツイッター

ホームページやメールマガジンだけでなく、日々更新されているフェイスブックやツイッターもやっています。こちらはタイムリーな話題が満載です。検索ワードは、こちらも「大阪市立大学同窓会」です。



フェイスブック
QRコード

One Stop Company

多品種・小口・短納期を核とする鋼材加工製品のワンストップカンパニー

すばる鋼材株式会社

本社 〒556-0017 大阪府浪速区湊町1丁目4番38号 近鉄新難波ビル11階
TEL.06-6635-2330(代) FAX.06-6635-2340
大正倉庫 〒551-0002 大阪府大正区三軒家東3丁目11番31号
TEL.06-6552-1427 FAX.06-6552-9902
関東支店 〒372-0814 群馬県伊勢崎市田中町1059番3号
阪和興業株式会社北関東支店内
TEL.0270-61-7901 FAX.0270-61-7904
九州営業所 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目19番24号
大博センタービル4階 阪和興業株式会社九州支社内
TEL.092-471-7539 FAX.092-471-7019
URL: <http://www.subarusteel.co.jp> E-mail: info@subarusteel.co.jp

美術印刷・企画デザイン・フォト **NP**

ご提案・創造それが私共の商品です。
Presentation & Creation

株式会社 日本プリンティング

代表取締役 大西基勝 (商昭52卒)

〒537-0002
大阪市東成区深江南2丁目13番17号
TEL (06) 6981-5566 FAX (06) 6981-5083
<http://www.nihonprinting.co.jp>



不動産業

名古屋三交ビル
2020.4.24 オープン



貸切デラックスバス「浪漫II」



貸切バス「DREAMシリーズ」



三重交通 路線バス

Mie Kotsu Group

三重交通グループは、
安全、安心、安定、快適な
サービスの提供を目指します。



流通業

東急ハンズ名古屋店
(三交クリエイティブ・ライフがFCで展開)



レジャー
サービス業

御在所ロープウェイ

鳥羽シーサイドホテル

三交イン京都八条口

- 運輸業 三重交通株式会社 名阪近鉄バス株式会社 三交伊勢志摩交通株式会社 三重急行自動車株式会社 八風バス株式会社 株式会社三交タクシー
- 不動産業 三交不動産株式会社 株式会社三交コミュニティ 株式会社三交不動産鑑定所
- 流通業 三重交通商事株式会社 株式会社三交クリエイティブ・ライフ 株式会社三交シーエルトゥー 三重いすゞ自動車株式会社
- レジャー・サービス業 株式会社三交イン 鳥羽シーサイドホテル株式会社 三交興業株式会社 御在所ロープウェイ株式会社 株式会社三重カンツリークラブ 株式会社松阪カントリークラブ 名阪近鉄旅行株式会社 株式会社三交ドライブングスクール ミドリサービス株式会社 三交ウェルフェア株式会社 三重県観光開発株式会社

三重交通グループホールディングス株式会社

〒514-0032 三重県津市中央1番1号 <https://holdings.sanco.co.jp>

掲載広告一覧

阪和興業(株) 表2
 大陽日酸(株) P13
 税理士法人西野会計事務所 P13
 大小路法律事務所 P20
 (株)駒井ハルテック P20
 山口法律会計事務所 P25
 森下会計事務所 P33
 弁護士法人中央総合法律事務所 P37
 (株)京都銀行 P45
 サンクリエイテム工業(株) P46
 協和綜合法律事務所 P47
 ツカキグループ P47
 小野薬品工業(株) P49
 (株)杉村倉庫 P51
 (株)Cominix P53
 社会医療法人景岳会 南大阪病院 P55
 医療法人福寿会 P59
 (株)ダイセル P59
 すばる鋼材(株) P62
 (株)日本プリンティング P62
 三重交通グループホールディングス(株) P62
 (株)アシックス P63

オリエンタル白石(株) 表3
 ニシムラ(株) 表3
 (株)ブライダル 表4

会報広告料金表 (消費税込み)

全ページ W181×H260(単位:mm)	
記事中(カラー)	180,000円
表4(カラー)	230,000円
表2(カラー)	220,000円
表3(カラー)	200,000円
半ページ W181×H130(単位:mm)	
記事中(カラー)	90,000円
1/4ページ W181×H68・W86×H130(単位:mm)	
記事中(カラー)	50,000円
1/8ページ W86×H68(単位:mm)	
記事中(カラー)	25,000円

※本件についてのお問い合わせ
 大阪市立大学同窓会 会報誌編集委員会 広告担当:吉原(商昭49卒)
 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
 Tel:06-6605-2113 Fax:06-6605-2088



ASICS
 RUNNING



直営店情報はこちら



Tao Tsuchiya

全学同窓会報誌 投稿規定

1. 投稿の種類等

原稿には、執筆者の氏名・学部・卒業年次、住所を明記して投稿をお願いします。

種類	説明やお願い等	字数
1 論壇・随想	「表題」は付けて下さい。(関連及び顔写真)	1,200字以内
2 同窓短信	近況や思い出など。(顔写真)	400字以内
3 支部だより	支部関係の活動や諸行事。(関連写真)	400字以内
4 会員の広場	同期会、ゼミ研究科OBOG会、クラブOBOG会、同好会等の諸行事。(関連写真)	400字以内
5 図書紹介	原則、会員および大学関係者に限ります。紹介する図書1部のご提供をお願いします。	400字以内
6 追悼のこぼ	故人の思い出など。(故人の顔写真)	400字以内
7 読者の声・作品	読者のご意見・読者の作品(絵画・写真・書・俳句・アート等)。(顔写真)	400字以内

※「図書紹介」を除き、原稿には原則として写真の添付をお願いします。

2. 原稿と写真等の採否および加筆・修正・削除など

- (1)原稿および写真等は、編集委員会に一任をお願いします。
- (2)原稿の字数は厳守をお願いします。オーバーした場合は、削除する場合があります。
なお、支部だより、会員のひろばへの投稿はHPにて全文掲載します。

3. 原稿の作成、提供と掲載について

- (1)原稿及び写真は出来る限りメールにてお願いします。
写真ファイル(.jpg)をメール添付にて送信してください。
- (2)個人情報保護のため、詳細な住所は同窓会報誌に掲載しません。
- (3)参加者(「支部だより」と「会員の広場」)の「氏名・学部・卒業年次」はスペースの関係で同窓会報誌には代表者のみ掲載し、全員の情報はHPにて掲載します。

4. 原稿の締め切り

- (1)1月発行・・・9月末日締め切り
- (2)7月発行・・・3月末日締め切り

5. 投稿方法と投稿先

- (1)メールアドレス
kaiho-b@ado.osaka-cu.ac.jp (会報誌専用)
- (2)郵便

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪市立大学内 田中記念館3階
大阪市立大学同窓会 会報誌編集委員会宛

お詫びと訂正

前号にて下記誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

- 同窓生の図書紹介「北海道200年構想」
久保信彦氏の卒年(商昭30卒)→(商昭35卒)

編集委員 (〇印編集責任者)

奥山正昭 (経昭44卒)	吉原純一 (商昭49卒)	世瀬義久 (経昭53卒)
〇小林俊介 (法昭44卒)	竹中敏実 (経昭49卒)	村上芳子 (商昭58卒)
田中祐尾 (医昭44卒)	谷口美樹子 (生昭50卒)	辻野美由紀 (看院平22修)
曾我部健 (理昭45卒)	藤山純一 (法昭51卒)	中村祐子 (文平27卒)
山本 孝 (工昭45卒)	亀梨祐司 (商昭52卒)	安藤根八 (創院平30修)
野田忠男 (工昭45卒)	上村修三 (商昭53卒)	

編集後記

表紙は、初代同窓会長(1890年)、伊庭貞剛翁の晩年の別荘、大津にある「住友活機園」。往時を偲ぶとともに、来春の新大学開学に思いを馳せたいと思います。新しいロゴマークや英文名も決まり、それぞれの同窓会やクラブOB会でも統合に向けての動きが活発になってきています。

今号では市大―府大の全学の同窓会長同士の対談をはじめ、体育会系OB会の統合に向けての座談会を企画しました。統合名をはじめ、活動内容や会費など、検討事項が山積みですが、同窓会として力を合わせ新大学のバックアップを全面に押し出していきます。一方、市大としては最後の年、ラスト市大の記念行事が行われる予定ですが、コロナ禍が繰り返し襲ってきているため、早く克服して日常の大学を取り戻したいものです。

昨春以来のコロナ禍で総会もほとんど開催できなかった各地区同窓会ですが、リモートの活用により、国内遠隔支部のみならず従来顔合わせもできなかった海外支部とも顔を見ながらの地区ブロック会議や支部代表者会議を行うことができ、情報交換がある程度できたと感じています。

同窓会の情報発信は本会報誌だけでなく、他のデジタル媒体―ホームページ・メールマガジン・フェイスブック・ツイッター等でも常時発信しています。今後とも同窓生の活発な投稿・情報提供をよろしくお願いします。

(編集人)

Straight to the Future



角島大橋(山口県)

 **オリエンタル白石株式会社** www.orsc.co.jp

〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目6番52号
TEL: 03-6220-0630 (代表) FAX: 03-6220-0634

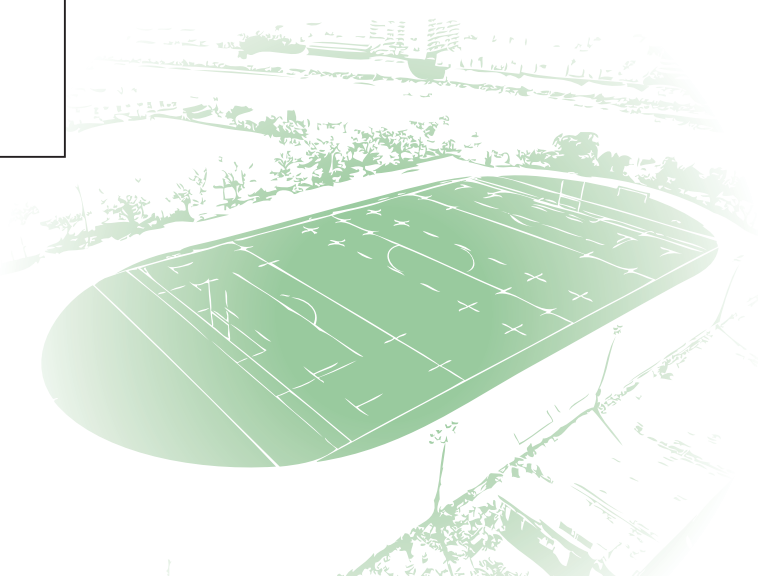
明日を拓く、先進の電設資材



ニシムラ株式会社

代表取締役会長 蔵岡一彦
(昭和40年 経済学部)

本社 / 〒601-8104 京都市南区上鳥羽角田町32
TEL: 075-681-2331 FAX: 075-671-1041
営業所: 京都府6 滋賀県5 東京都1 愛知県1 大阪府1
<http://www.nsmr.co.jp>



(株)ブライダルは
大阪市立大学校友の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

43年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、「大阪市立大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この同窓会報を見たとおっしゃてくだされば、校友の皆様は特典付(登録料100%OFF)にてご入会いただけます。

大阪市立大コース **登録料**
100%OFF

ブライダルコース
¥253,000 ▶ ¥220,000 etc.*

エクセレントコース
¥418,000 ▶ ¥385,000 etc.*

※ 価格は会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

詳しくはホームページをご覧ください。

(株)ブライダル

検索



ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>



1978年創業

株式会社

ブライダル

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F

名古屋本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F